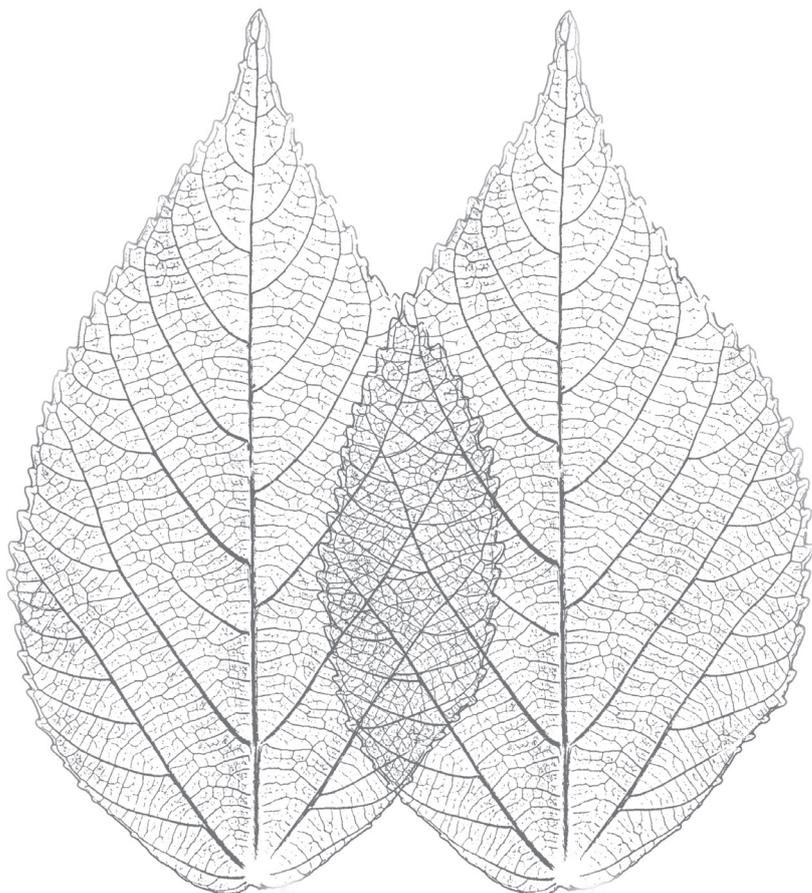


# 人環レビュー

教育・研究活動の自己評価

資料編

2017



# ●目次

目次	—	1	【資料 1-4】 総合人間学部 教員構成	12
人間・環境学研究科 教育研究上の目的と方針	—	3	【資料 1-5】 管理運営組織	13
人間・環境学研究科 教育研究上の目的		3	【資料 1-6】 委員会組織	14
人間・環境学研究科 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)		3	【資料 1-7】 教員数の推移	15
人間・環境学研究科 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)		4	【資料 1-8】 教員の年齢・性別構成	17
人間・環境学研究科 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)		4	【資料 1-9】 授業科目の担当状況	17
人間・環境学研究科 学位授与基準		4	【資料 1-10】 事務職員及び技術職員の配置状況	17
総合人間学部 教育研究上の目的と方針	—	5	<b>2. 総合人間学部</b>	<b>— 18</b>
総合人間学部 教育研究上の目的		5	【資料 2-1】 学生数の推移	19
総合人間学部 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)		5	【資料 2-2】 入学状況	19
総合人間学部 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)		5	【資料 2-3】 編入学生の受入状況	19
総合人間学部 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)		5	【資料 2-4】 転学部の状況	20
沿革	—	6	【資料 2-5】 留年・休学・退学の状況	20
歴代総合人間学部長・人間・環境学研究科長		7	【資料 2-6】 分属の状況	20
<b>1. 研究教育体制</b>	—	<b>8</b>	【資料 2-7】 各学系の授業形態	21
【資料 1-1】 研究教育組織		9	【資料 2-8】 授業形態別履修者数	21
【資料 1-2】 他部局ならびに学外諸機関との協力体制		10	【資料 2-9】 総人ゼミの開講状況	21
【資料 1-3】 人間・環境学研究科 教員構成		11	【資料 2-10】 他学部聴講の状況	21
			【資料 2-11】 単位互換制度の利用状況	22
			【資料 2-12】 入学前既修得単位の認定状況	22
			【資料 2-13】 成績評価の方法	22
			【資料 2-14】 全学共通科目の開講コマ数 (平成 29 年度)	23
			【資料 2-15】 標準修業年限内卒業率と 「標準修業年限×1.5」年内卒業率	23
			【資料 2-16】 主専攻・副専攻の文理分布	23
			【資料 2-17】 「研究を他者に語る」実施アンケート (平成 28 年度)	24
			【資料 2-18】 資格取得状況	25
			【資料 2-19】 卒業生の進路	25
			【資料 2-20】 就職状況	26
			【資料 2-21】 奨学金制度・免除制度の採用状況	27
			<b>3. 人間・環境学研究科</b>	<b>— 28</b>
			【資料 3-1】 人間・環境学研究科 学生数の推移	29
			【資料 3-2】 修士課程 入学状況	29
			【資料 3-3】 博士後期課程 進学・編入学状況	29
			【資料 3-4】 修士課程 留学生・社会人の入学状況	29
			【資料 3-5】 博士後期課程 留学生・社会人の進学・入学状況	30
			【資料 3-6】 留年・休学・退学の状況	30
			【資料 3-7】 研究生在籍数	30
			【資料 3-8】 修士課程 開設科目数	31
			【資料 3-9】 他研究科への聴講の状況	31
			【資料 3-10】 単位互換制度の利用状況	31
			【資料 3-11】 入学前既修得単位の認定状況	31
			【資料 3-12】 TA 採用状況	31



【資料 3-13】 TA 運用状況	32
【資料 3-14】 RA 採用状況	32
【資料 3-15】 成績評価の方法	32
【資料 3-16】 修士課程 単位修得状況	33
【資料 3-17】 修士課程 学位授与の状況	33
【資料 3-18】 修士課程 標準修業年限内修了率と 「標準修業年限×1.5」年内修了率	33
【資料 3-19】 修士課程修了者の進路	33
【資料 3-20】 修士課程修了者の就職状況	34
【資料 3-21】 博士後期課程 学位授与の状況	35
【資料 3-22】 博士後期課程 講座別学位授与の状況	35
【資料 3-23】 博士後期課程 標準修業年限内修了率と 「標準修業年限×1.5」年内修了率	36
【資料 3-24】 博士後期課程修了者・研究指導認定退学者の進路	36
【資料 3-25】 博士後期課程修了者・研究指導認定退学者の 就職状況	36
【資料 3-26】 教員免許状資格取得状況	37
【資料 3-27】 日本学術振興会特別研究員への採用状況	37
【資料 3-28】 奨学金制度と免除制度の採用状況	37
<b>4. 教育研究指導</b>	<b>— 38</b>
【資料 4-1】 ガイダンスについて	39
【資料 4-2】 学習指導方法の工夫	40
【資料 4-3】 授業時間外の学習を促す工夫	41
【資料 4-4】 基礎学力不足の学部学生への配慮	42
【資料 4-5】 研究教育上の目的やディプロマ・ポリシーを意識 した学習方法の工夫・成績評価の観点（基準）	42
【資料 4-6】 大学院生の学会発表者数	43
【資料 4-7】 学会への参加を促す取組み	43
【資料 4-8】 他大学・公的機関および企業との共同研究の件数	43
【資料 4-9】 他大学・公的研究機関の共同利用施設・設備の 利用に関わる研究課題採択数	44
【資料 4-10】 部局内及び部局を構成する学内外研究機関との 共同研究	45
【資料 4-11】 学際教育研究部の活動	46
【資料 4-12】 外部資金等の受入状況	47
【資料 4-13】 学生・修了生が獲得した助成金等	48
【資料 4-14】 人文・社会系若手研究者出版助成による 出版物（平成 28 年度）	49
【資料 4-15】 学生・修了生の受賞状況	50
【資料 4-16】 学生の論文掲載数	51
【資料 4-17】 メディアに取り上げられた 学生・修了生について	51
【資料 4-18】 教育コンテンツ等の作成について	51
【資料 4-19】 学生相談室の利用件数	53

<b>5. 国際交流</b>	<b>— 54</b>
【資料 5-1】 外国人留学生受入数の推移（総合人間学部）	55
【資料 5-2】 外国へ留学等をした学生数の推移（総合人間学部）	55
【資料 5-3】 外国人留学生受入数の推移（人間・環境学研究科）	55
【資料 5-4】 出身地域別留学生受入数（人間・環境学研究科）	56
【資料 5-5】 外国人研究者等受入数の推移	57
【資料 5-6】 招へい外国人学者による国際交流セミナー 開催状況	57
【資料 5-7】 部局間学術交流協定締結先一覧	57
<b>6. 施設・設備</b>	<b>— 58</b>
【資料 6-1】 使用目的別 室数と保有面積	59
【資料 6-2】 使用形態別 室数と保有面積	59
【資料 6-3】 吉田南総合図書館について	60
<b>7. 社会との交流・公開</b>	<b>— 62</b>
【資料 7-1】 公開講座	63
【資料 7-2】 総合人間学部オープンキャンパス開催状況	64
【資料 7-3】 本研究科関係発行元による学術誌	65
【資料 7-4】 アウトリーチ活動について	65
<b>8. 各種アンケート調査</b>	<b>— 66</b>
【資料 8-1】 総合人間学部 人間・環境学研究科 授業評価アンケート（平成 28・29 年度実施）	67
【資料 8-2】 総合人間学部 在学生・卒業生アンケート	68
【資料 8-3】 人間・環境学研究科 修士課程 M2 学生アンケート	73
【資料 8-4】 人間・環境学研究科 修士課程修了時アンケート	75
【資料 8-5】 総合人間学部・人間・環境学研究科同窓生 アンケート（平成 24 年度実施）	77
【資料 8-6】 総合人間学部 卒業生対象アンケート （平成 29 年 3 月実施）	78
【資料 8-7】 人間・環境学研究科 修了生対象アンケート （平成 29 年 10 月実施）	79
【資料 8-8】 「社会が見た京都大学総合人間学部・大学院人間・ 環境学研究科」アンケート調査 （平成 27 年度実施）	80
【資料 8-9】 総合人間学部入学者出身高校へのアンケート調査 （平成 28 年度実施）	82

## ● 人間・環境学研究科 教育研究上の目的と方針

### 人間・環境学研究科 教育研究上の目的

人間・環境学研究科は、環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の連携を通じて、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深めるとともに、人間と環境のよりよい関係を構築するための新たな文明観、自然観の創出に役立つ学術研究を推進することを目指す。また、こうした研究活動を推進するなかで、人間及び環境の問題に対して広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成することを目的とする。

### <共生人間学専攻>

共生人間学専攻では、「人間相互の共生」という視点に立ち、人間と環境の相関関係において人間の根源を探求しつつ、現代社会の具体的諸課題に取り組み、社会的要請に柔軟に応えられる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

### <共生文明学専攻>

共生文明学専攻では、共生・融和の可能性を追求するため、多様な文明の間にみられる対立・相克の構造を解明するとともに、歴史・社会・文化の諸相にわたって複雑にからみあう文明の諸問題に新たな見地から取り組み、解決の方向性を示すことのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

### <相関環境学専攻>

相関環境学専攻では、人間と自然環境の関わりを包括的に理解することを目指した基礎研究を展開するとともに、自然と人間の調和を図るために必要な新しい社会システムの確立に、高度な見識と科学的・論理的判断力をもって貢献することのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

### 人間・環境学研究科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

現代の科学・技術は、人間の可能性を限りなく押し広げてきた反面、地球環境問題、エネルギー問題、地域紛争、富の地域間格差等の諸問題を次第に顕在化させ、グローバル化の波とあいまって、わたしたちに新たな課題をつきつけています。大学院人間・環境学研究科は、こうした新たな問題群に立ち向かい、地球規模での危機的状況を打開・克服するために、これまでの知の蓄積を踏まえつつ、新たな知のパラダイムを構築することのできる人を求めています。

人間・環境学研究科への入学を希望する人に求めるものは、下記に示す資質・能力です。

- (1) 特定の学問分野を主軸とする専門的研究において、問題の設定からその解決方法の提示に至る研究過程に取り組むことのできる知識、能力ならびに熱意を有していること。
- (2) 他者や異文化に対する理解を尽くした上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現するプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ならびにリーダーシップを持っていること。
- (3) 人文科学・社会科学・自然科学を横断する幅広い知識と教養を身につけ、自らの専門分野のみに閉じこもらない、人間・文明・自然に対する、多角的な視点や柔軟な発想力を培っていること。
- (4) 「人間・環境学研究科」の名称にある「・」は、加算的な意味合いの「・」ではなく、乗算的な意味合いのそれである。この名称が示唆するように、既成の知を熟知しているだけでなく、それを基盤に新たな創造的飛躍をなしうる知的軽やかさを身につけていること。

人間・環境学研究科の入学者選抜においては、上記の資質・能力を多角的に測るため、専門分野についての筆答試験、外国語の筆答試験、および口述試験または論文試験を柔軟に組み合わせ評価をおこないます。

### 人間・環境学研究科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 社会に湧き起こる新たな問題群の解決には従来の思考枠では対処することができないという基本認識に立ち、新しいパラダイムを創出するという目的意識の下に、本研究科に共生人間学、共生文明学、相関環境学の3専攻を置く。同一専攻に近接分野を多く配置することによって専門性に力点を置き、専門を掘り下げてその裾野を広げ、裾野を広げることによって頂上を高くすることを目指す。
2. 修士課程では、学生には研究指導科目を中心とした自専攻開設科目を履修させるが、研究の視野を拡大するために他専攻開設科目の履修をも推奨する。指導体制については、主指導教員と複数の副指導教員による複数指導体制を採り、狭い専門の殻に自閉しないよう配慮する。
3. 学位論文の作成を目的とする博士後期課程では、指導教員との密接な接触の下に研究を深化させる。ここにおいても副指導教員を配置した複数指導体制を採り、複眼的思考の強化育成を図る。
4. 新しい研究領域を創成しようとする本研究科においては、教育課程は単位履修と一体であるとの認識に立ち、時代的要求をも考慮しながら講義科目の内容を深化させ、研究の自発性を高めていく。
5. 学際的ないし超学的研究を指向して新しいパラダイムを創成するという研究科の理念を実現するために、講座横断的・専攻横断的なコースワークの設置や、特定の問題に対して諸学問分野を動員するといった教育研究のあり方を模索する。

### 人間・環境学研究科 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 修士課程においては、必修である研究指導科目、選択必修である自専攻開設科目、さらに選択科目である他専攻科目を履修し、幅広い知識と高度の研究能力を修得した上に、相当の研究成果を上げた学生に対し、修士号を授与する。
2. 博士後期課程においては、特別研究、特別演習、特別セミナーを履修し、所定の単位を修得した上で、「着想の独創性」、「問題解決の企画力」、「持続的努力」などの観点からめざましい学問的成果を上げ、優れた学位論文を作成した学生に、博士（人間・環境学）の学位を授与する。

### 人間・環境学研究科 学位授与基準

- ・ 修士課程においては、必修である研究指導科目、選択必修である自専攻開設科目、さらに選択科目である他専攻開設科目を履修し、幅広い知識と高度の研究能力を修得した上で、「着想の独創性」、「論述の論理性」などの観点から相当の研究成果を上げたと認められる学位論文を作成した学生に対し、修士（人間・環境学）の学位を授与する。
- ・ 博士後期課程においては、特別研究、特別演習、特別セミナーを履修し、所定の単位を修得した上で、「着想の独創性」、「論述の論理性」、「問題解決の企画力」、「持続的努力」などの観点からめざましい学問的成果を上げたと認められる優れた学位論文を作成した学生に、博士（人間・環境学）の学位を授与する。

## ●総合人間学部 教育研究上の目的と方針

### 総合人間学部 教育研究上の目的

総合人間学部は、人間と文明と自然の結びつきに新たな次元を確立するために、人類が直面する様々な問題を人間活動の広範な諸領域を通じさせる形で問い直し、これまでの人文科学、社会科学、自然科学を融合した新しい学問の体系を構築することを、すなわち、新たな「人間の学」の創出を目指す。さらに、このような学問的探求を通じて、科学技術の急速な発展と国際化の進展など著しく変化するこれからの社会に対して、持続的かつ創造的に対処しうる広い視野を持った人材を育成することを目的とする。

### 総合人間学部 入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

総合人間学部は、たえず変化する現代社会における人間と文明と自然の新たな結びつきを見出すために、人文科学、社会科学、自然科学を横断する「人間の学」の創出をめざしています。この挑戦に積極的に加わろうとする志をもつ人、人類が直面する様々な課題に向きあう進取の精神をもつ人、持続的で創造的な取り組みを支える教養を身につけたいと考える人を本学部は求めます。

総合人間学部が入学を希望する人に求めるものは、高等学校の教育課程の教科・科目を広く修得することに加えて、その内容を活用する主体的な思考力・判断力・表現力、そして他者と協働しながら学ぶ態度です。

総合人間学部の入学受入れは、京都大学の一般入試において、文系と理系の2つの募集区分を設け、多様な基礎的学力を測ります。また本学部独自の特色入試では、高等学校における学びの成果、基礎的学力とともに、文系と理系の総合的な思考力・表現力を評価します。

### 総合人間学部 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

総合人間学部では、新たな「人間の学」の創出を主軸として、卒業の認定に関する方針に示した目的を達成するために、多様な学問分野を網羅する教員陣のもとで、教養教育・基礎教育と専門教育を体系的に一体化したカリキュラムを提供します。比較的近い学問分野で構成する学系を複数設置し、各学系のコースツリーならびに個別の学問分野の履修モデルを提示することにより、カリキュラム体系の構成を具体的に示します。講義や演習等として行われる個々の授業科目の内容および、定期試験・レポート・平常点による評価方法の詳細については、シラバスに記載します。

総合人間学部には、以下の指針に従って自律的に学修することを求めます。

- (1) 文理にまたがる多様な教養・基礎科目、複数の学系の入門科目、複数の外国語科目等を幅広く学び、人間・文明・自然に対する幅広い知識と理解力を身につける。
- (2) ゼミ・演習等の少数教科目を履修し、教養・基礎から専門の領域にわたる知識と能力を濃密な議論の中で培うとともに、他者に自らの見解を表現するためのプレゼンテーション能力および対話能力を身につける。
- (3) 学年の進行とともに、自らの学問的関心に応じて一つの学系を主専攻として選択して系統的に学び、自らの知的な核となる専門性を修得する。
- (4) 主専攻とは異なる学問分野を副専攻として系統的に学び、自らの専門分野に捉われない柔軟で重層的な思考力を養う。
- (5) 主専攻の分野において指導教員を選び、そのもとで卒業論文・卒業研究に取り組む。学修成果は複数の教員により審査される。こうした研究過程を通して、専門性を深めるとともに、現代の諸問題の解決に挑戦する創造的姿勢と持続力を育む。

### 総合人間学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

総合人間学部は、人間と文明と自然との新たな結びつきを見出す「人間の学」の創出を目指しています。また、この学問的追究を通して、幅広い視野から創造的かつ持続的に現代の諸問題と向き合い、コミュニケーション能力やリーダーシップを発揮する人を育成することを目的としています。これを達成するため、以下の点に到達した者に総合人間学部学士号を授与します。

- (1) 総合人間学部が提供する学際的な学問の場において、人文科学・社会科学・自然科学を横断する幅広い知識と教養を身につけていること。
- (2) 他者や異文化に対する理解を深めた上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現するプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ならびにリーダーシップを培っていること。
- (3) 多様な学問分野を学ぶ中で、自らの知的な核となる特定の分野を選択し、その理解を深めていること。
- (4) 主たる専門分野とは異なる、もう一つの分野も重点的に学ぶことによって、人間・文明・自然に対する、多角的な視点や柔軟な発想力を培っていること。
- (5) 卒業論文・卒業研究において、問題の設定からその解決方法の提示に至る研究過程に取り組み、一定の成果を上げていること。

## ● 沿 革

- 1894(明治27)年 9月 第三高等学校開校
- 1897(明治30)年 6月 京都帝国大学創設
- 1949(昭和24)年 5月 新制京都大学設置  
5月 第三高等学校が京都大学所轄へ  
8月 分校設置
- 1950(昭和25)年 3月 第三高等学校を廃止(以後京都大学分校と称せられる)
- 1954(昭和29)年 3月 分校を教養部と改称(学内措置による改称)
- 1963(昭和38)年 4月 文部省令により教養部設置(分校から教養部へ正式に改称)
- 1977(昭和52)年 5月 教養部に教養部改善検討委員会設置
- 1991(平成 3)年 4月 大学院人間・環境学研究科設置(1専攻)  
人間・環境学専攻(第1専攻)開設
- 1992(平成 4)年 10月 総合人間学部設置(4学科)  
人間学科、国際文化学科、基礎科学科、自然環境学科を開設  
10月 人間・環境学研究科 文化・地域環境学専攻設置(第2専攻)
- 1993(平成 5)年 3月 教養部廃止  
4月 人間・環境学専攻 博士後期課程設置  
4月 総合人間学部第1期生入学
- 1994(平成 6)年 6月 高等教育教授システム開発センター設置
- 1995(平成 7)年 4月 文化・地域環境学専攻 博士後期課程設置
- 1996(平成 8)年 3月 人間・環境学研究科棟竣工  
4月 アフリカ地域研究専攻設置
- 1997(平成 9)年 4月 人間・環境学研究科 環境相関研究専攻設置(第3専攻)
- 1998(平成10)年 4月 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科設置に伴い、アフリカ地域研究専攻及び東南アジア地域研究講座を移管
- 1999(平成11)年 4月 環境相関研究専攻 博士後期課程設置
- 2002(平成14)年 4月 大学院地球環境学舎・学舎設置
- 2003(平成15)年 4月 総合人間学部との一体化に伴う研究科の改組により、共生人間学専攻、共生文明学専攻、相関環境学専攻を設置  
4月 総合人間学部の4学科を廃止し、総合人間学科一学科に改組  
人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系を設置
- 2003(平成15)年 4月 高等教育研究開発推進機構設置  
4月 高等教育研究開発推進センター設置  
4月 高等教育教授システム開発センター廃止
- 2004(平成16)年 4月 国立大学法人京都大学設立
- 2007(平成19)年 4月 こころの未来研究センター設置
- 2008(平成20)年 4月 人間・環境学研究科 学際教育研究部設置
- 2013(平成25)年 4月 高等教育研究開発推進機構廃止  
4月 国際高等教育院設置  
4月 事務組織改編
- 2014(平成26)年 4月 国際高等教育院附属国際学術言語教育センター設置  
4月 「人間・環境学研究科総合人間学部図書館」から「吉田南総合図書館」に改組

---

## 歴代総合人間学部長・人間・環境学研究科長

### 総合人間学部長

1992(平成 4)年10月1日～1993(平成 5)年 3月31日	木下 富雄
1993(平成 5)年 4月1日～1996(平成 8)年 3月31日	児嶋 眞平
1996(平成 8)年 4月1日～1998(平成10)年 3月31日	三好 郁朗
1998(平成10)年 4月1日～2001(平成13)年 3月31日	林 哲介
2001(平成13)年 4月1日～2003(平成15)年 3月31日	宮本 盛太郎

### 人間・環境学研究科長

1991(平成 3)年 4月1日～1992(平成 3)年 9月30日	*西島 安則
1992(平成 3)年10月1日～1993(平成 5)年 9月30日	竹市 明弘
1993(平成 5)年10月1日～1997(平成 9)年 9月30日	足利 健亮
1997(平成 9)年10月1日～2001(平成13)年 3月31日	豊島 喜則
2001(平成13)年 4月1日～2003(平成15)年 3月31日	江島 義道

\*研究科長事務取扱

### 人間・環境学研究科長・総合人間学部長

2003(平成15)年 4月1日～2004(平成16)年 3月31日	江島 義道
2004(平成16)年 4月1日～2007(平成19)年 3月31日	富田 博之
2007(平成19)年 4月1日～2010(平成22)年 3月31日	堀 智孝
2010(平成22)年 4月1日～2014(平成26)年 3月31日	富田 恭彦
2014(平成26)年 4月1日～2014(平成26)年 9月30日	杉万 俊夫
2014(平成26)年10月1日～2016(平成28)年 3月31日	高橋 由典
2016(平成28)年 4月1日～	杉山 雅人

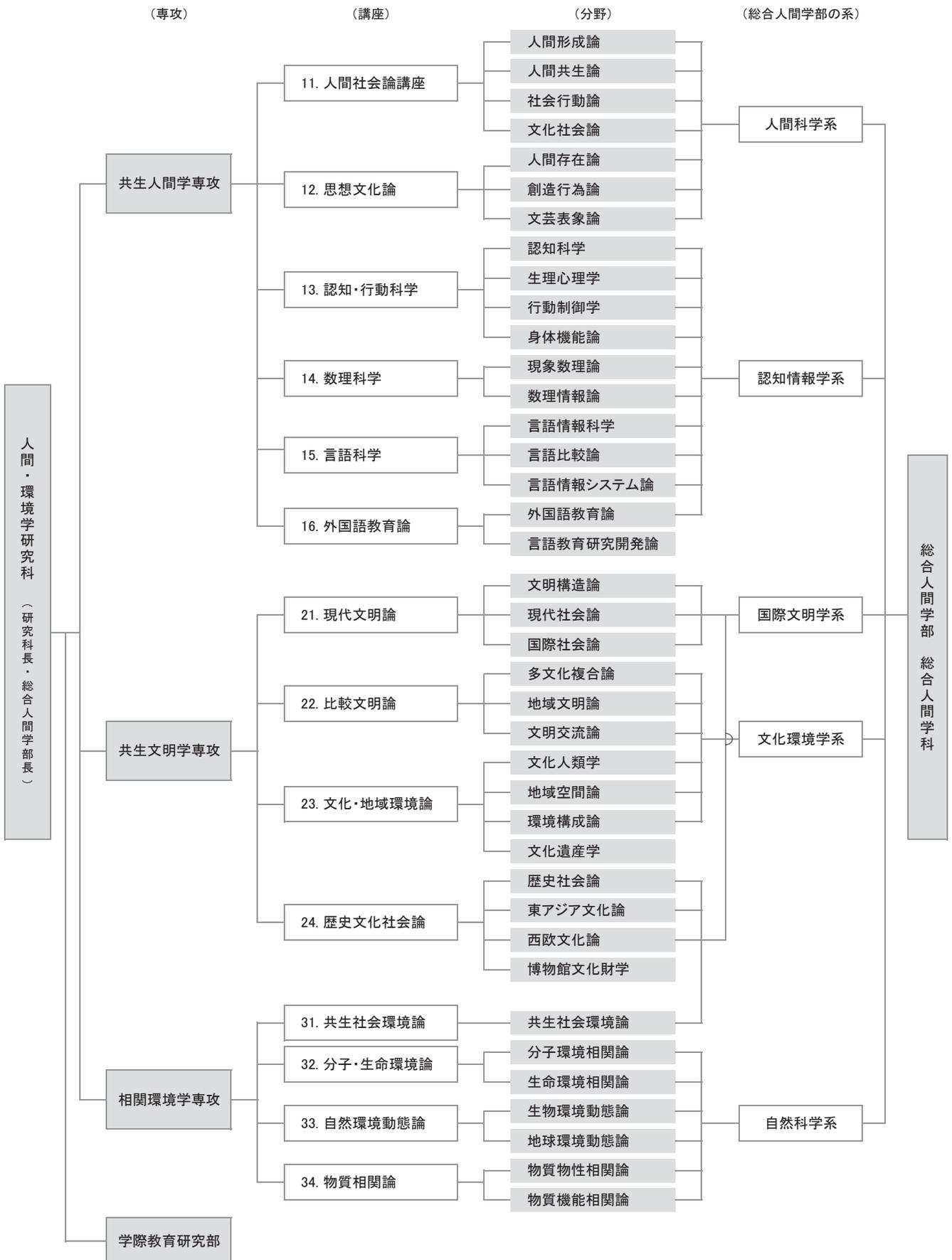


# 研究教育体制

# 1. 研究教育体制

【資料 1-1】研究教育組織

(平成 29 年 4 月 1 日現在)



【資料 1-2】他部局ならびに学外諸機関との協力体制

(平成 29 年 4 月 1 日現在)

区分	部局・機関名	人間・環境学研究所					総合人間学部				
		人数					講座	人数			
		兼任	流動	協力	客員	連携		兼任	流動	協力	学系(関係)
学内他部局	大学院	情報学研究科							2		認知情報学系(認知・行動科学)(2)
		生命科学研究所							2		自然科学系(生物化学)(2)
		地球環境学舎・地球環境学舎	7					23.文化・地域環境論講座(1) 31.共生社会論講座(1) 32.分子・生命環境論講座(3) 33.自然環境動態論講座(2)	7		文化環境学系(文化・地域環境論)(1) 国際文明学系(社会相関論)(1) 自然科学系(化学・物質科学)(2) 自然科学系(生物科学)(3)
	附置研究所	人文科学研究所			2			23.文化・地域環境論講座(2)			
		ウイルス・再生医科学研究所 附属感染症モデル研究センター			1			33.自然環境動態論講座(1)			
	教育研究施設等	学術情報メディアセンター			2			15.言語科学講座(2)		1	認知情報学系(言語科学)(1)
		放射線生物研究センター			2			32.分子・生命環境論講座(2)			
		こころの未来研究センター						13.認知・行動科学講座(2)		1	認知情報学系(認知・行動科学)(1)
	教育院等	国際高等教育院			6			12.思想文化論講座(1) 13.認知・行動科学講座(1) 23.文化・地域環境論講座(1) 24.歴史文化社会論講座(2) 33.自然環境動態論講座(1)	6		人間科学系(人間存在論)(1) 認知情報学系(認知・行動科学)(1) 国際文明学系(歴史文化社会論)(2) 文化環境学系(文化・地域環境論)(1) 自然科学系(生物科学)(1)
						3		13.認知・行動科学講座(1) 34.物質相関論講座(2)			
		国際高等教育院附属国際学術言語教育センター			6			16.外国語教育論講座(6)			
		環境安全保健機構 附属放射線同位元素総合センター			2			32.分子・生命環境論講座(1) 34.物質相関論講座(1)			
	学外機関	客員	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所			5		23.文化・地域環境論講座(5)			
			独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館			4		24.歴史文化社会論講座(4)			
		連携	独立行政法人情報通信研究機構 未来 ICT 研究所				1	13.認知・行動科学講座(1)			
合計		6	7	18	9	1		6	7	6	

注) ( ) 内の数字は講座内、学系内の人数

【資料1-3】人間・環境学研究所 教員構成

併任教員 流動教員 協力教員 客員教員 学外非常勤講師 総合人間学部教育担当の他部局所属教員 平成29年10月1日現在

大学院	学部	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教		
共生人間学専攻	人間科学系	11 人間社会論	人間形成論	小山 静子 倉石一郎	大倉 得史 松本 卓也				
			人間共生論	連携機関：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所					
			社会行動論	吉田 純 永田 素彦	柴田 悠				
		12 思想文化論	文化社会論	田邊 玲子 松田 英男 多賀 茂	木下 千花				
			人間存在論	佐藤 義之 <sup>併</sup> 安部 浩	戸田 剛文 青山 拓央				
			創造行為論	岡田 温司	桑山 智成 武田 宙也				
	認知情報科学系	13 認知・行動科学	文芸表象論	水野 尚之 廣野由美子 奥田 敏広	小島 基洋				
			認知科学	齋木 潤 月浦 崇 小村 豊 <sup>協</sup>	内田由紀子 <sup>協</sup>		山本 洋紀		
			生理心理学	宮内 哲 <sup>協</sup>	連携機関：国立研究開発法人情報通信研究機構 未来ICT研究所				
		14 数理科学	行動制御学	石原 昭彦 神崎 素樹	久代 恵介 田中 真介 <sup>協</sup>				
			身体機能論	林 達也 <sup>併</sup>	船曳 康子		江川 達郎		
			現象数理論	上木 直昌 清水 扇丈 足立 匡義 角 大輝	木坂 正史				
	15 言語科学	数理情報論	立木 秀樹 日置 尋久	櫻川 貴司	ディプレクト, マシュージョセフ(特定講師)				
		言語情報科学	藤田 耕司 谷口 一美	守田 貴弘					
		言語比較論	齋藤 治之 服部 文昭 河崎 靖 壇辻 正剛 <sup>協</sup>	南條 浩輝 <sup>協</sup>					
	16 外国語教育論	言語情報システム論	連携機関：国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所						
外国語教育論		西山 教行	中森 誉之 <sup>ピーターソン, マーク</sup>	藤田 糸子					
言語教育研究開発論		田地野 彰 <sup>協</sup>	スチュワート,ティモシー <sup>協</sup> (修士課程担当) ダルスキー,デビッド <sup>協</sup> 塚原信行 <sup>協</sup> 高橋 幸 <sup>協</sup> 金丸敏幸 <sup>協</sup>						
共生文明学専攻	21 現代文明論	国際文明学系	文明構造論	江田 憲治 大川 勇 細見 和之	那須 耕介				
		現代社会論	大黒 弘慈	柴山 桂太		鶴岡 大介			
		国際社会論	土屋 由香	見平 典 齋藤 嘉臣					
	22 比較文明論	多文化複合論	岡 真理 小倉 紀蔵	勝又 直也					
		地域文明論	赤松 紀彦 太田 出						
		文明交流論	塩塚秀一郎						
	23 文化・地域環境論	文化人類学	風間 計博 田中 雅一 <sup>協</sup>	岩谷 彩子 <sup>流</sup> 石井 美保 <sup>協</sup>		梶丸 岳			
		地域空間論	小島 泰雄 小方 登	山村 亜希					
		環境構成論	増井 正哉 <sup>併</sup> 中嶋 節子			藤原 学 佐野 泰之(特定助教)			
	24 歴史文化社会論	文化遺産学	玉田 芳英 <sup>協</sup> 高妻 洋成 <sup>協</sup> 尾野 善裕 <sup>協</sup>	馬場 基 <sup>協</sup> 山崎 健 <sup>協</sup>	* = 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所				
歴史社会論		元木 泰雄 合田 昌史	吉江 崇	バツバツガイ(特定講師)					
東アジア文化論		道坂 昭廣 <sup>併</sup> 辻 正博 須田 千里	佐野 宏 長谷川千尋 松江 崇						
31 共生社会環境論	西欧文化論	水野 真理 高谷 修 桂山 康司 <sup>併</sup>	池田 寛子						
	博物館文化財学	山本 英男 <sup>協</sup> 宮川 禎一 <sup>協</sup>	大原 嘉豊 <sup>協</sup> 山川 暁 <sup>協</sup>	* = 独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館					
自然科学系	32 分子・生命環境論	共生社会環境論	浅野 耕太 小畑 史子 佐野 亘 <sup>流</sup> 宇佐美 誠 <sup>協</sup> (授業担当)						
		分子環境相関論	田村 類 津江 広人 小松 直樹 藤田 健一			高橋 弘樹			
	33 自然環境動態論	生命環境相関論	宮下 英明 <sup>流</sup> 川本 卓男 <sup>協</sup> 高田 稔 <sup>協</sup>	土屋 徹 <sup>流</sup> 小林 純也 <sup>協</sup>		神川 龍馬 <sup>流</sup>			
		生物環境動態論	加藤 真 瀬戸口浩彰 市岡 孝朗	西川 完途 三浦 智行 <sup>協</sup>		幡野 恭子 阪口 翔太			
	34 物質相関論	地球環境動態論	鎌田 浩毅 阪上 雅昭 石川 尚人 酒井 敏 <sup>併</sup>			加藤 護 坂本 陽介 <sup>流</sup>			
		物質物性相関論	宮本 嘉久 吉田 鉄平 舟橋 春彦 <sup>協</sup>	藤原 直樹 木下 俊哉 森成 隆夫		小山田 明 渡邊 雅之 佐野 光貞 小西 隆士 大槻 太毅			
	物質機能相関論	内本 喜晴 田部勢津久 吉田 寿雄 加藤 立久 <sup>協</sup>	戸崎 充男 <sup>協</sup>		上田 純平 山本 旭 山本健太郎(特定助教)				
		千坂 修 <sup>協</sup>	吉村 成弘 <sup>協</sup>						

の分野については、学生の募集は行わない

学際教育研究部	
教授	・(兼)中嶋節子(部長) ・(兼)阪上雅昭(副部長) ・(兼)岡田温司 ・(兼)齋木潤 ・(兼)谷口一美 ・(兼)日置尋久 ・(兼)水野真理 ・(兼)小倉紀蔵 ・(兼)小木曾哲 ・(兼)田部勢津久 ・(兼)津江広人 ・(兼)宮下英明 ・(兼)永田素彦 ・(兼)月浦崇
准教授	・(兼)大倉得史 ・(兼)戸田剛文 ・(兼)佐野宏 ・(兼)柴山桂太 ・(兼)(学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット特定准教授)(授業担当) ・(兼)グルーパー ステファン(白眉センター特定准教授)
助教	・(兼)山本健太郎 ・(兼)佐野泰之

外国人教師 ドイツ語：トラウデン, ディーター フランス語：メニル, エヴリーヌ

【資料 1-4】総合人間学部 教員構成

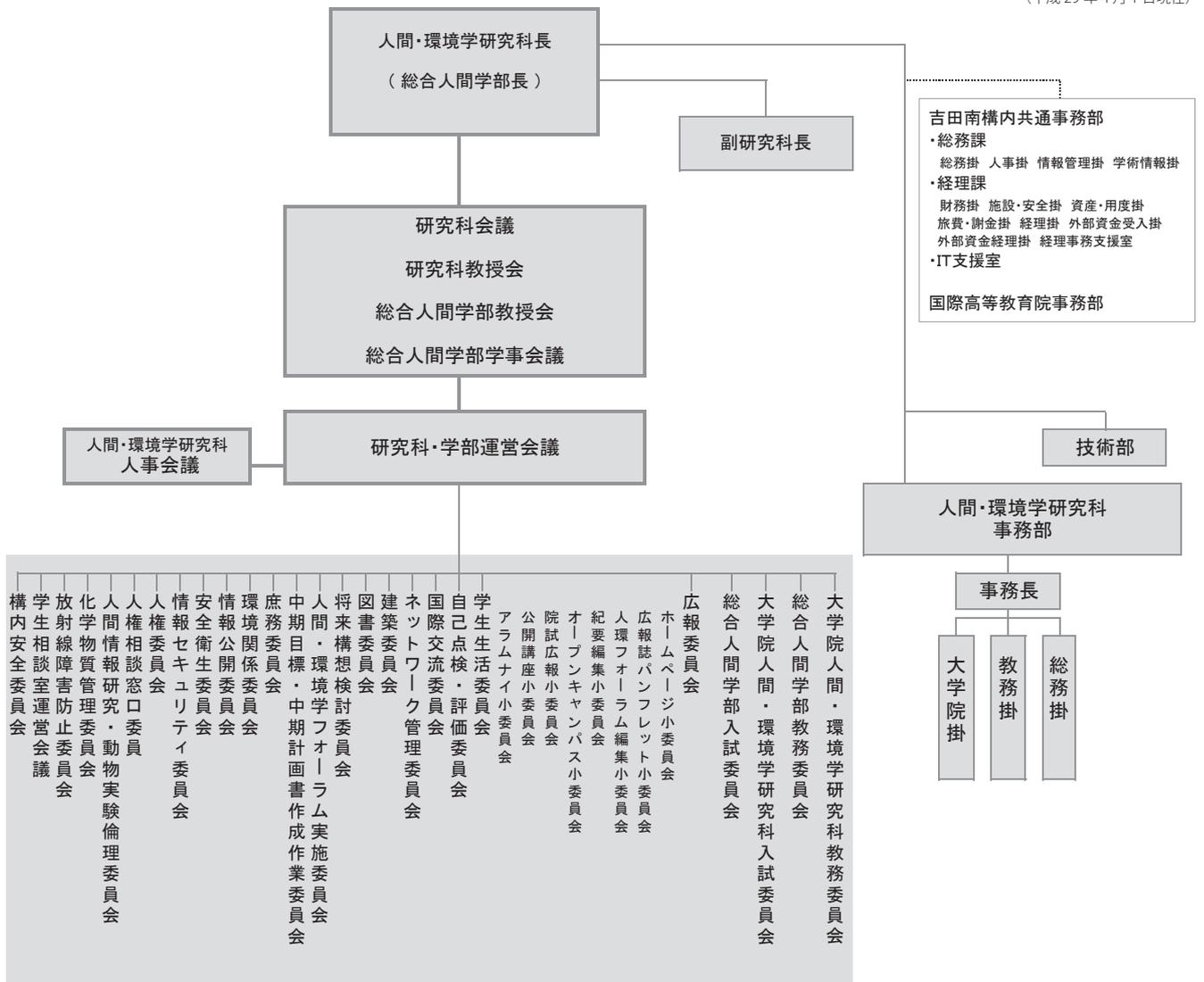
<sup>併</sup>併任教員(人間・環境学研究所) <sup>流</sup>流動教員(人間・環境学研究所) <sup>協</sup>協力教員 平成 29 年 10 月 1 日現在

学系	関係名 (授業科目グループ)	教授	准教授	講師	助教
人間科学系	人間形成論	小山 静子 倉石 一郎	大倉 得史 松本 卓也		
	社会行動論	吉田 純 永田 素彦	柴田 悠		
	文化社会論	田邊 玲子 松田 英男 多賀 茂	木下 千花		
	人間存在論	佐藤 義之 <sup>併</sup> 安部 浩	戸田 剛文 青山 拓央		
	創造行為論	岡田 温司	森山 智成 武田 宙也		
	文芸表象論	水野 尚之 廣野由美子 奥田 敏広	小島 基洋		
認知情報学系	認知・行動科学	齋木 潤 石原 昭彦 林 達也 <sup>併</sup> 神崎 素樹 神谷 之康 <sup>協</sup> 月浦 崇 小村 豊 <sup>協</sup>	久代 恵介 船曳 康子	細川 浩 <sup>協</sup>	山本 洋紀 江川 達郎
	数理情報論	立木 秀樹 上木 直昌 日置 尋久 清水 扇丈 足立 匡義 角 大輝	木坂 正史 櫻川 貴司	ディレクト, マニュアル エディター (特定講師)	
	言語科学	齋藤 治之 服部 文昭 増辻 正剛 <sup>協</sup> 藤田 耕司 河崎 靖 谷口 一美	守田 貴弘		
	外国語教育論	西山 教行	中森 誉之 ピーターソン, マーク		
国際文明学系	社会相関論	江田 憲治 大川 勇 浅野 耕太 小畑 史子 大黒 弘慈 佐野 亘 細見 和之 土屋 由香	見平 典 那須 耕介 齋藤 嘉臣 柴山 桂太		鶴飼 大介
	歴史文化社会論	元木 泰雄 須田 千里 水野 眞理 道坂 昭廣 <sup>併</sup> 合田 昌史 辻 正博 高谷 修 桂山 康司 <sup>併</sup>	佐野 宏 長谷川千尋 池田 寛子 吉江 崇 松江 崇	ハッテ, パツラガイ (特定講師)	
文化環境学系	比較文明論	赤松 紀彦 岡 眞理 小倉 紀蔵 太田 出 塩塚秀一郎	勝又 直也		
	文化・地域環境論	小方 登 小島 泰雄 風間 計博 中嶋 節子 増井 正哉 <sup>併</sup>	岩谷 彩子 <sup>流</sup> 山村 亜希		藤原 学 梶丸 岳
自然科学系	(物理学)	阪上 雅昭 宮本 嘉久 吉田 鉄平	藤原 直樹 木下 俊哉 森成 隆夫		小山田 明 渡邊 雅之 佐野 光貞 小西 隆士 大槻 太毅
	(化学・物質科学)	内本 喜晴 田村 類 杉山 雅人 田部勢津久 梶井 克純 <sup>流</sup> 津江 広人 吉田 寿雄 藤田 健一 小松 直樹			高橋 弘樹 上田 純平 坂本 陽介 <sup>流</sup> 山本 旭
	(生物学)	加藤 眞 瀬戸口浩彰 宮下 英明 <sup>流</sup> 市岡 孝朗 千坂 修 <sup>協</sup>	西川 完途 土屋 徹 <sup>流</sup> 吉村 成弘 <sup>協</sup>		幡野 恭子 阪口 翔太 神川 龍馬 <sup>流</sup>
	(地球科学)	鎌田 浩毅 石川 尚人 酒井 敏 <sup>併</sup> 小木曾 哲			加藤 護

・自然科学系の「関係名」欄は専門分野名を表す。

【資料 1-5】管理運営組織

(平成 29 年 4 月 1 日現在)



【資料 1-6】委員会組織

<p>大学院人間・環境学研究科教務委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教科の基準に関すること</li> <li>2) 教科の教育的方策に関すること</li> <li>3) 授業の総括的計画の編成及び実施に関すること</li> <li>4) 成績評価についての基準の設定および成績表の点検に関すること</li> <li>5) 履修指導に関すること</li> <li>6) その他大学院学生の教務全般に関すること</li> </ol>	<p>総合人間学部教務委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教科の基準に関すること</li> <li>2) 教科の教育的方策に関すること</li> <li>3) 授業の総括的計画の編成及び実施に関すること</li> <li>4) 成績評価についての基準の設定および成績表の点検に関すること</li> <li>5) 履修指導に関すること</li> <li>6) 卒業判定資料に関すること</li> <li>7) その他学部学生の教務全般に関すること</li> </ol>
<p>大学院人間・環境学研究科入試委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 修士課程及び博士後期課程編入学試験募集要項案の作成に関すること</li> <li>2) 入学試験の実施に関すること</li> <li>3) 修士課程第1次試験合格者の決定に関すること</li> <li>4) 修士課程及び博士後期課程編入学試験合格者の内定に関すること</li> <li>5) 博士後期課程進学者の内定に関すること</li> <li>6) その他前各号の目的に関すること</li> </ol>	<p>総合人間学部入試委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般入試に関すること</li> <li>2) 特色入試に関すること</li> <li>3) 転学部、編入学等に関すること</li> <li>4) 入学者選抜方法の調査・研究に関すること</li> <li>5) その他前各号の目的に関連すること</li> </ol>
<p>広報委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 部局広報の編集・発行に関すること</li> <li>2) オープンキャンパス及び院入試説明会の対応に関すること</li> <li>3) 部局案内パンフレットの編集・発行に関すること</li> <li>4) ホームページの対応に関すること</li> <li>5) 卒業生及び修了生の連携に関すること</li> <li>6) 部局紀要及び人環フォーラムの編集・発行に関すること</li> <li>7) その他、部局の広報に関すること</li> </ol>	<p>学生生活委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学院学生及び学部学生の生活と修学に関すること</li> <li>2) 大学院学生及び学部学生の厚生補導に関すること</li> <li>3) 大学院学生及び学部学生の課外活動に関すること</li> <li>4) 授業料の免除に関すること</li> <li>5) 日本学生支援機構奨学生に関すること</li> <li>6) 大学院学生及び学部学生の学生の進路に関すること</li> <li>7) 大学院学生及び学部学生の集会及び掲示に関すること</li> <li>8) その他前各号の目的に関すること</li> </ol>
<p>自己点検・評価委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己点検・評価の基本方針及び実施に関すること</li> <li>2) 自己点検・評価の事項及び項目に関すること</li> <li>3) 自己点検・評価の報告書の作成および公表に関すること</li> <li>4) その他自己点検・評価に関すること</li> </ol>	<p>国際交流委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国際交流に関すること</li> <li>2) 外国人留学生に関すること</li> <li>3) 海外派遣に関すること</li> <li>4) その他国際交流に関すること</li> </ol>
<p>ネットワーク管理委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 総合ネットワーク関連機器の管理・運営に関すること</li> <li>2) 情報関連機器の管理・運営に関すること</li> <li>3) 視聴覚関連機器の管理・運営に関すること</li> <li>4) その他ネットワーク管理に関連すること</li> </ol>	<p>建築委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究科の建築計画の立案、実施に関すること</li> <li>2) 敷地利用に関すること</li> <li>3) 施設の管理・整備に関すること</li> <li>4) その他前各号の目的に関すること</li> </ol>
<p>図書委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 図書など文献・資料の収集、整理及び保管に関すること</li> <li>2) 図書など文献・資料の予算配分に関すること</li> <li>3) 図書など文献・資料の利用に関すること</li> <li>4) 参考調査、目録刊行等、情報に関連すること</li> <li>5) その他図書に関すること</li> </ol>	<p>将来構想検討委員会</p> <p>研究科および学部における中長期的な将来構想計画（人事の配置を含む）の企画、立案に関する事項を所掌する</p>
<p>人間・環境学フォーラム実施委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人間・環境学フォーラムの実施に関すること</li> <li>2) その他人間・環境学フォーラム実施に関し必要なこと</li> </ol>	<p>中期目標・中期計画書作成作業委員会</p> <p>研究科および学部における中期目標・中期計画を検討し、計画書の作成を行う</p>
<p>庶務委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 退職記念送別会、及び退職職員記念講義等の実施に関すること</li> <li>2) 棒友会の実施に関すること</li> <li>3) 研究科教員基金の処理に関すること</li> <li>4) その他研究科の庶務全般に関すること</li> </ol>	<p>環境関係委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 環境・衛生の保全に関すること（安全衛生委員会の所掌事項は除く）</li> <li>2) 労働災害防止など安全対策に関すること（安全衛生委員会の所掌事項は除く）</li> <li>3) 実験排水・廃棄物等の管理及び処理に関すること</li> <li>4) その他環境保全と衛生に関連すること</li> </ol>
<p>情報公開委員会</p> <p>京都大学における情報公開制度の実施に関する規程（平成16年連示第10号）第5条に定める法人文書開示請求書の写しの送付がなされた場合、当該法人文書について、研究科における対応を審議する</p>	<p>安全衛生委員会</p> <p>研究科における安全衛生管理に関し必要な事項を所掌する</p>
<p>情報セキュリティ委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 情報セキュリティ対策の指導及び監査に関すること</li> <li>2) 情報セキュリティポリシー策定評価、見直し及び実施に関すること</li> <li>3) コンピュータ不正アクセス発生時における調査及び対策に関すること</li> </ol>	<p>人権委員会</p> <p>人間・環境学研究科及び総合人間学部における同和問題等人権問題及びハラスメント問題（以下「人権問題等」という。）の防止に関し必要な事項及び人権問題等が生じた場合の対応を行う</p>
<p>人間情報研究・動物実験倫理委員会</p> <p>次の事項を所掌する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究責任者又は実験責任者から申請された研究計画に関すること</li> <li>2) 人間情報研究及び動物実験に必要な施設及び設備に関すること</li> <li>3) 人間情報研究及び動物実験に伴う衛生・安全管理に関すること</li> <li>4) 実験動物の適切な飼育と使用の監視に関すること</li> <li>5) その他委員会が必要と認めること</li> </ol>	<p>化学物質管理委員会</p> <p>研究科における化学物質の管理に関し必要な事項を審議する</p>
<p>人間・環境学研究科 / 総合人間学部学生相談室</p> <p>次の各号に掲げる業務を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究科の大学院学生及び総合人間学部の学部学生の学生生活上の相談に応じ指導助言を行うこと</li> <li>2) 学生生活上の問題に係る啓発活動に関すること</li> <li>3) その他学生相談に関すること</li> </ol>	

【資料1-7】教員数の推移

人間・環境学研究所

平成24年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	75 (7)[2]	29 (2)[1]	2 (1)	18 (2)	124 (12)[3]	104 (9)[3]
流動	5	3		2	10	8
協力	12 [1]	5 <sup>*2</sup> (1) <sup>*1</sup> [1] <sup>*1</sup>			17 <sup>*2</sup> (1) <sup>*1</sup> [2] <sup>*1</sup>	17 <sup>*2</sup> (1) <sup>*1</sup> [2] <sup>*1</sup>
客員	7	4			11	11
合計	99 (7)[3]	41 <sup>*2</sup> (3) <sup>*1</sup> [2] <sup>*1</sup>	2 (1)	20 (2)	162 <sup>*2</sup> (13) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>	140 <sup>*2</sup> (10) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>

\*1 修士課程担当教員1名を含む

\*2 修士課程担当教員2名を含む

注)・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。

・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

総合人間学部

平成24年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	75 (7)[2]	29 (2)[1]	1	18 (2)	123 (11)[3]	105 (9)[3]
流動	5	3		2	10	8
協力	7 [1]	2 (1)	1		10 (1)[1]	10 (1)[1]
合計	87 (7)[3]	34 (3)[1]	2	20 (2)	143 (12)[4]	123 (10)[4]

注)・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。

・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

平成25年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	67 (7)[1]	30 (3)[2]	1 (1)	20 (3)	118 (14)[3]	97 (10)[3]
流動	5	3		2	10	8
併任	6				6	6
協力	12 [1]	7 <sup>*2</sup> (2) <sup>*1</sup> [1] <sup>*1</sup>			19 <sup>*2</sup> (2) <sup>*1</sup> [2] <sup>*1</sup>	19 <sup>*2</sup> (2) <sup>*1</sup> [2] <sup>*1</sup>
客員	8	4			12	12
合計	98 (7)[2]	44 <sup>*2</sup> (5) <sup>*1</sup> [3] <sup>*1</sup>	1 (1)	22 (3)	165 <sup>*2</sup> (16) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>	142 <sup>*2</sup> (12) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>

\*1 修士課程担当教員1名を含む

\*2 修士課程担当教員2名を含む

注)・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。

・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

平成25年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	67 (7)[1]	30 (3)[2]		20 (3)	117 (13)[3]	97 (10)[3]
流動	5	3		2	10	8
併任	6				6	6
協力	7 [1]	2	1		10 [1]	10 [1]
合計	85 (7)[2]	35 (3)[2]	1	22 (3)	143 (13)[4]	121 (10)[4]

注)・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。

・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

平成26年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	69 (7)[1]	34 (4)[2]	1 (1)	17 (3)	121 (15)[3]	103 (11)[3]
流動	3	2		2	7	5
併任	6				6	6
協力	11 [1]	6 <sup>*2</sup> (2) <sup>*1</sup> [1] <sup>*1</sup>			17 <sup>*2</sup> (2) <sup>*1</sup> [2] <sup>*1</sup>	17 <sup>*2</sup> (2) <sup>*1</sup> [2] <sup>*1</sup>
客員	6	3			9	9
合計	95 (7)[2]	45 <sup>*2</sup> (6) <sup>*1</sup> [3] <sup>*1</sup>	1 (1)	19 (3)	160 <sup>*2</sup> (17) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>	140 <sup>*2</sup> (13) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>

\*1 修士課程担当教員1名を含む

\*2 修士課程担当教員2名を含む

注)・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。

・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

平成26年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	69 (7)[1]	34 (4)[2]		17 (3)	120 (14)[3]	103 (11)[3]
流動	3	2		2	7	5
併任	6				6	6
協力	5 [1]	1	1		7 [1]	7 [1]
合計	83 (7)[2]	37 (4)[2]	1	19 (3)	140 (14)[4]	121 (11)[4]

注)・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。

・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

人間・環境学研究所

平成 27 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	71 (7) [1]	30 (4) [1]	1 (1)	15 (2)	117 (14) [2]	101 (11) [2]
流動	3 (1)	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6 (2)				6 (2)	6 (2)
協力	10 [1]	11 <sup>*2</sup> (3) <sup>*1</sup> [2] <sup>*1</sup>			21 <sup>*2</sup> (3) <sup>*1</sup> [3] <sup>*1</sup>	21 <sup>*2</sup> (3) <sup>*1</sup> [3] <sup>*1</sup>
客員	6	4 (1)			10 (1)	10 (1)
合計	96 (9) [2]	47 <sup>*2</sup> (9) <sup>*1</sup> [3] <sup>*1</sup>	1 (1)	17 (2)	161 <sup>*2</sup> (21) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>	143 <sup>*2</sup> (18) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>

\*1 修士課程担当教員 1 名を含む  
 \*2 修士課程担当教員 2 名を含む  
 注) ・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。  
 ・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

総合人間学部

平成 27 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	71 (7) [1]	30 (4) [1]		15 (2)	116 (13) [2]	101 (11) [2]
流動	3	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6 (2)				6 (2)	6 (2)
協力	5 [1]	1	1		7 [1]	7 [1]
合計	85 (9) [2]	33 (5) [1]	1	17 (2)	136 (16) [3]	119 (14) [3]

注) ・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。  
 ・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 28 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	69 (8) [1]	31 (5) [1]	1 (1)	16 (1)	117 (15) [2]	100 (13) [2]
流動	3	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6 (2)				6 (2)	6 (2)
協力	9 [1]	12 <sup>*2</sup> (3) <sup>*1</sup> [2] <sup>*1</sup>			21 <sup>*2</sup> (3) <sup>*1</sup> [3] <sup>*1</sup>	21 <sup>*2</sup> (3) <sup>*1</sup> [3] <sup>*1</sup>
客員	5	4 (1)			9 (1)	9 (1)
合計	92 (10) [2]	49 <sup>*2</sup> (10) <sup>*1</sup> [3] <sup>*1</sup>	1 (1)	18 (1)	160 <sup>*2</sup> (22) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>	141 <sup>*2</sup> (20) <sup>*1</sup> [5] <sup>*1</sup>

\*1 修士課程担当教員 1 名を含む  
 \*2 修士課程担当教員 2 名を含む  
 注) ・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。  
 ・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 28 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	69 (8) [1]	31 (5) [1]		16 (1)	116 (14) [2]	100 (13) [2]
流動	3	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6 (2)				6 (2)	6 (2)
協力	5 [1]	1	1		7 [1]	7 [1]
合計	83 (10) [2]	34 (6) [1]	1	18 (1)	136 (17) [3]	118 (16) [3]

注) ・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。  
 ・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 29 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	67 (10)	30 (5) [1]	1 (1)	16 (1)	114 (17) [1]	97 (15) [1]
流動	3	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6				6	6
協力	8	12 <sup>*1</sup> (3) [2] <sup>*1</sup>			20 <sup>*1</sup> (3) [2] <sup>*1</sup>	20 <sup>*1</sup> (3) [2] <sup>*1</sup>
客員	5	4 (1)			9 (1)	9 (1)
合計	89 (10)	48 <sup>*1</sup> (10) [3] <sup>*1</sup>	1 (1)	18 (1)	156 <sup>*1</sup> (22) [3] <sup>*1</sup>	137 <sup>*1</sup> (20) [3] <sup>*1</sup>

\*1 修士課程担当教員 1 名を含む  
 注) ・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。  
 ・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 29 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	67 (10)	30 (5) [1]		16 (1)	113 (16) [1]	97 (15) [1]
流動	3	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6				6	6
協力	4	1	1		6	6
合計	80 (10)	33 (6) [1]	1	18 (1)	132 (17) [1]	114 (16) [1]

注) ・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。  
 ・( ) 女性教員、[ ] 外国籍教員、いずれも内数。

【資料 1-8】教員の年齢・性別構成

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

年齢階層	教授		准教授		講師		助教		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
21～30							2		2	0
31～40			6				4		10	0
41～50	10	2	18	5			7		35	7
51～60	36	4	2				2	1	40	5
61～70	15	2				1			15	3
小計	61	8	26	5	0	1	15	1	102	15
合計	69		31		1		16		117	

(平成 29 年 10 月 1 日現在)

年齢階層	教授		准教授		講師		助教		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
21～30							2		2	0
31～40			6				4		10	0
41～50	15	2	17	5			7		39	7
51～60	30	5	3				2	1	35	6
61～70	12	3				1			12	4
小計	57	10	26	5	0	1	15	1	98	17
合計	67		31		1		16		115	

【資料 1-9】授業科目の担当状況

(平成 29 年度)

		開講授業数			専任教員の担当率 (%)
		専任教員担当*1	非常勤講師担当	合計	
総合人間学部	人間科学系	90	4	94	95.7
	認知情報学系	74	5	79	93.7
	国際文明学系	113	13	126	89.7
	文化環境学系	52	3	55	94.5
	自然科学系	58	0	58	100.0
	合計	387	25	412	93.9
人間・環境学研究科 【修士課程】	共生人間学専攻	138	5	143	96.5
	共生文明学専攻	136	9	145	93.8
	関連環境学専攻	91	0	91	100.0
	合計	365	14	379	96.3

\*1 流動教員、協力教員、客員教員を含む

【資料 1-10】事務職員及び技術職員の配置状況

(平成 29 年 4 月 1 日現在)

組織名	配置状況		
	常勤職員	非常勤職員	
事務職員	事務長	1	
	総務掛	2	14
	教務掛	3	3
	大学院掛	2	3
技術職員	7		
合計	15	20	



総合人間学部

## 2. 総合人間学部

### 【資料 2-1】 学生数の推移 (総合人間学部)

(各年度 5月1日現在)

年度	男	女	計	指導教員数	教員1人当たり 学生数
24	404	178	582	123	4.73
25	412	175	587	121	4.85
26	418	163	581	121	4.80
27	420(1)	172	592	120	4.93
28	425(1)	167(1)	592	118	5.02
29	424(2)	162(2)	586	114	5.14

注) ( )内の数字は留学生で内数。

### 【資料 2-2】 入学状況(総合人間学部)

#### (一般入試)

年度	総合人間学部						学力検査区分別											
							文系						理系					
	募集 人員	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学 定員 充足率	募集 人員	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学 定員 充足率	募集 人員	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学 定員 充足率
24	120	437	403	127	127	1.05	65	256	226	69	69	1.06	55	181	177	58	58	1.05
25	120	439	415	125	125	1.04	65	227	227	68	68	1.04	55	212	188	57	57	1.03
26	120	454	394	124	124	1.03	65	207	202	67	67	1.03	55	247	192	57	57	1.03
27	120	412	401	124	124	1.03	65	231	226	67	67	1.03	55	181	175	57	57	1.03
28	115	518	398	119	119	1.03	62	283	215	65	65	1.04	53	235	183	54	54	1.01
29	117	470	403	121	120	1.02	63	255	218	65	65	1.03	54	215	185	56	55	1.01

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、 残余の募集人員は一般入試の募集人員に加える。

#### (特色入試)

年度	総合人間学部					
	募集 人員	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学 定員 充足率
28	5	29	29	5	5	1.00
29	5	16	16	3	3	0.60

#### (一般入試+特色入試)

年度	総合人間学部					
	募集 人員	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学 定員 充足率
28	120	547	427	124	124	1.03
29	120	486	419	124	123	1.02

### 【資料 2-3】 編入学生の受入状況 (総合人間学部)

入学年度	志願者数	合格者数	入学者数	入学者の出身学部
24	3	0	0	
25	1	1	1	法学部
26	0	0	0	
27	1	1	1	法学部
28	0	0	0	
29	0	0	0	

【資料 2-4】転学部の状況 (総合人間学部)

年度	転入			転出				
	2回生	3回生	計	1回生	2回生	3回生	4回生	計
21	4	4	8	0	0	0	0	0
22	2	1	3	1	0	0	0	1
23	3	3	6	1	0	0	0	1
24	4	4	8	1	0	1	0	2
25	5	0	5	0	0	0	0	0
26	6	0	6	1	1	0	0	2
27	6	1	7	0	1	0	0	1
28	5	3	8	0	0	0	0	0
29	5	3	8	0	0	0	0	0
合計	40	19	59	4	2	1	0	7

注) 転入の回生は、総合人間学部の受入年次を示す。転出の回生は、転出前の総合人間学部の年次を示す。

内訳

(平成 21 - 29 年度)

学部	転入			転出				
	2回生	3回生	計	1回生	2回生	3回生	4回生	計
文学部	4	2	6	1	1			2
教育学部			0					0
法学部	4	1	5	3				3
経済学部	2		2		1			1
理学部	7	4	11					0
医学部	4	1	5			1		1
薬学部	2		2					0
工学部	14	10	24					0
農学部	3	1	4					0
合計	40	19	59	4	2	1	0	7

注) 転入の回生は、総合人間学部の受入年次を示す。転出の回生は、転出前の総合人間学部の年次を示す。

【資料 2-5】留年・休学・退学の状況 (総合人間学部)

年度	23	24	25	26	27	28
留年者	55	67	71	67	81	74
休学者	26	29	37	35	36	40
退学者	2	3	7	7	3	3

注) ・留年者、休学者については、各年度 5 月 1 日現在の人数  
 ・退学者については、各年度末時点の人数

【資料 2-6】分属の状況

入学年度	24			25			26			27			28		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
未分属*1	4	1	5	3		3	2		2	1		1	0	0	0
人間科学系	18	10	28	24	11	35	22	15	37	23	12	35	30	18	48
認知情報学系	25	8	33	25	10	35	35	13	48	28	5	33	24	7	31
国際文明学系	31	13	44	22	4	26	15	7	22	18	14	32	21	4	25
文化環境学系	8	6	14	5	10	15	4	4	8	9	5	14	7	5	12
自然科学系	6	2	8	14	3	17	9	3	12	8	3	11	11	0	11
合計	92	40	132	93	38	131	87	42	129	87	39	126	93	34	127

\*1 学系への分属は 2 回生より行われる。

【資料 2-7】各学系の授業形態（総合人間学部）

（平成 29 年度）

学系名	区分	講義	演習・ゼミ	実習・実験	小計	合計
人間科学系	学部科目	45	73	2	120	173
	全学共通科目	41	12	0	53	
認知情報学系	学部科目	44	63	13	120	159
	全学共通科目	31	7	1	39	
国際文明学系	学部科目	98	97	0	195	226
	全学共通科目	18	13	0	31	
文化環境学系	学部科目	36	45	4	85	118
	全学共通科目	23	10	0	33	
自然科学系	学部科目	29	39 <sup>*1</sup>	0	68	134
	全学共通科目	55	7	4	66	

注)・各学系の主専攻表（別表を含む）に掲載されている授業科目数である

・学部特殊講義を含む

\*1 自然科学系学部科目の「演習」には実験が含まれている

【資料 2-8】授業形態別履修者数（総合人間学部）

（平成 28 年度）

	科目コマ数	履修者数	平均履修者数
講義	167	3,512	21.0
演習	198	1,172	5.9
ゼミ	61	416	6.8
実験・実習	14	160	11.4
合計	440	5,260	

注)・講究・講読は演習に含まれる

・自然科学系学部科目の「演習」には実験が含まれている

【資料 2-9】総人ゼミの開講状況

年度	24	25	26	27	28
開講ゼミ数	8	6	7	8	10
受講者数	24	26	16	26	29

注) 総人ゼミは、平成 19 年度後期より開講された

【資料 2-10】他学部聴講の状況

部局名	24 年度		25 年度		26 年度		27 年度		28 年度	
	人数	単位数								
文学部	23	176	32	167	34	222	36	197	36	175
教育学部	14	72	19	82	23	97	20	103	29	98
法学部	14	60	13	74	10	88	10	96	5	52
経済学部	21	132	33	154	32	226	27	190	17	122
理学部	26	138	20	114	21	148	24	124	22	127
医学部 (人間健康科学科)	0	0	1	1	2	4	3	8	1	2
薬学部	2	4	1	2	4	14	3	8	1	6
工学部	15	72	14	98	17	108	13	116	17	138
農学部	5	22	4	8	9	58	2	8	9	36
合計	120	676	137	700	152	965	138	850	137	756

※教育学部は教職科目の聴講を除く

【資料 2-11】単位互換制度の利用状況（総合人間学部）

人数(単位数)

大学名	年度	24	25	26	27	28
高麗大学(大韓民国)		1(6)				
延世大学(大韓民国)						1(27)
北京大学(中国)				1(12)		
復旦大学(中国)				1(4)		
香港大学(中国)						1(13)
シンガポール国立大学(シンガポール)		1(4)	1(4)			
カリフォルニア大学デービス校(アメリカ合衆国)			1(8)			
ハワイ大学(アメリカ合衆国)						1(18)
ペンシルベニア大学(アメリカ合衆国)				1(7)		
ワシントン大学(アメリカ合衆国)				1(2)		
ウィスコンシン大学(アメリカ合衆国)					1(21)	
コンコルディア大学(カナダ)		1(9)				
マギル大学(カナダ)						1(24)
アイルランド国立大学ダブリン校(アイルランド)						1(17)
マンチェスター大学(イギリス)		1(10)				
サウサンプトン大学(イギリス)						1(9)
エディンバラ大学(イギリス)						1(10)
ウィーン大学(オーストリア)					1(2)	
ライデン大学(オランダ)					1(6)	
フンボルト大学(ドイツ)		1(23)				
ベルリン自由大学(ドイツ)					1(5)	
グルノーブル政治学院(フランス)						1(16)
ヘルシンキ大学(フィンランド)				1(12)		1(21)
ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)				1(14)		
オークランド大学(ニュージーランド)			1(15)		1(16)	
グアダラハラ大学(メキシコ)				1(11)		
SJC スタンフォード大学日本センター(日本) Stanford Program in Kyoto					1(2)	1(2)
KCJS 京都アメリカ大学コンソーシアム(日本)						1(2)
計(人数)		5	3	7	6	11

注) 留学期間ではなく単位認定を行った年度である。

【資料 2-12】入学前既修得単位の認定状況（総合人間学部）

年度	24	25	26	27	28	29
認定学生数	3	3	0	1	1	2
認定単位数	78	66	0	28	38	72

【資料 2-13】成績評価の方法（総合人間学部）

(平成 29 年度)

学系	科目種類	科目数	評価方法(採用率%)								評価項目数(%)			
			出席	授業態度	発表	レポート	期末レポート レポート 試験	小テスト 課題	期末試験	その他	1	2	3	4以上
人間科学系	講義	31	32.3	29.0	16.1	25.8	22.6	19.4	29.0	0.0	48.4	32.3	16.1	3.2
	ゼミ・演習・実習	61	41.0	60.7	52.5	26.2	14.8	11.5	16.4	1.6	19.7	57.4	19.7	3.3
認知情報学系	講義	31	29.0	51.6	6.5	41.9	16.1	25.8	35.5	6.5	22.6	58.1	16.1	3.2
	ゼミ・演習・実習	56	58.9	57.1	53.6	33.9	5.4	16.1	21.4	5.4	7.1	66.1	26.8	0.0
国際文明学系	講義	61	18.0	34.4	6.6	32.8	27.9	16.4	21.3	6.6	45.9	42.6	8.2	3.3
	ゼミ・演習・実習	65	50.8	83.1	64.6	21.5	15.4	16.9	21.5	7.7	7.7	44.6	36.9	10.8
文化環境学系	講義	22	31.8	59.1	9.1	40.9	54.5	54.5	68.2	27.3	9.1	59.1	31.8	0.0
	ゼミ・演習・実習	33	36.4	81.8	54.5	12.1	24.2	39.4	48.5	21.2	12.1	51.5	27.3	9.1
自然科学系	講義	26	53.8	23.1	0.0	57.7	3.8	53.8	65.4	30.8	23.1	65.4	11.5	0.0
	ゼミ・演習・実習	32	65.6	28.1	18.8	50.0	3.1	46.9	56.3	28.1	25.0	68.8	6.3	0.0
全体	講義	171	29.8	38.0	7.6	38.0	24.6	9.4	11.1	5.8	33.9	49.1	14.6	2.3
	ゼミ・演習・実習	247	50.2	64.4	51.8	27.9	12.6	6.9	8.1	4.5	13.4	56.7	25.1	4.9

注) 平成 29 年度『総合人間学部便覧』より調査  
・採用率は、各評価方法において、それを採用する科目数の全科目数に対する割合

【資料 2-14】全学共通科目の開講コマ数（平成 29 年度）

（平成 29 年 11 月現在）

提供部局		人文・ 社会科学 科目群	自然科学 科目群	外国語 科目群	情報学 科目群	健康・ スポーツ科目群	キャリア 形成科目群	統合科学 科目群	少数教育 科目群	総計
総合人間学部	常勤	257	131	460	23	38			41	950
	非常勤	56	2	595	4	85				742
	小計	313	133	1,055	27	123	0	0	41	1,692
理学部・ 総合人間学部	常勤		248							248
	非常勤		66							66
	小計	0	314	0	0	0	0	0	0	314
その他	常勤	184	236	61	79	32	66	43	263	964
	非常勤	1		57	1		40			99
	小計	185	236	118	80	32	106	43	263	1,063
総合計		498	683	1,173	107	155	106	43	304	3,069

注)・週コマ数で換算、通年科目はコマ数を 2 倍にしている。  
 ・提供部局別であるため、教員の所属とは異なる。  
 ・自然・応用科学科目群には、物理学実験、基礎化学実験、地球科学実験を含む。  
 ・実験科目はすべて総合人間学部へカウントしている  
 ・代講分は代表教員の身分でカウントしている

【資料 2-15】標準修業年限内卒業率と「標準修業年限×1.5」年内卒業率（総合人間学部）

入学者		標準修業年限内卒業率			「標準修業年限×1.25」年内卒業率			「標準修業年限×1.5」年内卒業率		
入学 年度	人数	卒業 年度	卒業 者数	卒業 率	卒業 年度	卒業 者数	卒業 率	卒業 年度	卒業 者数	卒業 率
18	124	21	99	79.8%	22	17	93.5%	23	4	96.8%
19	124	22	98	79.0%	23	19	94.4%	24	6	99.2%
20	122	23	88	72.1%	24	24	91.8%	25	6	96.7%
21	124	24	89	71.8%	25	29	95.2%	26	3	97.6%
22	123	25	85	69.1%	26	30	93.5%	27	3	95.9%
23	128	26	76	59.4%	27	41	91.4%	28	5	95.3%
24	127	27	84	66.1%	28	32	91.3%	29		
25	125	28	89	71.2%	29			30		

【資料 2-16】主専攻・副専攻の文理分布

卒業年度		25		26		27		28	
主専攻	副専攻	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
文系	文系	51	39.8%	32	28.3%	51	38.6%	44	32.8%
	理系	27	21.1%	32	28.3%	36	27.3%	37	27.6%
	小計	78	60.9%	64	56.6%	87	65.9%	81	60.4%
理系	文系	34	26.6%	36	31.9%	29	22.0%	36	26.9%
	理系	16	12.5%	13	11.5%	16	12.1%	17	12.7%
	小計	50	39.1%	49	43.4%	45	34.1%	53	39.6%
総計		128	100.0%	113	100.0%	132	100.0%	134	100.0%

## 【資料 2-17】「研究を他者に語る」実施アンケート (平成 28 年度)

「研究を他者に語る」(平成 28 年度より開始)

- ・卒業予定学生が、自身の卒業論文・卒業研究の内容を異分野の教員(聞き役教員)に「説得的に」語ることを通じて、学術の知とその意義を専門外の人にわかりやすく語ることコミュニケーション能力を身につけるとともに、異分野の教員との議論を通じて自分の研究を相対化し客観視することで、多様かつ総合的な視点で物事を観る能力を培うことを目的とした制度
- ・卒業のために必須ではないが、原則としてすべての卒業予定者が対象となる。

(平成 29 年度『総合人間学部便覧』19 頁参照)

		(人)
実施状況(人数)	人間科学系	34
	認知情報学系	33
	国際文明学系	18
	文化環境学系	15
	自然科学系	15
	計	115

学生へのアンケート		(%)
		学生
自分の卒研・卒論にプラスになったと思いますか	1. そう思わない	17.1
	2. ややそう思わない	9.8
	3. どちらでもない	24.4
	4. ややそう思う	31.7
	5. そう思う	17.1
	無回答	0.0
計		100.0
この試み全体はあなたにとって意義あるものでしたか	1. そう思わない	3.7
	2. ややそう思わない	7.3
	3. どちらでもない	12.2
	4. ややそう思う	47.6
	5. そう思う	29.3
	無回答	0.0
計		100.0

指導教員・聞き役教員へのアンケート			(%)	
			指導教員	聞き役教員
学生にとってプラスになるものでしたか	1. そう思わない	0.0	3.0	
	2. ややそう思わない	8.5	3.0	
	3. どちらでもない	17.0	11.0	
	4. ややそう思う	38.3	42.0	
	5. そう思う	34.0	40.0	
	無回答	2.1	1.0	
計		100.0	100.0	
この試み自体は意義あるものでしたか	1. そう思わない	10.9	5.0	
	2. ややそう思わない	0.0	3.0	
	3. どちらでもない	15.2	9.0	
	4. ややそう思う	28.3	40.0	
	5. そう思う	43.5	41.0	
	無回答	2.2	2.0	
計		100.0	100.0	

【資料 2-18】資格取得状況（総合人間学部）

		年度	23	24	25	26	27	28
教員免許	中学一種	社会	1			2		2
		国語		1			1	3
		英語	3		3	3	1	
		数学			2	1	3	
		理科	1				1	
		保健体育		1	1			
		小計(免許数)	5	2	6	6	6	5
	高校一種	地理歴史	1	1		3	1	3
		公民				2		
		国語		1		1	2	3
		英語	3		7	4	1	2
		数学	3	1	4	1	4	2
		理科	1				2	
		保健体育		1	1			
小計(免許数)	8	4	12	11	10	10		
総計(免許数)	13	6	18	17	16	15		
取得者数(人数)	8	4	12	7	10	10		
司書・学芸員	司書(免許数)		1	2		1	1	
	学芸員(免許数)	1	3	1		1	1	
	取得者数(人数)	1	4	3	0	2	2	

【資料 2-19】卒業生の進路（総合人間学部）

		年度			24			25			26			27			28		
		男	女	男女計	男	女	男女計												
卒業者数		77	45	122	80	48	128	81	32	113	91	41	132	95	39	134			
進路別人数	人間・環境学研究科	19	13	32	27	6	33	30	6	36	24	9	33	22	9	31			
	他大学大学院	12	2	14	7	3	10	4	3	7	10	5	15	15	2	17			
	大学院進学(合計)	31	15	46	34	9	43	34	9	43	34	14	48	37	11	48			
	他学部等へ入学	2	0	2	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1			
	就職	34	23	57	34	35	69	42	19	61	45	26	71	46	24	70			
	上記以外	10	7	17	11	4	15	4	4	8	11	1	12	11	4	15			
大学院進学率(%)		40.3	33.3	37.7	42.5	18.8	33.6	42.0	28.1	38.1	37.4	34.1	36.4	38.9	28.2	35.8			
就職率(%) <sup>※1</sup>		44.2	51.1	46.7	42.5	72.9	53.9	51.9	59.4	54.0	49.5	63.4	53.8	48.4	61.5	52.2			
就職希望者 <sup>※2</sup> の就職率(%) <sup>※3</sup>		77.3	76.7	77.0	75.6	89.7	82.1	91.3	82.6	88.4	80.4	96.3	85.5	80.7	85.7	82.4			

注)・※1 就職率 = 就職者数 / 卒業者数  
 ・※2 就職希望者 = 卒業者 - 大学院進学者 - 他学部等への入学者  
 ・※3 就職希望者の就職率 = 就職者数 / 就職希望者数

【資料 2-20】就職状況（総合人間学部）

業種	年度		24		25		26		27		28		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
農業・林業・漁業	1												1
鉱業													0
建設業					2						1		3
食品等	1	1	1	2			3		1	1	1		11
繊維							1				1		2
出版印刷			1	2	1			2	1				7
化学工業			1	1	1	2		3					8
鉄鋼業	1			1							1		3
はん用・生産用・業務用機械器具				1	2	1				2			6
電子部品・デバイス・電子回路						1		1		1			3
電気・情報通信機械器具				2	1			1					4
輸送用機械器具			2	1		1				1	1		6
その他	4	1	1		2			6	3	2			19
電気・ガス・水道業	1	2	2	1	1								7
情報通信業	9	4	7	6	13	3	14	9	8	3			76
運輸業・郵便業	2	1	3		2		1						9
卸売業	5	2	2	2	6	1	4	1	3				26
小売業			1		1					1			3
銀行・証券	8	5	2	5	4	4	10	3	9	1			51
保険	1	0					2		2	1			6
その他													0
不動産業								2	2	2			6
物品賃貸業													0
医療・保健衛生		1									1		2
法務								1					1
教育・学習支援業		1	1		3		1		1	3			10
他に分類されないサービス業（宗教・その他）					1					1			2
その他（マスコミ関係含む）			3	4		1			3	4			15
学術・開発研究機関					1				3	1			5
社会保険・社会福祉・介護事業			1										1
宿泊業・飲食サービス業							1		1				2
生活関連サービス業・娯楽業			1	2	1			1					5
複合サービス事業				2									2
国家公務員			2				1		1	1			5
地方公務員	1	5	1	3	1	2	1	1	4				19
上記以外										1	1		2
小計	34	23	34	35	42	19	45	26	46	24			328
合計	57		69		61		71		70				328

**【資料 2-21】奨学金制度・免除制度の採用状況（総合人間学部）**

奨学金制度<sup>\*1</sup>

年度		24	25	26	27	28
日本学生支援機構奨学金	申請者数	5	3	3	3	3
	採用者数 <sup>*2</sup>	3	3	3	2	2
地方公共団体・民間奨学金 <sup>*3</sup>	地方公共団体(利用人数)	3	1	1	2	2
	民間団体(利用人数)	9	10	10	12	9

<sup>\*1</sup> 貸与・給付をあわせた人数である。学生支援機構奨学金は3回生以上の採用数。

<sup>\*2</sup> 学生支援機構奨学金は3回生以上の採用数。

<sup>\*3</sup> 民間奨学金の主な団体：中山報恩会、小森記念財団、伊藤謝恩育英財団、等。

免除制度

年度		24	25	26	27	28
入学金免除・徴収猶予制度	申請者数	2	3	0	2	3
	採用者数	1	3	0	2	3
授業料免除制度 <sup>*1</sup>	申請者数	94	97	123	125	121
	全額免除(採用者数)	40	59	76	63	58
	半額免除(採用者数)	47	27	20	24	16

<sup>\*1</sup> 前後期あわせた延べ人数である。



人間・環境学  
研究科

### 3. 人間・環境学研究科

【資料 3-1】人間・環境学研究科 学生数の推移

(各年度 5月1日現在)

年度	修士課程					博士後期課程				
	男	女	計	指導教員数	教員1人当たり 学生数	男	女	計	指導教員数	教員1人当たり 学生数
24	189(7)	139(44)	328(51)	140*2	2.34	180(20)	148(24)	328(44)	138	2.38
25	173(9)	137(37)	310(46)	142*2	2.18	172(15)	148(31)	320(46)	140	2.29
26	194(17)	126(23)	320(40)	140*2	2.29	153(12)	137(33)	290(45)	138	2.10
27	212(20)	123(31)	335(51)	143*2	2.33	144(13)	145(39)	289(52)	141	2.05
28	215(20)	136(43)	351(63)	141*2	2.49	158(20)	139(37)	297(57)	139	2.14
29	197(16)	140(36)	337(52)	137*1	2.46	161(25)	137(44)	298(69)	137	2.18

注) ( )内の数字は留学生で内数。

\*1 准教授(修士課程担当 協力教員)1名を含む。

\*2 准教授(修士課程担当 協力教員)2名を含む。

【資料 3-2】修士課程 入学状況

年度	人間・環境学研究科							専攻別																	
								共生人間学専攻					共生文明学専攻					相関環境学専攻							
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	内数 総合人間学部 その他	入学定員充足率	入学定員	志願者数	入学者数	内数 総合人間学部 その他	入学定員充足率	入学定員	志願者数	入学者数	内数 総合人間学部 その他	入学定員充足率	入学定員	志願者数	入学者数	内数 総合人間学部 その他	入学定員充足率				
24	164	327	157	140	35	105	0.85	69	151	59	18	41	0.86	57	83	39	7	32	0.68	38	93	42	10	32	1.11
25	164	318	151	140	32	108	0.85	69	182	79	20	59	1.14	57	68	24	6	18	0.42	38	68	37	6	31	0.97
26	164	335	164	151	35	116	0.92	69	164	69	18	51	1.00	57	94	39	9	30	0.68	38	77	43	8	35	1.13
27	164	312	164	155	31	124	0.95	69	143	67	17	50	0.97	57	89	44	8	36	0.77	38	80	44	6	38	1.16
28	164	306	166	158	29	129	0.96	69	109	51	14	37	0.74	57	101	47	2	45	0.82	38	96	60	13	47	1.58
29	164	300	160	148	30	118	0.90	69	133	67	15	52	0.97	57	100	40	7	33	0.70	38	67	41	8	33	1.08

【資料 3-3】博士後期課程 進学・編入学状況

年度	人間・環境学研究科							専攻別																
								共生人間学専攻					共生文明学専攻					相関環境学専攻						
	入学定員	編入学志願者数	入学者数	内数 進学 編入学	入学定員充足率	入学定員	編入学志願者数	入学者数	内数 進学 編入学	入学定員充足率	入学定員	編入学志願者数	入学者数	内数 進学 編入学	入学定員充足率	入学定員	編入学志願者数	入学者数	内数 進学 編入学	入学定員充足率				
24	68	29	69	52	17	1.01	28	17	36	27	9	1.29	25	8	24	19	5	0.96	15	4	9	6	3	0.60
25	68	20	70	55	15	1.03	28	12	45	35	10	1.61	25	4	17	15	2	0.68	15	4	8	5	3	0.53
26	68	30	50	31	19	0.74	28	12	23	13	10	0.82	25	13	19	15	4	0.76	15	5	8	3	5	0.53
27	68	31	79	53	26	1.16	28	12	46	35	11	1.64	25	11	17	8	9	0.68	15	8	16	10	6	1.07
28	68	26	70	49	21	1.03	28	11	37	28	9	1.32	25	10	20	13	7	0.80	15	5	13	8	5	0.87
29	68	29	59	36	23	0.87	28	13	32	20	12	1.14	25	9	16	12	4	0.64	15	7	11	4	7	0.73

【資料 3-4】修士課程 留学生・社会人の入学状況

年度	人間・環境学研究科			専攻別								
				共生人間学専攻			共生文明学専攻			相関環境学専攻		
	全入学者	留学生	社会人	全入学者	留学生	社会人	全入学者	留学生	社会人	全入学者	留学生	社会人
24	140	21	11	59	8	8	39	12	1	42	1	2
25	140	21	9	79	13	6	24	6	3	37	2	0
26	151	15	7	69	5	5	39	9	1	43	1	1
27	155	34	6	67	13	4	44	18	1	44	3	1
28	158	26	4	51	6	3	47	16	0	60	4	1
29	148	24	0	67	13	0	40	8	0	41	3	0

【資料 3-5】博士後期課程 留学生・社会人の進学・入学状況

年度	人間・環境学研究科			専攻別								
	進・入学者 総数	留学生	社会人	共生人間学専攻			共生文明学専攻			相関環境学専攻		
				進・入学者 総数	留学生	社会人	進・入学者 総数	留学生	社会人	進・入学者 総数	留学生	社会人
24	69	12	14	36	4	7	24	7	5	9	1	2
25	70	15	6	45	6	5	17	9	0	8	0	1
26	50	15	6	23	6	3	19	7	1	8	2	2
27	79	18	12	46	7	8	17	8	3	16	3	1
28	70	13	18	37	2	13	20	9	3	13	2	2
29	59	21	8	34	10	4	14	6	2	11	5	2

【資料 3-6】留年・休学・退学の状況

(各年度5月1日現在)

		年度	24	25	26	27	28	29
修士課程	留年者	共生人間学専攻	18	14	17	19	18	14
		共生文明学専攻	14	13	10	9	17	15
		相関環境学専攻	7	5	4	4	5	4
		合計	39	32	31	32	40	33
	休学者	共生人間学専攻	11	10	11	10	10	11
		共生文明学専攻	9	10	8	9	7	8
		相関環境学専攻	5	5	2	2	2	1
		合計	25	25	21	21	19	20
	退学者	共生人間学専攻	4	6	5	3	8	
		共生文明学専攻	0	0	0	1	2	
		相関環境学専攻	1	5	3	3	0	
		合計	5	11	8	7	10	
博士後期課程	留年者	共生人間学専攻	56	61	68	54	54	46
		共生文明学専攻	44	41	35	33	39	43
		相関環境学専攻	3	5	6	6	7	8
		合計	103	107	109	93	100	97
	休学者	共生人間学専攻	45	39	46	27	29	28
		共生文明学専攻	26	19	24	20	14	15
		相関環境学専攻	3	2	3	2	5	4
		合計	74	60	73	49	48	47
	退学者	共生人間学専攻	3	4	3	5	6	
		共生文明学専攻	5	3	3	0	1	
		相関環境学専攻	2	3	0	1	3	
		合計	10	10	6	6	10	

注)・留年者数:毎年度5月1日現在の数  
 ・休学者数:毎年度5月1日現在の数  
 ・退学者数:当該年度内の累計数

【資料 3-7】研究生在籍数

年度	24	25	26	27	28	29
4月在籍者数	25	24	20	15	20	18
留学生数(内数)	15	9	11	8	15	14
10月在籍者数	32	30	35	30	31	43
留学生数(内数)	23	17	28	20	27	39

【資料 3-8】 修士課程 開設科目数

(平成 29 年度)

専攻	科目数			
	講義	演習	実習	総合科目
共生人間学専攻	123	70	2	3
共生文明学専攻	111	85		3
相関環境学専攻	57	65		3

【資料 3-9】 他研究科への聴講の状況

(人)

年度	24	25	26	27	28
文学研究科	44	40	51	68	50
教育学研究科	10	12	4	7	14
法学研究科	1	0	1	0	4
理学研究科	14	4	5	5	9
医学研究科		3	7	3	15
工学研究科	1	5	3	2	2
農学研究科	2	6	2	4	9
エネルギー科学研究科	2	5	2	0	0
公共政策大学院	1	1	7	6	7
地球環境学舎・学舎	1	13	3	3	6
経済学研究科	8	5	5	5	12
経営管理大学院	5	4	1	4	5
アジア・アフリカ地域研究研究科	3	3	0	4	2
情報学研究科	4	5	0	1	9
合計	96	106	91	112	144

【資料 3-10】 単位互換制度の利用状況

【受入】

年度	24	25	26	27	28	
奈良女子大学 大学院人間文化研究科	認定学生数	0	5	2	2	1
	認定単位数	0	8	4	4	2
大阪大学 大学院国際公共政策研究科	認定学生数	0	0	0	0	1
	認定単位数	0	0	0	0	4

【派遣】

年度	24	25	26	27	28	
奈良女子大学 大学院人間文化研究科	認定学生数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
大阪大学 大学院国際公共政策研究科	認定学生数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0

【資料 3-11】 入学前既修得単位の認定状況

年度	24	25	26	27	28	29
認定学生数	2	0	3	1	0	0
認定単位数	8 (1人) 10 (1人)	0	4 (2人) 9 (1人)	8	0	0

【資料 3-12】 TA採用状況

年度	24	25	26	27	28	29	
修士課程	学生数	328	310	320	335	351	337
	採用数	184	158	156	159	184	184
博士後期課程	学生数	328	320	290	289	297	298
	採用数	72	63	70	70	65	69
TA 採用合計数	256	221	226	229	249	253	

【資料 3-13】TA運用状況

年度		24	25	26	27	28	29
全学共通科目	科目数	150	164	171	156	140	172
	授業数	392	543	413	376	427	354
総合人間学部	科目数	86	60	59	56	61	64
	授業数	99	80	79	85	108	98
人間・環境学研究所	科目数	37	26	40	18	27	29
	授業数	38	26	40	25	36	38

【資料 3-14】RA採用状況

年度		26	27	28	29
博士後期課程学生数		290	289	297	298
RA 採用数	D1	2	6	3	0
	D2	4	6	8	5
	D3	5	2	4	10
合計		11	14	15	15

注) D1、D2、D3 は博士後期課程の年次を示す。

申請理由の内訳

年度	26	27	28	29
申請件数	17	15	20	29
申請理由(複数回答)				
調査・データ収集	5	9	15	13
データ解析・資料解析	5	3	7	4
試料調整、実験動物飼育・培養	1	0	1	1
実験(専門的実験技術)	5	4	9	11
専門的素養の活用	5	4	5	9
研究者育成	2	1	1	1
ワークショップの企画・運営	0	0	0	0

【資料 3-15】成績評価の方法

(平成 29 年度)

	専攻	授業形態	科目数	評価方法(採用率)								評価項目数(%)			
				出席	授業への参加	発表報告	レポート	期末レポート レポート 試験	小テスト 課題	期末試験	その他	1	2	3	4以上
修士課程	共生人間学専攻	講義	75	48.0	32.0	29.3	37.3	40.0	8.0	10.7	1.3	25.3	42.7	32.0	0.0
		演習	65	61.5	33.8	52.3	13.8	13.8	6.2	0.0	1.5	29.2	56.9	13.8	0.0
	共生文明学専攻	講義	75	40.0	49.3	20.0	40.0	41.3	0.0	18.7	0.0	28.0	44.0	21.3	6.7
		演習	67	41.8	59.7	56.7	23.9	9.0	0.0	9.0	6.0	22.4	53.7	19.4	4.5
	相関環境学専攻	講義	39	74.4	33.3	20.5	56.4	15.4	0.0	2.6	2.6	15.4	64.1	20.5	0.0
		演習	49	75.5	30.6	30.6	28.6	8.2	0.0	0.0	4	32.7	57.1	10.2	0.0
全体	講義	189	51.4	40.0	24.3	43.2	36.2	3.2	12.4	1.1	24.3	47.6	25.4	2.6	
	演習	181	58.0	42.5	48.1	21.5	10.5	2.2	3.3	3.9	27.6	55.8	14.9	1.7	
博士後期課程	全体	講義	72	2.8	23.6	2.8	9.7	45.8	51.4	9.7	9.7	41.7	55.6	0	2.8
		演習	72	2.8	23.6	2.8	9.7	45.8	51.4	9.7	9.7	41.7	55.6	0	2.8

注)・平成 29 年度『学生便覧』より調査  
・採用率は、各評価方法において、それを採用する科目数の全科目数に対する割合

【資料 3-16】修士課程 単位修得状況

(平成 28 年度)

課程	専攻	科目数	単位取得者数	受講登録者数	取得率
1・2 回生	共生人間学専攻	135	818	953	85.8%
	共生文明学専攻	136	736	832	88.5%
	相関環境学専攻	85	715	805	88.8%

【資料 3-17】修士課程 学位授与の状況

	年度	24	25	26	27	28	
		授与者	未修者	授与者	未修者	授与者	未修者
共生人間学専攻	授与者	68	18	52	21	72	21
	未修者	18	21	22	21	22	22
共生文明学専攻	授与者	42	13	41	10	25	9
	未修者	13	10	9	18	16	16
相関環境学専攻	授与者	42	5	37	8	33	7
	未修者	5	8	7	7	4	4
総計	授与者	152	36	130	39	130	38
	未修者	36	39	38	46	151	42

注) 修士課程在籍 2 年で学位を取得できるが、各年度の授与者および未修者には、3 年以上の在籍者が含まれる

【資料 3-18】修士課程 標準修業年限内修了率と「標準修業年限×1.5」年内修了率

入学年度	入学者数		標準修業年限内修了者数		標準修業年限内修了率	標準修業年限×1.5 年内修了者数		「標準修業年限×1.5」年内修了率
	人数	修了年度	人数	修了年度		人数	修了年度	
22	164	23	132	23	80.5%	24	13	88.4%
23	150	24	129	24	86.0%	25	13	94.7%
24	140	25	110	25	78.6%	26	15	89.3%
25	140	26	112	26	80.0%	27	13	89.3%
26	151	27	119	27	78.8%	28	17	90.1%
27	155	28	129	28	83.2%	29		83.2%

【資料 3-19】修士課程修了者の進路

	年度			24			25			26			27			28			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
修了者数	94	58	152	71	59	130	69	61	130	85	49	134	88	63	151				
進路別人数	人間・環境学研究科	33	22	55	14	17	31	27	26	53	31	16	47	21	15	36			
	他研究科	4	0	4	3	1	4	1	1	2	2	2	4	0	1	1			
	大学院進学(合計)	37	22	59	17	18	35	28	27	55	33	18	51	21	16	37			
	就職	48	19	67	46	34	80	35	28	63	45	25	70	54	33	87			
	上記以外	9	17	26	8	7	15	6	6	12	7	6	13	13	14	27			
大学院進学率(%)	39.4	37.9	38.8	23.9	30.5	26.9	40.6	44.3	42.3	38.8	36.7	38.1	23.9	25.4	24.5				
就職率(%) <sup>*1</sup>	51.1	32.8	44.1	64.8	57.6	61.5	50.7	45.9	48.5	52.9	51.0	52.2	61.4	52.4	57.6				
就職希望者 <sup>*2</sup> の就職率(%) <sup>*3</sup>	78.7	52.8	69.1	80.7	81.0	80.8	83.3	80.0	81.8	83.3	75.8	80.5	80.6	68.8	75.7				

注)・\*1 就職率 = 就職者数 / 修了者数  
 ・\*2 就職希望者数 = 修了者数 - 大学院進学者数 - 他学部等への入学者数  
 ・\*3 就職希望者の就職率 = 就職者数 / 就職希望者数

【資料 3-20】修士課程修了者の就職状況

(産業別就職状況)

	修了年度			24			25			26			27			28			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
農業・林業・漁業			0	1	1	1	1	1	0			0	0	2	2						
建設業	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	5			
製造業	18	6	24	19	8	27	11	5	16	21	2	23	20	8	28	89	29	118			
電気・ガス・水道等			0	2	2			0				0	1	1	2	3	1	4			
情報通信業	7	1	8	5	6	11	4	2	6	10	5	15	11	2	13	37	16	53			
運輸・郵便業	2		2		0	1		1				0	3	3	3	3	3	6			
卸売・小売業	2	3	5		3	3	2	3	5	2	2	4	1	1	2	7	12	19			
金融・保険業	4	1	5	4	3	7	1	1	2	2	1	3	4	3	7	15	9	24			
不動産・物品賃貸業			0		0	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4				
学術研究, 専門・技術サービス業	学術・開発研究機関		0	1	1			0	1	1	1	1	1	1	0	3	3				
	法務		0		0	1		1	1	1	1	0	1	1	2						
	その他の専門・技術サービス	4	2	6	6	1	7	3	3	6	1	2	3	4	4	8	18	12	30		
宿泊・飲食サービス業			0	1	1	2		0			0		0	1	1	2					
生活関連サービス業・娯楽業			0		0	1	1				0	1	1	0	2	2					
教育・学習支援業	学校教育	3	5	8	2	5	7	7	2	9	5	5	10	1	4	5	18	21	39		
	その他の教育、学習支援			0	1	2	3		3	3		0	1	1	2	5	7				
医療・福祉	医療業・保健衛生			0		0	2	2	4		1	1	1	1	2	4	6				
	社会保険・社会福祉・介護事業			0		0		0			0	1	1	1	0	1					
複合サービス事業			0	1	1			0			0		0	1	0	1					
その他のサービス業			0		0	2	1	3	1	3	4	2	1	3	5	5	10				
公務員	国家公務	3		3	1	4			0		0	2	2	4	8	3	11				
	地方公務	4		4	1	1	2	1	1	2		1	1	4	1	5	10	4	14		
上記以外		1	1	1	1			0	1	1	2			0	2	2	4				
合計	48	19	67	46	34	80	35	28	63	45	25	70	54	33	87	228	139	367			

(職業別就職状況)

	修了年度			24			25			26			27			28			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
研究者	1		1	4	3	7	2		2	3	2	5	5	1	6	15	6	21			
農林水産技術者			0		0			0				0	1	1	0	1	1				
技術者	製造技術者(開発)	12	1	13	12	1	13	3	3	6	14		14	16	1	17	57	6	63		
	製造技術者(開発除く)	1		1		0	2	2	4	1		1	3	2	5	7	4	11			
	その他の技術者	4		4	2	3	5	1		1	6	2	8	7	2	9	20	7	27		
専門的・ 技術的職業	大学		1	1	1	1			0		1	1			0	0	3	3			
	中等教育学校			0		0	2	2	4			0			0	2	2	4			
	高等学校	2	1	3	2	3	5	2		2	2	2		2	2	8	6	14			
	中学校	1		1	1	1			0		1	1	1	1	1	2	2	4			
	特別支援学校			0		0			0	1	1	1			0	1	0	1			
	その他			0		0			0	1	1	1	1	1	1	1	1	2			
	保健医療			0		0			0		0	1	1	1	1	1	0	1			
その他	保健師・助産師・看護師			0		0			0			0	1	1	1	0	1				
	医療技術者			0		0	2	2	2		1	1			0	0	3	3			
	その他保健医療従事者			0		0			0			0	1	1	0	1	1				
事務・管理的職業	22	14	36	20	16	36	21	13	34	7	12	19	9	10	19	79	65	144			
販売業			0		0			0	4	2	6		4	4	4	6	10				
サービス職業従事者			0		0			0	1		1	2	2	4	3	2	5				
保安職業	2		2	1	1			0			0	1	1	3	1	4					
農林漁業			0	1	1			0			0		0	1	0	1					
上記以外		1	1	1	1		3	3	3	1	4	9	5	14	13	10	23				
合計	48	19	67	46	34	80	35	28	63	45	25	70	54	33	87	228	139	367			

【資料 3-21】 博士後期課程 学位授与の状況

		年度	23	24	25	26	27	28
課程博士	共生人間学専攻	課程博士	14	24	21	24	35	19
		在籍3年の学位取得(内数)	(4)	(4)	(8)	(5)	(8)	(4)
		研究指導認定退学	20	27	29	35	31	18
		未修者	55	61	70	59	51	48
	共生文明学専攻	課程博士	15	15	12	11	12	13
		在籍3年の学位取得(内数)	(0)	(1)	(1)	(3)	(0)	(2)
		研究指導認定退学	22	20	17	14	9	10
		未修者	46	41	35	37	39	44
	相関環境学専攻	課程博士	10	7	7	9	2	5
		在籍3年の学位取得(内数)	(8)	(6)	(6)	(7)	(2)	(4)
		研究指導認定退学	2	5	1	1	3	1
		未修者	4	5	6	6	7	10
	課程博士 計		39	46	40	44	49	37
	在籍3年の学位取得(内数)		(12)	(11)	(15)	(15)	(10)	(10)
	旧専攻	人間・環境学専攻	0	0	0	1	0	0
文化・地域環境学専攻		4	2	0	1	0	0	
環境相関研究専攻		1	0	0	0	0	0	
旧専攻 課程博士 計		5	2	0	2	0	0	
合計	課程博士	44	48	40	46	49	37	
	在籍3年の学位取得(内数)	(12)	(11)	(15)	(15)	(10)	(10)	
	累計	605	653	693	739	788	825	
	研究指導認定退学	44	52	47	50	43	29	
未修者		105	107	111	102	97	102	
論文博士	専攻別	共生人間学専攻	1	0	0	2	5	2
		共生文明学専攻	1	0	0	2	0	0
		相関環境学専攻	0	0	0	0	1	0
		計	2	0	0	4	6	2
		累計	37	37	37	41	47	49

注)・課程博士の値は、研究指導認定退学の後に学位を授与された者の数を含む  
 ・課程博士の( )内の値は、博士後期課程在籍3年で学位を授与された者の数で内数

【資料 3-22】 博士後期課程 講座別学位授与の状況

専攻	年度	23	24	25	26	27	28
共生人間学専攻	11. 人間社会論講座	4	8	6	10	12	6
	12. 思想文化論講座	1	2	3	2	10	6
	13. 認知・行動科学講座	2	7	6	4	4	2
	14. 数理科学講座	1	0	1	0	3	1
	15. 言語科学講座	4	7	4	6	5	4
	16. 外国語教育論講座	2	0	1	2	1	0
	専攻計	14	24	21	24	35	19
共生文明学専攻	21. 現代文明論講座	6	3	5	3	4	7
	22. 比較文明論講座	2	1	0	1	2	1
	23. 文化・地域環境論講座	5	8	4	4	2	1
	24. 歴史文化社会論講座	2	3	3	3	4	4
	専攻計	15	15	12	11	12	13
相関環境学専攻	31. 共生社会環境論講座	1	0	0	0	0	0
	32. 分子・生命環境論講座	4	2	1	3	0	0
	33. 自然環境動態論講座	3	3	3	4	1	3
	34. 物質相関論講座	2	2	3	2	1	2
	専攻計	10	7	7	9	2	5
小計		39	46	40	44	49	37
旧専攻	人間・環境学専攻	0	0	0	1	0	0
	文化・地域環境学専攻	4	2	0	1	0	0
	環境相関研究専攻	1	0	0	0	0	0
	旧専攻計	5	2	0	2	0	0
研究科合計		44	48	40	46	49	37

注) 論文提出により学位を授与された者の数を除く。

【資料 3-23】博士後期課程 標準修業年限内修了率と「標準修業年限×1.5」年内修了率

入学年度	入学者数		標準修業年限内修了者数		標準修業年限内修了率		標準修業年限×1.25年修了者数		標準修業年限×1.5年修了者数		「標準修業年限×1.5」年内修了率
	人数	修了年度	人数	修了年度	人数	修了年度	人数	修了年度	人数		
20	75	22	13		17.3%	23	5	24	6	32.0%	
21	71	23	12		16.9%	24	6	25	2	28.2%	
22	82	24	11		13.4%	25	4	26	3	22.0%	
23	86	25	15		17.4%	26	4	27	5	27.9%	
24	69	26	15		21.7%	27	4	28	3	31.9%	
25	70	27	10		14.3%	28	4	29		20.0%	
26	50	28	10		20.0%	29		30		20.0%	

【資料 3-24】博士後期課程 修了者・研究指導認定退学者の進路

年度	24			25			26			27			28			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
修了者数 <sup>1)</sup>	46	24	70	35	34	69	44	26	70	28	33	61	22	24	46	
進路別人数	就職	21	8	29	23	16	39	29	16	45	16	17	33	11	10	21
	その他	25	16	41	12	18	30	15	10	25	12	16	28	11	14	25
就職率	45.7	33.3	41.4	65.7	47.1	56.5	65.9	61.5	64.3	57.1	51.5	54.1	50.0	41.7	45.7	

<sup>1)</sup> 博士後期課程修了者と研究指導認定退学者の合計であり、研究指導認定退学後に学位を取得した者は含まれない。  
注)・就職年度は、学位授与者では学位授与年度、学位未授与の研究指導認定退学者では退学年度とした。

【資料 3-25】博士後期課程 修了者・研究指導認定退学者の就職状況

(産業別就職状況)

修了年度	24			25			26			27			28			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
製造業	1		1	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	3	2	5
情報通信業													1	1	2	1	1	2
卸売・小売業										1	1	2	1	1	2			2
学術研究, 専門・技術サービス業	1	1	2	3	3	6	1	1	2	1	1	2	1	1	2	6	1	7
宿泊・飲食サービス業				1	1	2	1	1	2							2	1	3
生活関連サービス業・娯楽業				2	2	4										2	2	4
教育・学習支援業	1	1	2													1	1	2
医療・福祉	15	4	19	15	12	27	23	15	38	12	13	25	9	8	17	74	52	126
その他				2	2	4	2	1	3	1	1	2				4	4	8
公務員	2		2				1	1	2	1	1	2				4	4	8
上記以外	1	1	2	1	1	2	1	1	2							2	2	4
合計	21	8	29	23	16	39	29	16	45	16	17	33	11	10	21	100	67	167

(職業別就職状況)

修了年度	24			25			26			27			28			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
研究者	6	2	8	9	10	19	10	3	13	7	6	13	5	5	10	37	26	63
技術者	1	1	2				1	1	2	1	1	2				3	3	6
製造技術者(開発)				1	1	2										1	1	2
製造技術者(開発除く)																		
その他の技術者							1	1	2							1	1	2
専門的・技術的職業	7	3	10	7	1	8	12	10	22	6	6	12	4	2	6	36	22	58
教員	3		3	1	1	2				1	1	2				2	2	4
高等学校							1	1	2				1	1	2			
中等教育学校																		
その他				1	1	2	1	1	2	1	1	2				2	3	5
保健医療	1		1				1	1	2							1	1	2
医師・歯科医師																		
医療技術者							1	1	2							1	1	2
その他	3		3	1	2	3	2	2	4				1	1	2	6	3	9
事務・管理的職業				3	3	6				2	2	4	1	1	2	4	7	11
販売業				1	1	2				1	1	2				1	1	2
その他										1	1	2	1	1	2	2	1	3
合計	21	8	29	23	16	39	29	16	45	16	17	33	11	10	21	100	67	167

【資料 3-26】教員免許状資格取得状況

年度		24	25	26	27	28
中学専修	社会	2				1
	国語			1		
	英語	2	2	3	2	
	保健体育	1			1	
	数学					
	理科		1			
	小計	5	3	4	3	1
高校専修	地理歴史	3		1		1
	公民					
	国語		1	1		
	英語	2	2	4	3	
	保健体育	1			1	
	数学		1			
	理科	1	1			
小計	7	5	6	4	1	
免許数総計		12	8	10	7	2
取得者数		7	5	6	4	1

【資料 3-27】日本学術振興会特別研究員への採用状況

	24	25	26	27	28	29
DC1	5	8	4	7	7	2
DC2	9	9	10	8	15	6
計	14	17	14	15	22	8

(人)

【資料 3-28】奨学金制度と免除制度の採用状況 (人間・環境学研究科)

日本学生支援機構奨学金

年度		25	26	27	28	29
修士課程	申請者数	62	49	48	50	31
	採用者数	62	49	48	50	31
博士後期課程	申請者数	19	9	22	10	12
	採用者数	19	9	22	10	12

入学科免除

年度		25	26	27	28	29
修士課程	申請者数	40	44	48	56	50
	採用者数	14	20	18	22	20
博士後期課程	申請者数	4	8	8	5	11
	採用者数	3	3	4	0	4

授業料免除

年度		25		26		27		28		29	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
修士課程	申請者数	99	94	112	129	129	138	143	136	126	133
	全額免除 (採用者数)	32	43	51	77	59	44	70	59	61	46
	半額免除 (採用者数)	55	43	36	20	34	57	42	55	39	61
博士後期課程	申請者数	90	86	97	100	103	108	111	123	114	119
	全額免除 (採用者数)	49	48	60	68	75	67	81	72	88	71
	半額免除 (採用者数)	37	34	25	16	13	27	18	35	12	38



# 教育研究指導

## 4. 教育研究指導

### 【資料 4-1】ガイダンスについて

#### 総合人間学部

(平成 29 年度)

日程	ガイダンス名	内容	主催
2017年4月7日(金) 総合人間学部棟 1102講義室	新入生ガイダンス	教員の紹介と大学生生活全般についての説明 学部長挨拶 / 全体説明 / 学生生活委員会から / 吉田南構内交通安全委員会から / 人権問題相談窓口から / 吉田南総合図書館の紹介 / 同窓会の案内 / 講演「大学生生活の過ごし方—ストレスと上手につきあうには?—」(京都大学カウンセリングルーム講師 和田竜太) / 担任、教員アドバイザー、指導教員等についての説明 / 各担任に分かれての説明	教務委員会・教務掛
2017年4月7日(金) 総合人間学部棟 1102講義室	総合人間学部 講演会 心豊かな学生生活のために	「大学生生活の過ごし方—ストレスと上手につきあうには?—」 (京都大学学生総合支援センター カウンセリングルーム 和田 竜太 講師)	学生生活委員会
2017年4月10日(月)	新2・3・4回生学系ガイダンス	学系ごとに全体説明、各教員アドバイザーから説明 履修コースを提示し、卒業論文・卒業研究に至る過程を説明する 人間科学系(1B06講義室) 認知情報学系(1102講義室) / 国際文学系(1B05講義室) / 文化環境学系(1B07講義室) / 自然科学系(1B09講義室)	教務委員会・教務掛
2017年4月11日(火)	新2・3・4回生学系ガイダンス	同上 人間科学系(1B06講義室) / 認知情報学系(1102講義室) / 文化環境学系(1B07講義室)	教務委員会・教務掛
2017年10月16日(月)	学系分属説明会【自然科学系】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学系の中の各関係・分野の紹介と就職進学の説明会</li> <li>・1回生を対象とするが、2回生以上の参加も認める</li> <li>・学生には、学生便覧、教員プロフィール、履修モデルの持参を指示</li> <li>・分属希望調査(調査票を説明開示に配布、提出は、2018年1月9日(火)まで)</li> </ul>	教務委員会・教務掛
2017年10月17日(火)	学系分属説明会【人間科学系】		
2017年10月18日(水)	学系分属説明会【認知情報学系】		
2017年10月19日(木)	学系分属説明会【国際文学系】		
2017年10月20日(金)	学系分属説明会【文化環境学系】		
2017年9月29日(金) 13:30~16:00 総合人間学部棟 1102講義室	平成29年度就職ガイダンス・就活体験報告会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「開会あいさつ」 学生生活委員会委員長 吉田寿雄 教授 就職担当教員 石原昭彦 教授</li> <li>・「就活で大切なポイント」株式会社マイナビ</li> <li>・就職内定者からの就活体験等の報告(総合人間学部生4回生の内定者(3名)、人文学部生2回生の内定者(2名)、計5名)</li> <li>・質疑応答</li> </ul>	学生生活委員会

#### 人間・環境学研究科

(平成 29 年度)

日程	ガイダンス名	内容	主催
2017年4月6日(木) 10:30~12:00 人間・環境学研究科棟 地下大講義室	「実験実習における安全と環境保全」講習会	「実験実習における安全と環境保全」講習会 ●化学薬品の管理、取扱いにおける安全と実験廃棄物処理 ●レーザー、極低温、高圧ガス、強磁場を使った作業における注意事項 ●ライフサイエンス関係実験における安全 ●理系のフィールドワークの安全対策 ●文系フィールドワーク実習における安全 (理系実験系学部生(3,4回生、修士新入生・博士編入生)、文系フィールドワーク分野学部生(3,4回生、修士新入生・博士編入生)対象)	共生人間学専攻 (認知・行動科学講座) (文化・地域環境論講座) 相関環境学専攻
2017年4月7日(金)	全体 新入生オリエンテーション	(第1部) 10:00~11:30 履修指導 / 薬物乱用防止等について / 人権問題について / 国際交流について / 図書館利案内 / 「人間・環境学フォーラム」案内 / ティーチング・アシスタントについて / 同窓会案内 / 環境行動啓発活動について (修士課程新入生対象)	大学院教務委員会・大学院掛
		(第2部) 人間・環境学フォーラム 新入生歓迎講演会・交流会・新入生歓迎講演会 15:40~16:20(人間・環境学研究科棟 地下大会議室) 「アートは世界を救うか?」 岡田温司 教授 司会: 戸田剛文 准教授 ・16:25-17:30 新入生交流会 大学院人間・環境学研究科 講演会 心豊かな学生生活のために 「大学院生活の過ごし方—ストレスと上手につきあうには?—」 (京都大学 学生総合支援センター カウンセリングルーム 和田竜太 講師) 人間・環境学フォーラム実施委員会 / 学生生活委員会 共催 ・懇親会 19:00~20:30(吉田生協食堂1階)	人間・環境学フォーラム実施委員会
		講座別オリエンテーション(修士課程新入生対象) 17:30~18:30	大学院教務委員会・大学院掛
2017年4月10日(月)	修士課程2回生 履修・進路指導説明会		大学院教務委員会・大学院掛
2017年4月13日(木)	留学生オリエンテーション	新入の留学生を対象にしたオリエンテーション ・挨拶: 藤田留学生アドバイザー / 国際交流委員 ・特に重要な法律や学内事務手続きに関する説明: 大学院掛 ・懇親会	大学院掛 国際交流委員会
2017年4月15日(土) 13:10~16:30	平成29年度 第1回入学試験 東京説明会	・京都大学 産学官連携本部 東京日本橋サテライトオフィス ・研究科紹介 / 入試情報説明 / 各専攻紹介 ・個別相談 / 過去問閲覧 (修士課程のみの直近4回分)	
2017年4月22日(土) 13:00~16:30	平成29年度 第1回入学試験 京都説明会	・研究科紹介 / 入試情報説明 / 各専攻紹介 ・個別相談 / 過去問閲覧 (修士課程のみの直近4回分)	
2017年10月6日(金)	博士學位論文作成説明会	・博士學位論文提出日程、提出要領等の説明(博士後期課程3回生対象)	大学院教務委員会
2017年10月20日(金)	修士學位論文作成説明会	・修士論文提出日程、提出要領等の説明(修士課程2回生対象)	大学院教務委員会
2017年10月21日(土) 13:10~16:30	平成29年度 第2回入学試験 東京説明会	・京都大学 産学官連携本部 東京日本橋サテライトオフィス ・研究科紹介 / 入試情報説明 / 各専攻紹介 ・個別相談 / 過去問閲覧 (修士課程のみの直近4回分)	
2017年10月28日(土) 13:00~16:00	平成29年度 第2回入学試験 京都説明会	・研究科紹介 / 入試情報説明 / 各専攻紹介 ・個別相談 / 過去問閲覧 (修士課程のみの直近4回分)	

【資料 4-2】学習指導方法の工夫

(教員アンケート H24・H27・H29 年度実施)

項目・内容		学部教育			大学院教育			全共教育					
		H24: 件数	H27: 件数	H29: 件数	具体例	H24: 件数	H27: 件数	H29: 件数	具体例	H24: 件数	H27: 件数	H29: 件数	具体例
授業形態	少人数授業	6	9	17		11	12	15		5	6	5	
	対話・討論型授業	6	15	16	・グループ討論(5名程度) ・質の異なる3つの集団を準備 (受講学生の属性やテーマによつて多様な仲間づくり) ・グループワーク, ペアワーク	15	15	18	・グループ討論(5名程度) ・必ず一人1回の発言を促す ・隣の人とのディスカッション	10	9	13	・予習の徹底による対話型授業 ・グループワーク, ペアワーク
	講義・演習の併用型授業	6	3	7		2	1	4			1	3	
	デモ・実験・現物観察等による体験型授業	5	4	3		3	3	4		6	5	2	
	野外調査・現物調査を組み入れた授業	5	6	10	・現場体験(インターンシップ)	4	3	5	・現場体験(インターンシップ)	3	3	7	
授業	質問の多用 (それに対する回答と議論に基づく授業展開)	1	2	4	・事前学習に基づいた質問・意見を講義時に提出させ、その場で回答する		1	2	・事前学習に基づいた質問・意見を講義時に提出させ、その場で回答する	2	2	2	
	プレゼンテーションの活用(重視)	1	4	3		3	7	4			3	3	
	その他				・初回到授業のテーマと意義を詳細に説明 ・時事問題への言及 ・必ず全員に発言させる ・学生による主体的な課題設定 ・学生の創造的実験の実施 ・毎回、授業中に出された課題について自分の意見を提出させ、翌週、それを用いて討論				・最新の研究成果や話題を提供 ・時事問題への言及 ・毎回、授業中に出された課題について自分の意見を提出させ、翌週、それを用いて討論				・初回到授業のテーマと意義を詳細に説明 ・毎回必ず発言させる ・学生による主体的な課題設定 ・野外実習での自由研究 ・毎回、授業中に出された課題について自分の意見を提出させ、翌週、それを用いて討論
資料・教材等	英語論文・教科書・教材の利用	3	2	1		5	4	2					
	画像・映像・音声資料の活用(ウェブ資料)	6	4	3		2	2	1		6	9	5	
	講義資料・補助資料の配布	2	4	1			3	1		2	4	1	
	パソコンの活用 (デモ、シミュレーション、演習解答)	1	1	1			3			1		1	
	教科書・教材の作成					2						1	・ビデオ教材の作成とその活用
	その他												・学生のタブレット利用
課題	レポート・小テスト・演習問題 ・毎回、複数回、小単元毎 ・添削後返却	1	2	2	・事前の資料講読の指示	2		1		3	4	5	
その他	TAの活用	4	8	3		2		1		7		7	
	授業用ウェブサイトの活用 (資料、プログラム、課題)	1	1	1			1	1		2	1	2	
	英語による授業(対話・討論型等)	1	1			2	3			1	3		
	自律型学習支援システム(CALL)の活用									4	3	2	
	学習支援システム(PandA)の活用							1			1	4	
その他				・Twitterの活用(授業中の質問・感想の提示・共有) ・卒業論文・研究のテーマが出来るだけ早く決められるような助言				・Twitterの活用(授業中の質問・感想の提示・共有) ・適切な先行研究を追ってゆけるような助言 ・京大内の他の大学院や他大学の院生、研究者との交流 ・通常の授業の他に月例の発表演習				・講義後にリアクションペーパーを提出させ、次週にフィードバック ・理論的知識の実践的な場での活用を促す ・チーム・ティーチング(複数の教員での丁寧な実技実習の指導) ・実験実習の改善の検討(国際高等教育院とともに)	

【資料 4-3】授業時間外の学習を促す工夫

(教員アンケート H24.6月・H27.7月・H29.7月実施)

項目・内容	学部教育			大学院教育			全共教育						
	H24: 件数	H27: 件数	H29: 件数	具体例	H24: 件数	H27: 件数	H29: 件数	具体例	H24: 件数	H27: 件数	H29: 件数	具体例	
情報の提供	教科書・参考書の提示	2	2	2		4	2	2		1	2		
	必読書籍・論文の提示	1	2	3			4	5		1	3	2	
	関連資料（文献・書籍・資料等）の紹介	6	4	2		8	4	4		2	3	3	・シラバスに掲載
	関連情報掲載の URL を紹介	1				2				2			
資料・教材	講義資料の WEB 掲載	1				1		1		1	2	1	
	講義資料の事前配布	1	3	3			3	3			1		
	その他				・シラバスに資料の提示								
講義内	プレゼンテーションの活用	3	4	4	・プレゼンの事前指導 ・大学院生と学部生とをペアにする	2	8	5		1	3	2	・レジュメの作成
	討論・議論型授業	1	2			1	1	3				2	
	準備学習・復習の指導		2		・学生自身による設問設定 ・事前に資料を読み、質問・意見を当日提出 ・速読・精読部分を予め指示	1	1	9	・講義内で時間外学習が進むように基礎的部分を指導 ・予習したものを提出させ、添削 ・説明担当箇所を事前に決定 ・準備学習の指示	5	3	3	・準備学習の指示
課題	宿題の提示（レポート・小テスト・演習等）	20	10	16	・講義内では終わらな課題を出す ・自分で考える学習内容を選ぶ	12	7	11		24	20	29	・毎回課題を課し、採点して返却、質問への回答 ・グループ課題を課す ・期末レポートを早めに提示
	自主学習用の問題等の提示	2	1	1		3	1			3	6	2	
	野外調査	1	1	2		1	1	1		1	1	1	・時間外の野外実習
その他	学生主導ゼミ・勉強会の推奨	2	1			2	2						
	メールによる学習指導					1		2		1			
	学習支援システム（PandA）の活用		1	1			1	2			1	6	
	定期的な研究進捗状況の報告	1		1		1	3	4	・研究成果報告会				
	時間外指導時間の確保	1		1		1	5	1			2		
	授業時間外学習時間の確保	1		2		2				1		3	
	その他				・学問の魅力と意義を伝える ・学修成果の将来的な寄与や発展を伝える ・シラバスによる準備学習の指示 ・毎回コメントを提出させる ・受講生間の話し合いで、分担箇所の割り当てを行う				・シラバスによる準備学習の指示 ・分野で組織的な履修指導 ・院生や他の研究者との交流 ・時間外の研究会や個別指導				・シラバスに準備学習の指示 ・演習問題・宿題に対する略解を KULASIS で公開 ・毎回の授業の成果等記載する自己記録帳の作成（学期終了後にレポートとして提出） ・CALL の活用 ・eLearning の活用 ・TA の活用（事前学習の指導）

**【資料 4-4】基礎学力不足の学部学生への配慮**

(教員アンケート H24.6月・H27.7月・H29.7月実施)

項目・内容	全学共通教育				学部教育				
	H24 件数	H27 件数	H29 件数	具体例	H24 件数	H27 件数	H29 件数	具体例	
講義内対応	基礎学力不足を前提とした授業	3	5		2	1			
	学力把握とそれに対応した教材と教授法の選定	2	7	10	2	10	4	・基本からの詳細な解説	
	予習・復習の徹底	2				1			
	その他				・質問時間の確保 ・机間巡回の充実 ・レポート作成方法の詳細説明(講義1回)			・質問(質問用紙)の受付、即回答 ・発展的な内容に触れる際にはそのことを明言	
授業補助	書籍・文献等の紹介	5	1	4	・基礎的文献の提示	5	2	5	
	課題の提示	4	1			1	1		
	教材開発	1							
受講者への対応	質問等への個別対応 対応時間の設定(オフィスアワー等)	5	6	7	・添削時のコメント ・対話時間の確保 ・オフィスアワーの活用	4	8	6	・面談 ・オフィスアワーの活用
	TAの活用	1				1	1		
	学習進捗状況の把握	1				2	1		
	その他				・関連講義の紹介				・日常的な指導 ・大学院生とベアにした学習

**【資料 4-5】研究教育上の目的やディプロマ・ポリシーを意識した学習方法の工夫・成績評価の観点(基準)**

(教員アンケート H29.7月実施)

**【総合人間学部】**

項目	学習方法の工夫	成績評価の観点
幅広い知識、多角的視点、柔軟な発想	・幅広い視点における思考力の育成を重視(4) ・文理融合複眼的視座に立った履修の指導 ・他の専門分野の戦略的な学習を促す ・幅広い分野の参考文献書籍の紹介 ・多専攻生の受入	・多角的視点、柔軟な発想 ・幅広い視点 ・批判的思考
プレゼンテーション能力、対話力、リーダーシップ	・発表・討論の重視(3) ・発表の独創性の育成 ・対話能力の育成 ・対話型授業 ・学生から現代的問題の提示させ、議論する	・発表の重視(4) ・討論の重視(5) ・発表の論理構成の明確さ、議論の質、対話能力
専門性	・レポート課題(2) ・検索能力の構築 ・問題意識の明確化を促す ・重要点に関する質問をすることで、思考力の育成 ・レポートの丁寧な添削 ・参考文献の紹介	・独創性(3:研究課題、着眼点) ・独自の問題関心 ・問題提起から解決までの過程における論理的一貫性 ・説得性・論理性・明解性
挑戦する創造的姿勢、持続力	・持続的な学修を促すための教材の工夫や助言 ・学習者一人ひとりの学習目的や動機づけを重視した授業展開	・持続的な取組(3) ・資料の準備の程度

**【人間・環境学研究科】**

項目	学習方法の工夫	成績評価の観点
幅広い知識、複眼的思考	・文理双方の視点の修得 ・幅広い視点における思考力の育成 ・広範な領域の勉学の奨励 ・幅広い分野の文献・書籍の紹介 ・他の専門分野の履修を促す	・幅広い視点 ・批判的思考 ・個別領域に留まらない総合的な理解力
問題解決の企画力	・問題解決型課題を提示 ・研究課題を自ら設定し、解決方法を集団で議論させる ・学生から現代的問題を提示させ、議論する ・現代社会の諸問題に対する、総合的、実践的な理解の促進	・問題解決のための実践的な能力
高度な研究能力	・問題意識を明確化させる ・発表の重視(4) 例：発表資料の事前準備、時間内での要点整理、着眼点説明をさせる ・議論の重視(6) 例：問題提起能力の育成を図る ・参考文献の紹介	・論理性(3) ・発表の重視(5) ・討論の重視(5) 例：議論の質
着想の独創性	・自身による問題設定	・独創性(3)
持続的努力	・自習資料の提供 ・学生各自の学習目的の重視	・課題への対応(2) ・実験に取り組む姿勢 ・資料収集能力 ・意見・質問による授業への参加状況

**【資料 4-6】大学院生の学会発表者数**

	25				26				27				28			
	国内会議		国際会議		国内会議		国際会議		国内会議		国際会議		国内会議		国際会議	
	修士	博士	修士	博士												
共生人間学専攻	12	93	2	23	19	67	2	25	31	90	6	31	25	49	16	43
共生文明学専攻	2	27	1	10	0	24	0	9	4	32	1	4	1	7	5	23
相関環境学専攻	62	54	24	32	81	30	20	11	87	44	25	21	73	48	3	7
合計	76	174	27	65	100	121	22	45	122	166	32	56	99	104	24	73
	250		92		221		67		288		88		203		97	

**【資料 4-7】学会への参加を促す取組み**

(教員アンケート H24.6月, H27.7月, H29.7月実施)

項目	第1専攻			第2専攻			第3専攻		
	H24	H27	H29	H24	H27	H29	H24	H27	H29
学会（シンポジウム）参加費の補助	8	9	13	2		1	20	8	15
旅費の補助	17	14	14	2	2	2	21	9	17
研究進捗状況に合わせた学会発表の提案・奨励とそのための指導	1	3	5	1	4	1	2	4	2
海外現地調査、留学体験の推奨				1	2				
奨学金・研究助成の申請のサポート			2	1	2				9
学会情報の提供		3	18	1	4	5		1	
大学宿泊施設の斡旋				1					
学会等の京都開催	1								
競争的資金の獲得	1	1			1			1	

**【資料 4-8】他大学・公的機関及び企業との共同研究の件数**

年度	24	25	26	27	28
共生人間学専攻	5	6	4	5	6
共生文明学専攻	6	1	1	1	1
相関環境学専攻	16	27	23	24	22
合計	27	34	28	30	29

25年度

花王株式会社、株式会社エクシング企画開発部、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人科学技術振興機構、Nestec Ltd.、キャノン株式会社、サントリーウェルネス株式会社、The NATIONAL CENTER FOR SCIENTIFIC RESEARCH (CNRS)、中央大学人文科学研究所、株式会社KR1、トヨタ自動車株式会社先端材料技術部、株式会社カシイ、積水化学工業株式会社住宅カンパニー住環境事業部、関西大学、兵庫県自然保護協会、東京大学、北海道大学、IDAC、国立感染症研究所、熊本大学、九州大学、ロシア科学アカデミー、モスクワ国立大学、カーディフ大学、マルセイユ大学、東京大学、島根大学、名古屋大学、株式会社豊田中央研究所、本田技術研究所、日揮触媒化成、住友金属鉱山、東北大学、防衛大学校、日本原子力機構、独立行政法人物質・材料研究機構

26年度

滋賀医科大学、東京大学、武漢大学（中国）、大阪大学、北海道大学、マレーシア国サラワク州森林局 株式会社 KRI 生産開発科学研究所、若狭湾エネルギー研究センター、ヘルシンキ大学 名古屋大学 島根大学 豊田中研究所 ニフティ株式会社 IDAC 日本 BCG 研 関西大学 富山県立大学

27年度

株式会社コロバ、滋賀医科大学、東京大学、武漢大学（中国）、大阪大学、大阪市立大学、北海道大学、マレーシア国サラワク州森林局、株式会社 KRI、和光純薬工業株式会社、株式会社 GS ユアサ、生産開発科学研究所、若狭湾エネルギー研究センター、ヘルシンキ大学、名古屋大学、島根大学、豊田中研究所、立命館大学、広島大学、北海道大学、ニフティ株式会社、IDAC、日本 BCG 研、関西大学、富山県立大学、北陸先端大学院大学

28年度

公益財団法人三島雲海記念財団、公益財団法人日本英語検定協会、ニフティ株式会社、エイベック研究所、国立民族学博物館、国際日本文化研究センター、北陸先端大学院大学、積水化学、クラレ、長崎大学、産業技術総合研究所、第一工業製薬、三和油化工業、大阪大学、奈良女子大学、東京工科大学、福井県高浜町、トヨタ自動車、堺化学、大塚化学・ヒロセ、京都大学理学研究科、広島大学、北海道大学、名古屋大学未来材料・システム研究所「革新的省エネルギーのための材料とシステム研究拠点」、トヨタ自動車株式会社 基板材料技術部、トヨタ自動車株式会社 電池材料技術・研究部、学校法人立命館 立命館大学総合科学技術研究機構、株式会社 GS ユアサ、堺化学工業株式会社 研究開発本部中央研究所、国立研究開発法人科学技術振興機構マッチングプランナー

【資料 4-9】他大学・公的研究機関の共同利用施設・設備の利用に関わる研究課題採択数

年度	24	25	26	27	28
共生人間学専攻	1	0	5	5	1
共生文明学専攻	2	0	1	1	1
相関環境学専攻	7	5	11	9	13
合計	10	5	17	15	15

平成 26 年度

- 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター「プロジェクト型」の共同研究（研究分担者）(H26-27)
- 明治国際医療大学新学術領域研究、連携者「スパースモデリングの深化による MR スペクトルスコピーへのデータ駆動的アプローチ」(H26-27)
- 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
  - ・「微小重力での体の変化と対抗策 - 長期の宇宙滞在を目指して -」(H26)
  - ・「長期宇宙滞在飛行士の姿勢制御における帰還後再適応過程の解明」(H26-27)
- 放射線医学総合研究所「二ホンヤマネの骨格筋・骨密度の画像解析技術の開発」(H26)
- 神戸研究学園都市大学交流推進協議会「未来に向けた日中交流と日中相互関係」(H26-27)
- 公益財団法人高輝度光科学研究センター 大型放射光施設 (Spring-8)
  - ・「その場電気化学 XAS 法による高性能酸化還元ペロブスカイト酸化物触媒の設計指針構築」(H26)
  - ・「その場電気化学 XAS 法による高性能固体酸化物燃料電池空気極の界面構造解析」(H26)
  - ・「その場 2 次元 X 線吸収分光法による全固体リチウム電池複合電極設計指針の構築」(H26)
  - ・「その場電気化学 XAFS 測定を用いた固体高分子燃料電池コアシェル触媒における酸素還元活性および劣化因子に及ぼすリガンド効果の解明」(H26)
  - ・「その場電気化学 - 深さ分解蛍光 XAFS 法による全固体リチウム二次電池における酸化物電極/硫化物電解質固固界面の現象解明」(H26)
  - ・「軟 X 線吸収分光測定を用いた全固体リチウムイオン電池電極材料の局所構造解析」(H26)
  - ・「高エネルギー X 線コンプトン散乱を用いた大型蓄電池反応状態解析手法の開発」(H26)
  - ・「その場電気化学 XAFS 測定を用いた固体高分子燃料電池コアシェル触媒における Pd コア合成条件の確立」(H26)
  - ・「その場電気化学 - 深さ分解蛍光 XAFS 法による全固体リチウム二次電池における酸化物電極/硫化物電解質固固界面の現象解明 II」(H26)
  - ・「その場電気化学 - 高エネルギーコンプトン散乱測定を用いたリチウムイオン電池合剤電極の反応分布解析」(H26)
- 東京大学大気海洋研究所「二次イオン質量分析計を用いたアバタイマーメルト間の水素の分配関係の決定」(H26)
- 岡山大学地球物質科学研究センター「冥王代初期地殻の主成分元素組成の推定: カンラン岩高圧融解実験からの制約」(H26)
- 高エネルギー加速器研究機構
  - ・「人工光合成のためのチタン酸塩光触媒上の銀助触媒の XAFS による状態解析」(H26-27)
  - ・「水分解のためのチタン酸塩光触媒上の白金助触媒の XAFS による状態解析」(H26-27)
- 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所・放射光科学研究施設 (KEK-PF)
  - ・「レゾルシノール代謝に関わる酵素の構造解析と遺伝子産物の構造ゲノム科学研究 (2012G645)」(H26)
  - ・「アスパラギン酸ラセマーゼの温度適応に関する構造解析 (2012G745)」(H26)
  - ・「レゾルシノール代謝酵素の構造解析が支援する未知遺伝子産物の構造ゲノム科学研究 (2014G699)」(H26-28)
  - ・「アスパラギン酸ラセマーゼの温度適応に関する構造解析 II (2014G694)」(H26-28)
- 公益財団法人高輝度光科学研究センター 大型放射光施設 (Spring-8)
  - ・「準安定メソ相を形成する結晶性高分子の結晶サイズの圧力の依存性について [課題番号: 2014B1509]」(H26)
  - ・「中間相を経由する高分子結晶化に対する圧力の依存性について [課題番号: 2014A1457]」(H26)

平成 27 年度

- 高知大学海洋コア総合研究センター [課題] 全国共同利用課題研究
- Spring-8
  - ・「オペランド軟 XAS 法による高性能酸化還元ペロブスカイト酸化物触媒の設計指針構築」(H27)
  - ・「その場深さ分解 XAFS を用いたリチウムイオン二次電池正極 LiFePO<sub>4</sub> の核生成反応高速化指針構築」(H27)
  - ・「その場 2 次元 X 線吸収分光法による全固体リチウム電池複合電極反応分布の計測」(H27)
  - ・「その場電気化学 XAS 法による固体酸化物燃料電池低温化への指針構築」(H27)・「オペランド電気化学 XAFS によるパラジウムコア白金シェル型燃料電池触媒における酸素還元反応に及ぼすイオン液体添加効果」(H27)・「深さ分解蛍光 XAFS 法による全固体リチウム二次電池の酸化物電極/硫化物電解質界面制御効果の解明」(H27)・「高エネルギー X 線コンプトン散乱を用いた大型リチウムイオン電池反応状態のオペランド観測手法開発」(H27)
  - ・「オペランド 2 次元 X 線吸収分光法による全固体リチウム電池複合電極反応分布の解析」(H27)
  - ・「その場深さ分解蛍光 XAFS 法による全固体リチウム二次電池の酸化物電極/硫化物電解質界面制御効果の解明」(H27)
  - ・「高エネルギー X 線コンプトン散乱を用いた大型リチウムイオン電池作動条件下の反応分布解析」(H27)
- 岡山大学地球物質科学研究センター「コマチアイトの高圧含水融解実験による冥王代大陸地殻組成の解明」(H27)
- 京都工芸繊維大学「脳イメージングを取り入れたインタラクションデザインによるテキスタイルの創製 (科学研究費補助金基盤 (A))」(H27)
- 核融合研究所「高感度トリチウムガスモニターの標準ガス試料による性能評価」
- 高輝度光科学研究センター「in situ XAFS 分析を用いた担持 Pt 触媒上でのプロピレン水素化反応における担体効果・粒子径効果の解明」
- 高輝度光科学研究センター・大型放射光施設 (Spring-8)「 $\gamma$ -レゾルシノール酸分解経路遺伝子群由来 GraE タンパク質の結晶構造解析 II」(2015A1112) (H27-29)

平成 28 年度

- Prof. Dr. Thomas Buchheim, Fakultät für Philosophie, Wissenschaftstheorie und Religionswissenschaft der LMU München 採 択 課 題: Schellings Philosophie der menschlichen Freiheit (Gefördert von der Deutschen Forschungsgemeinschaft)
- 平成 26-28 年度 神戸研究学園都市 UNITY 研究会「未来に向けた日中交流と日中相互関係」
- 佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター「光電子分光を用いたチタン酸化物の電子構造の研究」
- 岡山大学地球物質科学研究センター「コマチアイトの含水融解実験による冥王代地殻組成の解明」
- 放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究 (広島大学)「低線量率放射線誘発細胞応答における酸化ストレスの関与」
- 高輝度科学センター Spring-8「高分子結晶化時における密度揺らぎについての研究」
- 京大原子炉実験所「抗がん剤を担持した六方晶窒化ホウ素によるガン化学療法とホウ素中性子捕捉療法のハイブリッドナノ医療」
- 基礎生物学研究所 ①「日本産ミヤコグサとハマダイコン野生種における開花時期制御の種内多型に関わる遺伝的背景の解明」②「開花関連遺伝子 lJEMF2 と lJlE1 がミヤコグサ (マメ科) の開花所用日数に及ぼす影響の評価」
- 高輝度光科学研究センター「XAFS を用いた二酸化炭素の水素化反応中の白金種の状態解析」
- 高エネルギー加速器研究機構「人工光合成のための層状チタン酸塩光触媒における銀助触媒の XAFS による状態解析」
- 三重大学大学院生物資源学研究所附属練習船勢水丸「京都大学総合人間学部「総合フィールド演習」の一環としての海洋観測・生物生態調査」
- 高エネルギー加速器研究機構 (KEK) Photon Factory「人工光合成のための層状チタン酸塩光触媒における銀助触媒の XAFS による状態解析」
- 高知大学海洋コア総合研究センター「エチオピア洪水玄武岩を対象にした約 30Ma の地球磁場変動の解析」

【資料 4-10】 部局内及び部局を構成する学内外研究機関との共同研究

共同研究【研究プロジェクト】

No.	共同研究者	分野・職位等（発表時） 学内外研究機関の所属等	メンバー/プロジェクト名/研究種目	プロジェクト期間
1	田中雅一	文化人類学 教授（協力） 人文科学研究所 教授	【代表】田中雅一【分担】江田憲治 ほか 「アジアの軍隊にみるトランスナショナルな性格に関する歴史・人類学的研究」 科学研究費補助金 基盤研究（B）	平成 20-23 年度
	江田憲治	文明構造論 教授		
2	月浦 崇	認知科学 准教授	【代表】阿部修士 【連携研究員】齋木 潤・月浦 崇・山本洋紀 ほか 【センター参画】吉川左紀子・船橋新太郎 脳機能イメージングと心理学実験設備の整備と運用体制の構築 こころの未来研究センター 【教員提案型連携研究プロジェクト】	平成 23-24 年度
	齋木 潤	認知科学 教授		
	山本洋紀	認知科学 助教		
	阿部修士	こころの未来研究センター 助教		
	吉川左紀子	こころの未来研究センター 教授		
3	壇辻正剛	言語比較論 教授（協力） 学術情報メディアセンター 教授	【代表】壇辻正剛 【分担】坪田康・河崎 靖・道坂昭廣 ほか ICT を利用した応用言語学的研究 科学研究費補助金 基盤研究（B）	平成 23-26 年度
	坪田 康	学術情報メディアセンター 助教		
	河崎 靖	言語比較論 教授		
	道坂昭廣	東アジア文化論 教授		
4	齋木 潤	認知科学 教授	【代表】鎌田東二【分担】齋木 潤・原真明 ほか【研究協力者】小倉紀蔵 ほか 身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究 科学研究費補助金 基盤研究（A）	平成 23-26 年度
	鎌田東二	こころの未来研究センター 教授		
	小倉紀蔵	多文化複合論 教授		
	篠原真明	創造行為論 教授		
5	月浦 崇	認知科学 准教授	【代表】阿部修士【連携研究員】月浦 崇 ほか 不正直な行動の神経生物学的基盤の研究 こころの未来研究センター【教員提案型連携研究プロジェクト】（『こころ観』領域）	平成 24-26 年度
	阿部修士	こころの未来研究センター 助教		
6	齋木 潤	認知科学 教授	齋木 潤・上田祥行 認知制御機構の間変異の規定因に関する研究 科学研究費補助金基盤研究（A）「平均特性と個人間変異の統合による重層的認知制御機構の神経基盤の解明」（研究代表者：齋木潤）	平成 24-26 年度
	上田祥行	こころの未来研究センター 特定助教		
7	齋木 潤	認知科学 教授	齋木 潤・上田祥行 マインドフルネス瞑想の神経基盤 科学研究費補助金基盤研究（A）（上記、No.4）	平成 24-26 年度
	上田祥行	こころの未来研究センター 特定助教		
8	辻 正博	東アジア文化論 教授	【代表】福原啓郎（京都外国語大学教授） 【分担】辻 正博・小島泰雄・小方 登 ほか 前近代中国における交通路と開港の環境史学的研究 科学研究費補助金 基盤研究（B）	平成 25-26 年度
	小島泰雄	地域空間論 教授		
	小方 登	地球環境学 教授（流動）		
9	齋木 潤	認知科学 教授	【代表】齋木 潤【分担】上田祥行【連携研究者】阪上雅昭 探索行動の非線形力学モデル 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究	平成 26-27 年度
	阪上雅昭	地球環境動態論 教授		

共同研究【成果物】

No.	共同研究者	分野・職位等（発表時）	成果物	発表年
1	齋木 潤	認知科学 教授	上田祥行・齋木潤 2010「三次元物体学習過程に依存した眼球運動の変化」Technical Report on Attention & Cognition, 9 <研究会予稿集>	2010
	上田祥行	こころの未来研究センター 特定助教		
2	齋木 潤	認知科学 教授	陳蕾・上田祥行・齋木潤・Emily Cramer・Michelle Dusko・Ronald A. Rensink 2011「視覚探索課題時の注意の制御スタイルにおける文化の影響」Technical Report on Attention & Cognition, 5. <研究会予稿集>	2011
	陳 蕾	認知科学 D2		
3	上田祥行	こころの未来研究センター 特定助教	Shuntaro Yamada, Satoshi Ohkubo, Hideaki Miyashita and Hiroaki Setoguchi、2012, Genetic diversity of symbiotic cyanobacteria in <i>Cycas revoluta</i> (Cycadaceae). FEMS Microbiology and Ecology, 81 (3), 696-706. Elsevier	2012
	瀬戸口浩彰	生物環境動態論 教授		
	宮下英明	生命環境相関論 教授		
4	山田俊太郎	生物環境動態論 M2	Ueda, Y. and Saiki, J., 2012, Characteristics of eye movements in 3-D object learning: Comparison between within-modal and cross-modal object recognition. Perception, 41, 1289-1298.	2012
	齋木 潤	認知科学 教授		
5	上田祥行	こころの未来研究センター 特定助教	樋口洋子・上田祥行・小川洋和・齋木 潤 2012「時空間的文脈手がかり効果のメカニズム」Technical Report on Attention & Cognition, 10, <研究会予稿集>	2012
	齋木 潤	認知科学 教授		
6	樋口洋子	認知科学 D1	篠原真明 2012「まぶさび、知行遊と身口意」『身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第1号、64-69頁、科研基盤研究（A）	2012
	上田祥行	こころの未来研究センター 特定助教		
7	篠原真明	創造行為論 教授	齋木 潤 2012「瞑想と「協調による制御」：試論」『身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第1号、59-63頁、科研基盤研究（A）	2012
	齋木 潤	認知科学 教授		
8	壇辻正剛	言語比較論 教授（協力） 学術情報メディアセンター 教授	壇辻正剛・坪田康・津志本陽・赤松紀彦・道坂昭廣・江田憲治 2012「中国語 CALL 教材の開発」『中国語の世界—上海—2012—』大地社	2012 2013
	坪田 康	学術情報メディアセンター 助教		
	津志本 陽	学術情報メディアセンター 教務補佐員		
	赤松紀彦	地域文明論 教授		
	道坂昭廣	東アジア文化論 教授		
9	道坂昭廣	東アジア文化論 教授	壇辻正剛・坪田康・津志本陽・赤松紀彦・道坂昭廣・江田憲治 2013「中国語 CALL 教材の開発」『中国語の世界—北京—2013—』大地社	2013
	江田憲治	文明構造論 教授		
10	篠原真明	創造行為論 教授	篠原真明 2013「まぶさび系色彩論」『身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第2号、79-82頁、科研基盤研究（A）	2013
	齋木 潤	認知科学 教授		
11	樋口洋子	認知科学 D2	樋口洋子・上田祥行・小川洋和・齋木 潤 2013「系列の潜在学習における課題依存性」Technical Report on Attention & Cognition, 8. <研究会予稿集>	2013
	上田祥行	こころの未来研究センター 特定助教		
12	阪上雅昭	地球環境動態論 教授	K. Terayama, R. Sumiya and M. Sakagami, 2014, Estimation of Rotation Curves for Schools of fish with Optical Flow. 情報処理学会研究報告, Vol.2014-CVIM-190, No.17, pp.1-8	2014
	寺山 慧	数理情報論 D2		
13	阪上雅昭	地球環境動態論 教授	K.Terayama, D.Tadokoro, K.Shimatani and M. Sakagami, 2014, Analysis of a Long-time Evolution and Fluctuations in the Average Torus Shape of Fish School. Proceedings of the 6th International Symposium on Aero-aqua Bio-Mechanisms, pp.66-72	2014
	寺山 慧	数理情報論 D2		

No.	共同研究者	分野・職位等 (発表時)	成果物	発表年	
14	阪上雅昭 寺山 慧	地球環境動態論 数理情報論	教授 D2	阪上雅昭・寺山 慧 2014「魚群の速度構造と平均トラスの存在」Velocity Structure of Fish Schools and Existence of Averaged Tori, Proceedings of the 20th Symposium on Simulation of Traffic Flow, pp. 27-30	2014
15	日置尋久 阪上雅昭 寺山 慧	数理情報論 地球環境動態論 数理情報論	准教授 教授 D2	K. Terayama, H. Hiroki and M. Sakagami, 2014, A Speed Distribution Measurement Method of Collective Motion with Optical Flow and its Application to Estimation of Rotation Curve. Proceedings of IEEE International Symposium on Multimedia 2014, pp. 32-39. IEEE	2014
16	壇辻正剛 坪田 康 津志本陽 江田憲治	言語比較論 学術情報メディアセンター 教授 学術情報メディアセンター 助教 学術情報メディアセンター 教務補佐員 文明構造論	教授 (協力)	壇辻正剛・坪田 康・津志本陽・江田憲治 2015「中国語デジタル教材の開発」『日本の風土和文化』創文堂印刷	2015
17	壇辻正剛 坪田 康 津志本陽 河崎 靖	言語比較論 学術情報メディアセンター 教授 学術情報メディアセンター 助教 学術情報メディアセンター 教務補佐員 言語比較論	教授 (協力)	壇辻正剛・坪田 康・津志本陽・河崎 靖 2015「ドイツ語デジタル教材の開発」『JAPAN: Land und Kultur』創文堂印刷	2015
18	篠原資明	創造行為論	教授	篠原資明 2014「旅と身心変容―芭蕉とともに」『身心変容技法の比較宗教学―心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第3号、52-57頁、科研基盤研究 (A)	2014
19	齋木 潤	認知科学	教授	齋木 潤 2014「瞑想は脳のネットワーク特性をどう変えるのか―脳波測定に向けての序論」『身心変容技法の比較宗教学―心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第3号、83-88頁、科研基盤研究 (A)	2014
20	篠原資明	創造行為論	教授	篠原資明 2015「まぶさび、その美学と宗教学」『身心変容技法の比較宗教学―心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第4号、66-71頁、科研基盤研究 (A)	2015

【資料 4-11】学際教育研究部の活動

学際教育研究部

【目的】 研究科及び総合人間学部における学際的な教育研究活動を推進すること、及びその活動を支援すること

- 【業務】 (1) 学際的な教育研究プロジェクト等の推進事業の企画、立案及び運営に関すること。  
 (2) 学際的な教育研究の推進に係る支援策の企画、立案及び運営に関すること。  
 (3) 学際的な講演会等の企画、立案及び運営に関すること。  
 (4) 学際的な教育研究活動の情報発信に関すること。  
 (5) その他学際的な教育研究活動の推進及び支援に関すること。

【部門】 ・大学院教育研究推進部門  
 ・学部教育研究推進部門  
 ・講演会・地域連携等推進部門  
 ・広報活動・プロジェクト等推進部門  
 (「京都大学大学院人間・環境学研究科学際教育研究部の組織に関する内規」から抜粋)

活動

	H28	H29
■大学院教育研究推進部門		
大学院生の模擬授業	4	1
「教養教育実習」	8	11
■学部教育研究推進部門		
「研究を他者に語る」	115	
「総人のミカタ」の支援		
■講演会・地域連携等推進部門		
総人・人環学際セミナー	1	
シンポジウム等の共催	5	
[上記の内、国際シンポジウム]	[5]	
長浜市との連携協定にもとづく調査・活動 ・庭園調査報告書「ながはまのお庭」	1	
■広報活動・プロジェクト等推進部門		
報告書発行	1	

- [H28] ・総人・人環学際セミナー 第1回:「ガラス:芸術と科学」(2016年11月16日) [国際]  
 ・講演会「Influence of Age and Culture on Memory」(2016年7月30日) [国際]  
 ・日英共同カンファレンス―近代ヨーロッパにおける理性・差異・寛容―(2016年8月2～4日) [国際]  
 ・講演会「人文地理学の最前線」(2016年11月12日)  
 ・日米合同国際ガラス科学技術シンポジウム(2016年11月13～15日) [国際]  
 ・若者文化シンポジウム ドイツでコミケ? ドイツにおける日本のサブカルチャー(2017年3月21日) [国際]  
 ・庭園調査報告書「ながはまのお庭」Vol.4  
 ・報告書 ワークショップ「学際系学部の教養教育」(2015年12月19日開催)

【資料 4-12】 外部資金等の獲得状況

年度		24	25	26	27	
科学研究費 助成事業	新規(件数)	17	22	23	21	
	新規・継続(件数)	71	73	71	59	
	金額(千円)	215,900	194,700	196,700	153,300	
	間接経費込(千円)	280,670	253,110	255,710	199,290	
競争的外部資金	採択件数(総数)	9	8	6	7	
	内訳	文部科学省	6	8	5	5
		他省庁等	3	0	1	2
	受入金額(千円)	114,914	134,110	106,059	210,181	
共同研究	総数	19	13	14	19	
	受入金額(千円)	27,336	19,779	24,295	22,270	
	共同研究員受入人数	1	1	1	0	
受託研究	件数	1	2	2	2	
	受入金額(千円)	600	20,538	139,237	12,800	
寄附金	件数	15	18	14	23	
	受入金額(千円)	7,976	16,616	14,544	26,723	
産業財産権・ 特許等	産業財産権の保有件数	2	4	4	5	
	特許	出願数	2	4	6	4
		取得数	0	2	0	1
	ライセンス	契約件数	2	5	4	3
		収入額(千円)	51	2,112	2,329	789

【資料 4-13】学生・修了生が獲得した助成金等

(平成 29 年 10 月現在)

	24	25	26	27	28	29
特別研究員	14	17	14	15	22	8
京都大学教育研究振興財団	0	3	4	5	7	2
京都大学若手人材海外派遣事業ジョン万プログラム		8	14	1		1
学内の支援制度	0	1	0	1	6	6
その他外部の助成金	17	13	6	9	13	3
計	31	42	38	31	48	20

年度	24	25	26	27	28	29
在外研究支援 長期助成	2 (D3/2名)	1 (D3)	3 (D2) (D3/2名)	1 (D3)	2 (D1) (D3)	
在外研究支援 中・短期助成					1 (D1)	
国際研究集会派遣		2 (D1) (D2)	1 (M2)	4 (1/2名) (D2) (2014学位取得者)	4 (D1) (D2) (D3/2名)	2 (D2/2名)
総合人間学部生		3 (B2) (B4/2名)	9 (B1) (B2/2名) (B3/3名) (B4/3名)			1 (B3)
人間・環境学研究所 院生 (修士課程)	2 (M1/2名)		4 (M1/3名) (M2)	1 (D3)		
人間・環境学研究所 院生 (博士後期課程)		3 (D2) (D3/2名)	1 (D3)			
アジア研究教育ユニット、京都大学 重点戦略アクションプラン						1 (B1)
学生海外研究活動助成金					2 (M1) (D2)	2 (M1) (M2)
体験型海外渡航支援制度					3 (B/2名) (M1/1名)	3 (B/2名) (D2)
一鼎会プログラム「おもろチャレンジ」						
国際研究発信力強化プログラム		1 (D3)				
京大生チャレンジコンテスト				1 (M1)	1 (D3)	
科学研究費補助金	1 (PD)	1 (PD)				
研究成果公開促進費						
育志賞	1 (D3)					
卓説した大学院拠点形成支援補助金	1 (D3/3名)					
米国研究助成プログラム (社団法人日米協会)	1 (M2)	4 (M2/3名) (D3)	1 (M2)			1 (D2)
Fulbright Scholarship (日米教育委員会)	3 (D1) (D3)				1 (M1) 1 語学アシスタント プログラム	
フランス政府給費留学生制度					1 (D3)	
ポーランド政府奨学金		1 (D3)				
ドイツ学術交流会 (D A D D) 奨学金		1 (D2)				
ボッシュドイツ留学奨学金基金プログラム						
日本哲学会林基金 若手研究者助成		1 (2013単位取得退学者)	1 (D3)			
ジェンダー研究会シードマネー		1 (D2)				
国際会議等参加旅費補助金				2 (M1) (M2)		
研究助成	3 (D3/3名)				1 (D3)	
松下幸之助国際スカラシップ	1 (D1)					
笹川科学研究助成 < 学術研究部門 >	2 (D3/2名)	3 (D3/2名) (修了生)	2 (D3) (PD)	2 (M2) (D3)	2 (D1) (D3)	2 (M2) (D3)
一般財団法人 財団せせらぎ				3 (D2) (D3/2名)	3 (D2) (D3/2名)	
福武学術文化振興財団平成 24 年度助成事業	1 (2011学位取得者)					
瀬戸内海文化研究・活動支援助成						
サントリー文化財団研究助成	1 (D3)					
若手研究者のためのチャレンジ研究助成						
アサヒグループ学術振興財団					1 (D3)	
公益信託滋澤民族学振興基金	1 (D3)					
国際研究集会参加旅費						
公益財団法人昭和聖徳記念財団学術研究奨励		1 (2013学位取得者)				
公益財団法人高梨学術奨励基金・若手研究助成			1 (D3)			
西村奨学財団奨学金			1 (D1)			
一般財団法人 丸文財団交流研究助成				1 (D2)		
井上科学振興財団井上研究奨励賞				1 (RPD2014学位取得者)		
吉田化学技術財団国際研究集会派遣					1 (D2)	
日本アメリカ史学会研究支援 Grant	1 (D1)					
日本応用心理学会若手会員研究奨励賞					1 (M1)	
伊藤国際教育交流財団奨学金					1 (M2)	
計	19	25	24	16	25	12

【資料 4-14】人文・社会系若手研究者出版助成による出版物 (平成 28 年度)

	氏名	書籍タイトル
1	前川 直哉	『<男性同性愛者>の社会史—アイデンティティの受容/クローゼットへの解放』 (作品社、全 243 頁、2017 年 3 月)
2	和崎 光太郎	『明治の<青年>—立志・修養・煩悶』 (ミネルヴァ書房、全 330 頁、2017 年 3 月)
3	岡田 彩希子	『表現する「私」はどのように生まれるのか—精神分析と現代美術の語らいから』 (ミネルヴァ書房、全 224 頁、2017 年 3 月)
4	程 遠巍	『中華世界における CEFR の受容と文脈化』 (ココ出版、全 192 頁、2017 年 3 月)
5	利根川 由奈	『ルネ・マグリット—国家を背負わされた画家』 (水声社、全 273 頁、2017 年 3 月)
6	株本 千鶴	『ホスピスで死にゆくということ—日韓比較からみる医療化現象』 東京大学出版会、全 336 頁、2017 年 3 月)
7	澤井 努	『ヒト i P S 細胞研究と倫理』(プリミエ・コレクション 76) 京都大学学術出版会、全 245 頁、2017 年 4 月)
8	坂井 礼文	『無神論と国家—コジェーヴの政治哲学に向けて』 (ナカニシヤ出版、全 304 頁、2017 年 2 月)
9	須川 まり	『表象の京都—日本映画史における観光都市のイメージ』 (春風社、全 400 頁、2017 年 3 月)
10	豊川 祥隆	『ヒューム哲学の方法論—印象と人間本性をめぐる問題系』 (ナカニシヤ出版、全 228 頁、2017 年 3 月)
11	松野 さやか	『ヤスパースの実存思想—主観主義の超克』(プリミエ・コレクション 81) (京都大学学術出版会、全 254 頁、2017 年 4 月)
12	渡辺 洋平	『ドゥルーズと多様体の哲学—二〇世紀のエピステモロジーにむけて』 (人文書院、全 370 頁、2017 年 2 月)
13	都留 ドゥヴォー 恵美里	『日系ブラジル人芸術と<食人>の思想—創造と共生の軌跡を追う』 (三元社、全 242 頁、2017 年 3 月)
14	藤岡 真樹	『アメリカの大学におけるソ連研究の編制過程』 (法律文化社、全 178 頁、2017 年 3 月)
15	神本 秀爾	『レゲエという実践—ラストフアーライの文化人類学』(プリミエ・コレクション 80) (京都大学学術出版会、全 272 頁、2017 年 3 月)
16	志村 真幸	『日本犬の誕生—純血と選別の日本近代史』 (勉誠出版、全 256 頁、2017 年 3 月)
17	辻 浩和	『中世の<遊女>—生業と身分』(プリミエ・コレクション 82) (京都大学学術出版会、全 380 頁、2017 年 4 月)

	実績
平成 22 年度	8
平成 23 年度	11
平成 24 年度	12
平成 25 年度	9
平成 26 年度	13
平成 27 年度	19
平成 28 年度	17
計	89

## 【資料 4-15】学生・修了生の受賞状況

(平成 29 年 12 月現在)

	24		25		26		27		28		29	
	国内	国際										
1 学会賞・奨励賞・最優秀賞・優秀賞	6	2	14	1	9	1	13	1	10	2	7	1
2 講演・発表・presentation award	6	1	10	1	6	2	8	2	5	3		
3 論文賞	2	0	3	1	0	0	0	2	0	1	1	0
4 ポスター賞	0	0	2	4	6	2	5	3	6	2	2	2
5 学芸賞・財団・大学・自治体等からの受賞	3	1	5	1	1	2	2	0	2	0		
6 その他の賞	1	0	1	0	1	0	0	0	3	0		
	18	4	35	8	23	7	28	8	26	8	10	3
	22		43		30		36		34		13	

※ 修了後 5 年以内の者を含む

## 【学会】

社会思想史学会、女性史学会、日本教育社会学会、日本社会史学会、日本社会心理学会、日本女性史学会、日本イギリス哲学学会、日本哲学学会、京都滋賀体育学会、日本バイオメカニクス学会、日本運動生理学会、日本健康科学学会、日本心理学会、日本体育学会、大学英語教育学会、日本オセアニア学会、日本風俗史学会、比較文明学会、日本カレドニア学会、表象文化論学会、日本貝類学会、日本植物学会、日本植物分類学会、日本生態学会、日本陸水学会、日本惑星科学学会、関西電気化学、関西電気化学研究会、日本セラミックス協会進、International Society of Biomechanics Emerging Scientist Award 2015

## 【財団】

スミセイ女性研究、井上科学振興財団、花王芸術・科学財団、漢検、宮沢賢治賞、京都国際文化協会エッセイコンテスト、渋沢・クローデル賞、新村出記念財団、地域研究コンソーシアム、藝能史研究会

## 【ポスター賞】

社会言語科学学会、日本応用心理学会、日本基礎心理学会、日本認知学会、日本認知心理学会、日本化学会、包括型脳科学研究支援ネットワーク夏のワークショップ、大学英語教育学会国際大会、日本地球惑星連合大会、日本植物分類学会、日本陸水学会、応用物理学会、触媒討論会、触媒表面化学研究発表会、長残光蛍光体 (IWPPP) 国際会議、日米合同ガラス科学技術シンポジウム、日本地球化学会 2nd International Symposium on East Asian Vertebrate Species Diversity、大学英語教育学会第 51 回国際大会・同第 53 会大会、第 2 回長残光蛍光体 (IWPPP) 国際会議、VII International Conference on Nitroxide Radicals SPIN-2014、The 22nd International Conference on the Chemistry of the Organic Solid State (ICCOSS XXII)、日米合同ガラス科学技術シンポジウム、17th International Symposium on River and Lake Environment

## 【論文賞】

2011JCerS 優秀論文賞、第 23 回ヤンマー学生懸賞論文・作文「進化する農へ挑戦」特別優秀賞、日本雑草学会論文賞、日本質的心理学会優秀方法論探索論文賞、第 9 回神経心理学会優秀論文賞、Optical Materials 誌 (2011) 掲載論文 Most Downloaded Articles の 4 位 & Most Cited Articles 3 位、Reaxys PhD Prize ファイナリスト選出エルゼビア社 (オランダ・アムステルダム) 主催、大学英語教育学会第 54 回国際大会 大学英語教育学会賞 (新人論文部門)、公益財団法人大学セミナーハウス 留学生論文コンクール 2016 銀賞、平成 28 年度『美術史』論文賞

## 【学芸賞・財団・大学・自治体等からの受賞】

第 34 回 サントリー学芸賞 (芸術・文学部門)、GVJ(Global Voices from Japan) コラムコンテスト 渥美財団賞、第 31 回田邊尚雄賞 (一般社団法人東洋音楽学会)、第 10 回京都学生人間力大賞グランプリ・人づくり部門賞 (同時受賞) (京都青年会議所主催、京都市・京都市教育委員会共催)、第 8 回京都大学「たちばな賞」優秀女性研究者賞、京都大学たちばな賞 (学生部門)、2014 年度 グッドデザイン賞金賞 (公益財団法人デザイン振興会)、第 29 回 (2012) 渋沢・クローデル賞、第 31 回 (2014) 渋沢・クローデル賞ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞、新プラトン主義協会賞、第 5 回地域研究コンソーシアム賞・登竜賞、中国政府より 2013 Chinese Government Award for Outstanding Self-financed Students Abroad、第 3 回 (平成 24 年度) 日本学術振興会育志賞、石橋湛山新人賞、第 2 回須賀敦子翻訳賞、第 2 回中村元東洋思想文化賞 松江市長賞、中国留日同学会 京都市長賞

## 【その他の賞】

京都大学総長賞、角川ビーンズ小説大賞、高円宮妃英語エッセイコンテスト、カクヨム web 小説コンテスト、京都市総合企画局「学生のまち京都映像コンテスト」

【資料 4-16】学生の論文掲載数

(平成 29 年 9 月現在)

年度	24			26			27			28		
	学部生	修士	博士	学部生	修士	博士	学部生	修士	博士	学部生	修士	博士
共生人間学専攻	1	6	70	0	5	70	0	13	67	1	4	34
共生文明学専攻	0	2	26	0	2	37	0	2	32	0	7	12
相関環境学専攻	1	10	25	1	19	66	1	11	18	1	12	21
合計	2	18	121	1	26	173	1	26	117	2	23	67
		141			200			144			92	

【資料 4-17】メディアに取り上げられた学生・修了生について

(平成 29 年 10 月現在)

	24	25	26	27	28	29
1. 新聞	11	22	10	14	11	3
2. テレビ・ラジオ・雑誌	1	3	1	3	1	
3. HP		1	1		2	
4. その他					1	
計	12	26	12	17	15	3

※ 修了後 5 年以内の者を含む

1. 学部学生		3	1	1	2	
2. 学部卒業生	2	2	1	3	2	1
3. 修士課程学生	2	5	1	2	1	
4. 博士後期課程学生	2	6	1	1		
5. 研究科修了生	6	15	8	10	10	2
計	12	31	12	17	15	3

【資料 4-18】教育コンテンツ等の作成について

(教員アンケート調査 H24.6 月・H27.7 月・H29.7 月実施)

内容	教員名	詳細
授業関連情報の WEB 掲載	日置 尋久	●演習科目、実習科目では授業資料、課題等を WEB サイトに提示している。 【URL】・ <a href="http://www.i.h.kyoto-u.ac.jp/~hioki/lect/">http://www.i.h.kyoto-u.ac.jp/~hioki/lect/</a> ●コンピュータリテラシーの演習では学生がグループ内でコミュニケーションをとれるようにするために学習支援システム (Panda) でフォーラム (掲示板) を開設し利用している。また同じく Panda を使って授業に関するコメントを学生に提出してもらって、それに対してフィードバックを行っている ●プログラミングの演習では独自のパッケージを作成し、授業で利用している
	立木 秀樹	●ホームページにて、作品、論文等を公開している ●Java Applet で、動作をさせながら理解できるようなコンテンツを提供している 【URL】・ <a href="https://www.i.h.kyoto-u.ac.jp/users/tsuiki/">https://www.i.h.kyoto-u.ac.jp/users/tsuiki/</a>
	吉田 純	●過去の授業で用いた資料 (パワーポイントスライド)、学生が提出した課題などを、ウェブ上でアーカイブ化し、履修学生・TA および教員のみが閲覧できるよう、パスワードで保護している (平成 26 年度以降は、Panda を利用) 【URL】・ <a href="https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/rct">https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/rct</a>
	水野 真理	●全共英語では、KULASIS の授業資料機能を活用して、欠席した学生にも資料を配布している
	石川 尚人	●講義資料、実習用教材を HP に掲載している 【URL】・ <a href="http://www.gaia.h.kyoto-u.ac.jp/~ishikawa/">http://www.gaia.h.kyoto-u.ac.jp/~ishikawa/</a>
	瀬戸口 彰浩	●実習テキストを KURENAI にリポジトリとして公開している
	高橋 幸	●全学共通教育英語ライティング・リスニングの授業に関して、GORILLA 上のリスニングコンテンツを利用している GORILLA : 英語ライティング・リスニング (ライリス) の授業で提示されるリスニング課題を行う Web 教材
	西山 教行	●全教科目のフランス語では文法教材をネットにあげ、現在、タブレット対応を進めている 【URL】・ <a href="http://www.flae.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/index_jp.htm">http://www.flae.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/index_jp.htm</a>

【資料 4-18】教育コンテンツ等の作成について

内容	教員名	詳細
京都大学オープン・コースウェアへの公開	藤田 耕司	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主催した国際会議の講演ビデオの公開 京都生物言語学会議—ヒトの言語能力：その設計・発達・進化— (2012年3月12日開催) 【URL】・<a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/international-conference/30/video">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/international-conference/30/video</a></li> <li>●第9回言語進化の国際会議 Evolang IX 京都大会 【URL】・<a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/international-conference/31">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/international-conference/31</a></li> <li>●企画した講演会の模様を公開 言語学講演会 (2013年12月18日開催) 【URL】・<a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/83">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/83</a></li> </ul>
	西山 教行	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義のいくつかを OCW に掲載。全教科目のフランス語では文法教材をネットに掲載し、現在タブレット対応を進めている。 【URL】・言語教育政策論 (2012) <a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/01-faculty-of-integrated-human-studies-jp/8138001">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/01-faculty-of-integrated-human-studies-jp/8138001</a></li> <li>・言語教育政策論演習 (2013) <a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/01-faculty-of-integrated-human-studies-jp/7ju075">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/01-faculty-of-integrated-human-studies-jp/7ju075</a></li> <li>・外国語教育政策論 1(2014) <a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/graduate-school-of-human-and-environmental-studies-jp/06">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/graduate-school-of-human-and-environmental-studies-jp/06</a></li> <li>・フランス語教材 La Grammaire Active du Français (Mitsuru Ohki, Noriyuki Nishiyama, Jean Francois Graziani) <a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/01-faculty-of-integrated-human-studies-jp/07">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/01-faculty-of-integrated-human-studies-jp/07</a></li> </ul>
	三浦 智行	<ul style="list-style-type: none"> <li>●OCW の活用 【URL】・04 - ウイルス多様性科学 2(2010) <a href="https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/graduate-school-of-human-and-environmental-studies-jp/science-of-virus-diversity2-1">https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/graduate-school-of-human-and-environmental-studies-jp/science-of-virus-diversity2-1</a></li> </ul>
	西山 教行	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員個人のサイトを作成し、必要な情報を掲載している 【URL】・<a href="http://www.flae.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/">http://www.flae.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/</a></li> </ul>
	藤田 耕司	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企画した学会シンポジウムの模様を YouTube 上で公開している 関西言語学会第 39 回大会シンポジウム「言語理論と科学哲学」(2014年6月14日開催) 【URL】・<a href="https://www.youtube.com/watch?v=3rYHX_r4Rvk">https://www.youtube.com/watch?v=3rYHX_r4Rvk</a></li> <li>・<a href="https://www.youtube.com/watch?v=wjpoibCEgol">https://www.youtube.com/watch?v=wjpoibCEgol</a></li> </ul>
	多賀 茂	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書会での報告のデータベースを作成中 【URL】・<a href="http://s-taga.com">http://s-taga.com</a></li> </ul>
	月浦 崇	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究関連情報も含む研究室の情報を、研究室ホームページに公開している 【URL】・<a href="http://www.memory.jinkan.kyoto-u.ac.jp/index.html">http://www.memory.jinkan.kyoto-u.ac.jp/index.html</a></li> </ul>
	山本 洋紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>●論文等の京大リポジトリ (KURENAI) 登録 【URL】・<a href="https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/49802/browse?type=author&amp;order=ASC&amp;rpp=20&amp;value=Yamamoto%2C+Hiroki">https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/49802/browse?type=author&amp;order=ASC&amp;rpp=20&amp;value=Yamamoto%2C+Hiroki</a></li> </ul>
	小島 泰雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>●科研の研究成果(調査報告書)を KURENAI に公開した 【URL】・<a href="http://hdl.handle.net/2433/179530">http://hdl.handle.net/2433/179530</a></li> <li>・<a href="http://hdl.handle.net/2433/197306">http://hdl.handle.net/2433/197306</a></li> <li>●地域空間論研究室が編集にあたっている『地域と環境』第 14 号を KURENAI に公開した 【URL】・<a href="https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/224924">https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/224924</a></li> </ul>
	鎌田 浩毅	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページに教育関連コンテンツへのリンクを掲載している 【URL】・<a href="http://www.gaia.h.kyoto-u.ac.jp/~kamata/">http://www.gaia.h.kyoto-u.ac.jp/~kamata/</a></li> </ul>
	内本 喜晴	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員個人のサイトを作成し、必要な情報をそこに載せている 【URL】・<a href="http://www.uchimoto.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://www.uchimoto.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a></li> </ul>
	神川 龍馬	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個人の研究内容等をウェブ上で公開している 【URL】・<a href="https://sites.google.com/site/ryomakamikawa/">https://sites.google.com/site/ryomakamikawa/</a></li> </ul>
	吉田 寿雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究室の HP に発表した論文・学会発表の情報を載せている。 【URL】・<a href="http://yoshida.jinkan.kyoto-u.ac.jp">http://yoshida.jinkan.kyoto-u.ac.jp</a></li> </ul>
	教材開発	田地野 彰
Timothy Stewart		<ul style="list-style-type: none"> <li>●e-learning course for the CALL classes (2012年10月から)</li> </ul>
金丸 敏幸		<ul style="list-style-type: none"> <li>●フランス語 CALL 教材 (La Grammaire Active du Français) の作成協力 【URL】・<a href="http://text.asahipress.com/text-web/france/active_call/index.html">http://text.asahipress.com/text-web/france/active_call/index.html</a></li> <li>●英語 II (オーラルプレゼンテーション：Craig Smith 先生) の授業ビデオアーカイブの作成 (DVD への収録)</li> <li>●英語 II (アカデミック・リスニング) のウェブ教材 (Kyoto University Listening for Academic Purposes) の作成 (2012年10月より学内向けに公開)</li> </ul>
河崎 靖		<ul style="list-style-type: none"> <li>●ドイツ語 CALL 教材 (中級) の開発</li> <li>●ドイツ語：教室型 CALL 教材作成 (CD4 枚)『総合ドイツ語』／『入門ドイツ語』／『中級ドイツ語』／『自律型 CALL ドイツ語』</li> <li>●オランダ語：教室型 CALL 教材作成『オランダ語入門』 学内でのみ使用 (自律型 CALL：学術情報メディアセンター北館・南館 OSL や附属図書館 3 階 OSL、吉田南総合図書館、桂キャンパス船井交流センター 3 階 OSL の PC 端末にて利用可能な CALL 教材)</li> </ul>
舟橋 春彦		<ul style="list-style-type: none"> <li>●ショートムービー『力学台車の加速実験』制作</li> </ul>
塚原 信行		<ul style="list-style-type: none"> <li>●京都大学 国際高等教育院 附属国際学術言語教育センター (i-ARRC) スペイン語部会主催 京都大学スペイン語学習ポータルサイト 「京大スベ語」<a href="https://esp-kyoto-u.com/">https://esp-kyoto-u.com/</a></li> </ul>

注) 京都大学オープン・コースウェアとは、学内で実際に利用している講義教材をインターネットで公開するプロジェクト  
注) PandA とは、京都大学情報環境機構が提供している、WWW ブラウザから教員と学生が利用する学習支援サービス

**【資料 4-19】 学生相談室の利用件数**

・相談件数

	総合人間学部					人間・環境学研究科			計
	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生 以上	M1	M2	M3 以上	
28年度	4	7	6	4	6	5	2	1	35

・平成28年3月から12月までの集計

・相談者の主訴の内訳

内容	28年度
学業	20
心理障害	4
性格	3
対人関係	1
サークル	1
家庭	1
恋愛	1
発達障害	1
その他	3
計	35



# 國際交流

## 5. 国際交流

### 【資料 5-1】外国人留学生受入数の推移（総合人間学部）

年度	24	25	26	27	28
KUINEP <sup>*1</sup> による受入	29	10	29	29	35
大学間学生交流協定による受入	20	14	19	18	16
合計	49	24	48	47	51

<sup>\*1</sup> KUINEP:Kyoto University International Education Program (京都大学国際教育プログラム)  
 本学創立 100 周年の 1997 年に始まった。学生交流協定を締結している大学より、半年から 1 年間、留学生を受け入れている。協定校の学部生が本学の学生とともに英語で講義される科目を履修するプログラム。

### 【資料 5-2】外国へ留学等をした学生数の推移（総合人間学部）

年度	24	25	26	27	28
大学間学生交流協定 <sup>*1</sup> による派遣	7	11	14	12	15
観光を除く海外渡航 <sup>*2</sup>	42	50	48	39	37
合計	49	61	62	51	52

<sup>\*1</sup> 学生交流協定を締結している大学へ半年から 1 年間、日本人学生を派遣するプログラム (平成 9 年開始)

<sup>\*2</sup> 語学研修、インターンシップ、ボランティア等

### 【資料 5-3】外国人留学生受入数の推移（人間・環境学研究科）

(各年度 5 月 1 日現在)

年度		24	25	26	27	28	29
修士課程	国費	8	8	8	8	5	3
	私費	44	39	33	43	58	49
博士後期課程	国費	9	9	12	11	16	15
	私費	37	40	36	45	45	57
研究生・特別研究生	国費	3	1	2	2	3	3
	私費	17	14	13	9	15	19
合計		118	111	104	118	142	146

注) ・在留資格が「留学」以外も含む

【資料 5-4】出身地域別留学生受入数（人間・環境学研究科）

（各年度 5 月 1 日現在）

地域	国または地域名	24	25	26	27	28	29	計
アジア	インド	2	2		1	1	1	7
	インドネシア共和国	2	1	1	1	1		6
	大韓民国	10	9	7	6	9	9	50
	台湾	10	9	8	7	9	6	49
	中華人民共和国	70	62	59	75	93	101	460
	ベトナム社会主義共和国					1	1	2
	香港							0
	マレーシア		1	1	1	1	1	5
	シンガポール						1	1
	香港						1	1
	モンゴル国	2	2	2	1	1	1	9
北米	アメリカ合衆国	2	4	4	5	5	5	25
	カナダ				1	1	1	3
中南米	アルゼンチン共和国							0
	グアテマラ共和国							0
	コスタリカ共和国							0
	コロンビア共和国							0
	ジャマイカ							0
	ブラジル連邦共和国	2	2	3	2	2	2	13
	ベネズエラ・ボリバル共和国							0
	ペルー共和国		1	1	2	2	1	7
欧州 (NIS 諸国含む)	イタリア共和国	1				1	2	4
	ウクライナ	2	1	1	1	1	1	7
	ウズベキスタン	1	1	1	1			4
	英国							0
	エストニア					1		1
	オランダ王国				1		1	2
	ギリシャ共和国							0
	ジョージア	1	1	1	1	1	1	6
	スペイン	1	1	1				3
	スロバキア共和国							0
	ドイツ連邦共和国	1	3	3	2	1		10
	ハンガリー	1	1	1	1	2	2	8
	フランス共和国	1	1	1	3	2	1	9
	ブルガリア共和国							0
	ベルギー王国	1	1	1	1	1		5
	ペラルーシ共和国	1	1	1	1	1	1	6
	ポーランド共和国							0
	マルタ共和国							0
	リトアニア共和国		1	1	1			3
	ルーマニア	1	1	1	1	1	1	6
ロシア連邦	2	2	2	1	2	3	12	
大洋州	オーストラリア連邦	1	1	1				3
	ニュージーランド			1	1	2	2	6
中東	イスラエル国	1						1
	イラン・イスラム共和国	1	1					2
	シリア							0
	トルコ共和国							0
	パレスチナ							0
	ヨルダン・ハシェミット王国							0
アフリカ	ケニア	1	1	1				3
	合計	118	111	104	118	142	146	739

注)・在留資格が「留学」以外も含む

【資料 5-5】外国人研究者等受入数の推移

年度	24	25	26	27	28	29
外国人研究員 <sup>※1</sup> (客員教授・准教授)	5	5	5	5	5	6
招へい外国人学者 <sup>※2</sup>	10	7	9	4	1	8
外国人共同研究者 <sup>※2</sup>	1	3	4	3	3	4
計	16	15	18	12	9	18

注) <sup>※1</sup> その年度内に受け入れた人数を示す  
<sup>※2</sup> その年度内に滞在した人数を示す

【資料 5-6】招へい外国人学者による国際交流セミナー開催状況

年度	受入れ期間	氏名	所属	受入教員	国際交流セミナー(開催日・講演タイトル)
28	2016年4月25日- 2016年7月24日	ZHAO Li	中国・蘇州大学准教授(材料化学)	小松 直樹	2016年5月26日 Drug discovery in China: From traditional Chinese medicine to emerging nanomedicine
	2016年4月25日- 2016年7月24日	Tesfaye Kidane	エチオピア・アジスアベバ大学教授(構造地質学・古地磁気学)	石川 尚人	2016年7月11日 Brief History of Geoscience Research at One of the World's Unique Incipient Oceanic Rift, Afar Depression, Ethiopia
	2016年6月20日- 2016年12月19日	Rossella Lupacchini	イタリア・ボローニャ大学准教授	岡田 温司	2016年10月31日 In Praise of Light and Shadows
	2016年12月1日- 2017年5月31日	Xiao Chen	中国・武漢大学教授(薬理学)	小松 直樹	2017年1月17日 Where Two Rivers Meet and Three Towns Stand
	2017年1月1日- 2017年6月30日	Richter Steffi	ドイツ・ライプツヒヒ大学主任教授(地域研究・日本研究)	田邊 玲子	2017年4月18日 「三木清『現代学生と思想の貧困』- 思考の悲しみと歓喜」
29	2017年5月15日- 2017年8月14日	François Dupuigrenet Desroussilles	米国フロリダ州立大学教授	岡田 温司	2017年7月20日 「芸術作品とはいかなる種類のモノなのか? - 西洋のカトリシズムと日本の仏教における聖遺物と芸術 -」
	2017年6月1日- 2017年8月31日	Zhou, Ying (周莹)	中国・西南石油大学教授	吉田 寿雄	2017年7月26日 "The Challenge and Responsibility of Young Scientist in China" 「中国若手科学者の挑戦と責任」
	2017年9月1日- 2017年11月30日	MARSHALL Megan	芸工エマソン大学 教授(創作・文学・出版学)	水野 尚之	2017年10月20日 My Elizabeths: A Biographer and Her Subjects
	2017年10月1日- 2018年1月31日	BRIK MikhailGeorgievich	ロシア共和国・ポーランド科学アカデミー教授(理論分光学, 計算材料科学)	田部 勢津久	2017年11月16日 Russian Culture and Science: a Brief Overview
	2018年1月1日- 2018年6月13日	LOSCHKY Lester C	米国・カンサス州立大学 心理科学部准教授(視覚科学)	齋木 潤	
	2018年3月31日- 2018年5月31日	XIE Feng	中国科学院成都生物研究所教授(両生類の系統分類, 進化, 保全生物学)	西川 完途	

【資料 5-7】部局間学術交流協定締結先一覧

締結先	締結日
台湾国立成功大学社会科学学院	2007年 4月 1日 ~2012年 3月31日
フランス人間科学財団 (FMSH) (研究交流および協力の基本協定)	2011年11月24日 ~2015年11月23日
中国科学院成都生物研究所	2012年 5月24日
カザフスタン生物多様性保全協会	2013年 3月 4日
サナタ・ダルマ大学	2014年 6月11日
国立台湾大学(文学院、社会研究院) (京都大学文学研究科、同経済学研究科との共同締結)	2015年 3月 4日
サラワク大学(マレーシア)	2008年以降の交流実績を踏まえ検討中



施設・設備

## 6. 施設・設備

【資料 6-1】使用目的別 室数と保有面積

(面積：㎡, 平成 28 年度)

建物	教室 <sup>*1</sup>		教員研究室 <sup>*2</sup>		事務室 <sup>*3</sup>		その他 <sup>*4</sup>	
	部屋数	面積	部屋数	面積	部屋数	面積	部屋数	面積
吉田南総合館	7	287	170 [10]	5,822 [288]	0	0	24 [10]	954 [652]
吉田南 2 号館	3	216	49 [4]	1,382 [124]	0	0	4 [3]	196 [182]
吉田南 3 号館	2 [1]	162 [81]	31 [9]	840 [162]	1	36	3	180
吉田南 4 号館	0	0	0	0	0	0	2	50
総合人間学部棟	15	1,114	16	883	4	178	5	111
人間・環境学研究科棟	7	664	133	4,815	10	452	22 [6]	1,518 [622]
計	34 [1]	2,443 [81]	399 [23]	13,742 [574]	15	666	60 [19]	3,009 [1,456]

注) ・ [ ] 内は、他部局利用スペース(貸借等)で内数

\*1 講義室、実験実習・演習室、語学実習室を示す

\*2 実験室、院生室、共同研究室が含まれる

\*3 会議室(3室)が含まれる

\*4 ボイラー室、電気(電源)室、ポンプ室、倉庫などが含まれる。また、吉田南総合図書館の使用スペース(14室)が含まれる

【資料 6-2】使用形態別 室数と保有面積

(面積：㎡, 平成 28 年度)

建物	講義室		実験・実習・演習室		語学実習室		合計	
	部屋数	面積	部屋数	面積	部屋数	面積	部屋数	面積
吉田南総合館	0	0	7	287	0	0	7	287
吉田南 2 号館	0	0	3	216	0	0	3	216
吉田南 3 号館	0	0	2 [1]	162 [81]	0	0	2 [1]	162 [81]
吉田南 4 号館	0	0	0	0	0	0	0	0
総合人間学部棟	10	800	4	203	1	111	15	1,114
人間・環境学研究科棟	2	353	5	311	0	0	7	664
計	12	1,153	21 [1]	1,179 [81]	1	111	34 [1]	2,443 [81]

注) ・ [ ] 内は、他部局利用スペース(貸借等)で内数

## 【資料 6-3】吉田南総合図書館について

概要 (2016年10月末日現在)

	占有面積	閲覧座席数	開館時間
吉田南総合図書館 (本館) 平成26年4月 「人間・環境学研究所総合人 間学部図書館」より改組	4,365 m <sup>2</sup>	1階 閲覧席 96席 1階 視聴覚室 10席 1階 新聞閲覧室 40席 2階 大閲覧室 268席 2階 OSL* <sup>1</sup> 54席 その他* <sup>2</sup> 8席 合計 486席	平日 9:00-20:00 土曜日 10:00-15:00
南棟書庫 (吉田南総合館) (7室)	590 m <sup>2</sup>	0席	平日 9:00-18:45 (土曜日 閉室) (南棟第7書庫は出納制)
環 on	153 m <sup>2</sup>	40席	平日 9:00-17:00 (土曜日 閉室)

\*<sup>1</sup> 情報環境機構(学術情報メディアセンター)のオープン・スペース・ラボラトリー(OSL)として、インターネットに接続したパソコン28台が利用できるほか、持ち込みPC等を利用できる座席26席を設置\*<sup>2</sup> ホールのソファ席

## 蔵書冊数

年度	23	24	25	26	27
和書	312,141	348,815	363,828	369,884	385,041
洋書	272,978	294,364	296,976	297,078	298,763
合計	585,119	643,179	660,804	666,962	683,804

## 入館者数

年度	23	24	25	26	27	
本館	学部生	172,043	151,452	160,511	154,998	155,382
	大学院生	29,058	28,574	27,102	27,357	26,894
	教職員	5,625	5,637	5,657	6,026	5,984
	その他	3,790	2,817	3,626	3,160	2,821
	新聞閲覧室	28,076	26,984	26,628	30,068	28,266
合計	238,592	215,464	223,524	221,609	219,347	
環 on	7,687	11,435	12,932	9,891	9,686	

## 貸出冊数

年度	23	24	25	26	27
学部生	43,500	49,058	49,907	51,633	49,934
大学院生	27,339	29,599	29,732	31,031	31,988
教職員	6,667	7,200	7,128	7,521	7,960
その他	1,279	1,388	1,646	1,962	1,884
合計	78,785	87,245	88,413	92,147	91,766

## 部局別貸出人数

年度	23	24	25	26	27
全体	47,922	52,569	53,114	54,791	54,704
人環・総人	13,741	14,735	14,502	15,658	15,501

## 文献複写処理件数

年度	23	24	25	26	27
依頼実施件数	1,582	844	1,027	1,250	1,133
依頼謝絶件数	196	62	62	76	35
受付実施件数	364	328	502	362	413
受付謝絶件数	51	54	53	37	40

【資料 6-3】吉田南総合図書館について(つづき)

現物貸借処理件数

年度	23	24	25	26	27
依頼実施件数	759	509	477	579	601
依頼謝絶件数	84	43	33	35	22
受付実施件数	460	576	587	592	663
受付謝絶件数	110	70	56	72	61

図書館が発行する刊行物 (平成 28 年 4 月現在)

名称	発行時期	発行部数	発行目的
利用案内 (Library Guide)	4 月	1,550	図書館の施設、資料、サービス、電子リソース等の紹介と利用の案内
かりん	12 月	1,800	利用者とのコミュニケーションの推進、図書館資料の紹介、利用案内、情報活用の向上、図書館概要・図書館活動の周知
Library News Letter	年 9 回 (8、9、3 月 を除く毎月)	300	人間・環境学研究科及び総合人間学部に所属する学生教職員をはじめとする吉田南構内関係各部局の構成員、全学共通教育科目履修生に向けての情報提供及びコミュニケーションの推進



# 社会との交流・公開

## 7. 社会との交流・公開

### 【資料 7-1】公開講座

年度	開催日・テーマ・場所	講師	演題	参加人数
24	起源に迫る 平成 25 年 3 月 17 日 (日) 13:00 ~ 18:00 人間・環境学研究科棟 地階大講義室	月浦 崇	「記憶の起源を脳に探る」(人間・環境学研究科准教授)	65
		藤田 耕司	「人間の言語能力と知性の起源に迫る」(人間・環境学研究科教授)	
		西山 良平	「西暦 1000 年前後の京都の町ー現在の京都の始まりー」(人間・環境学研究科教授)	
		阪上 雅昭	「ビッグバン宇宙・惑星・生命そして群れ」(人間・環境学研究科教授)	
25	基盤を探る 平成 25 年 10 月 5 日 (土) 10:00 ~ 17:30 京都大学楽友会館 2 階会議・講演室	木下 俊哉	「レーザーで原子を止めるー宇宙で最も冷たい物質ー」(人間・環境学研究科准教授)	30
		田中 真介	「乳幼児期・児童期・青年期の人格形成の発達の基礎ー子供たちの言葉にならない言葉を受け止めるー」(国際高等教育院准教授)	
		佐藤 義之	「道徳に基盤はあるか」(人間・環境学研究科教授)	
		畑 安雄	「酵素分子の形から代謝の仕組みを探るー構造生物学への誘いー」(化学研究所教授)	
26	多様性に向き合う 平成 26 年 10 月 4 日 (土) 10:00 ~ 17:30 京都大学楽友会館 2 階会議・講演室	服部 文昭	「世界の多様な言語の将来は？」(人間・環境学研究科教授)	39
		松井 正文	「動物の種多様性：両棲類を例に」(人間・環境学研究科教授)	
		風間 計博	「キリバスのサンゴ島で多様性を考えるー過酷な環境下の生活実践ー」(人間・環境学研究科教授)	
		神崎 素樹	「神経システムの簡略化からヒトの多様な動作を捉える」(人間・環境学研究科准教授)	
27	共生社会に向けて 平成 27 年 10 月 3 日 (土) 10:00 ~ 17:30 京都大学楽友会館 2 階会議・講演室	市岡 孝朗	「熱帯雨林の生物は共生しているか？：生物多様性を支える相互作用の網」(人間・環境学研究科教授)	38
		倉石 一郎	「日本型「多文化共生」と人間形成ー教育学の視点から」(人間・環境学研究科准教授)	
		船曳 康子	「多様なヒトと共に生きるには」(人間・環境学研究科准教授)	
		田中 雅一	「共生を拒否する宗教と共生を試みる宗教」(人文科学研究所教授)	
28	人間と環境 平成 28 年 8 月 9 日 (火) 13:30 ~ 17:30 人間・環境学研究科棟 地階大講義室	セッション1「民主主義は環境問題の解決に寄与しうるか」 ◇講演：佐野 亘(人間・環境学研究科教授) ◇パネルディスカッションコメンテーター：戸田 剛文(人間・環境学研究科准教授) 阪上 雅昭(人間・環境学研究科教授)		94
		セッション2「カオスと人間」 ◇講演：酒井 敏(人間・環境学研究科教授) ◇パネルディスカッションコメンテーター：土屋 徹(人間・環境学研究科准教授) 細見 和之(人間・環境学研究科教授)		
29	脳の可能性と限界 平成 29 年 8 月 9 日 (水) 13:30 ~ 17:30 人間・環境学研究科棟 地階大講義室	セッション1「無知の知を以て、未知の世界を渡らん」 ◇講演：小村 豊(こころの未来研究センター教授) ◇パネルディスカッションコメンテーター：青山 拓央(人間・環境学研究科准教授) 櫻川 貴司(人間・環境学研究科准教授)		94
		セッション2「<ことば>の獲得から見る心と脳」 ◇講演：谷口 一美(人間・環境学研究科教授) ◇パネルディスカッションコメンテーター：池田 寛子(人間・環境学研究科准教授) 船曳 康子(人間・環境学研究科准教授)		

【資料 7-2】総合人間学部オープンキャンパス開催状況

【参加人数】

年度	事前申込数	参加者数
24		1,583
25	1,926	1,800
26	1,696	1,700
27	1,772	1,600
28	1,982	2,100
29		2,100

平成 29 年度総合人間学部オープンキャンパスの内容

【開催日時】平成 29 年 8 月 9 日（水）吉田南構内

【企画内容】

- ①学部説明会・模擬講義（吉田南 4 号館 3F 4 共 30 教室）
  - ・ 11:00～12:15 学部説明会 A + 講義Ⅰ（11:30～12:15 清水扇丈 教授「極限の不思議」）
  - ・ 13:30～14:45 学部説明会 B + 講義Ⅱ（14:00～14:45 永田素彦 教授「災害ボランティアとアクションリサーチ」）
- ②相談コーナー—教員・学生と語らう—（10:00～16:00 吉田南総合館北棟 1 階 共北 11, 共北 12 教室）
- ③研究室・実験室公開 時間帯 第 1 クール（12:30～13:15）第 2 クール（13:45～14:30）第 3 クール（15:15～16:00）

人間科学系	・松本 卓也 准教授（精神病理学・精神分析学）
	・武田 宙也 准教授（美学・芸術学）
	・廣野 由美子 教授（英文学・イギリス小説）
認知情報学系	・林 達也 教授 / 江川 達郎助教（運動医科学・健康科学）
	・足立 匡義 教授（数学（解析学））
	・守田 貴弘 准教授（言語学、フランス語学、機能的言語類型論、言語相対性仮説）
国際文明学系	・佐野 亘 教授（政治学・公共政策）
	・細見 和之 教授（ドイツ思想、比較文学）
	・松江 崇 准教授（古代中国語）
文化環境学系	・塩塚 秀一郎 教授（フランス文学）
	・小方 登 教授（人文地理学）
	・増井 正哉 教授（環境構成論・文化遺産の保全）
自然科学系	・森成 隆夫 准教授（物性理論）
	・小松 直樹 教授（ナノサイエンス）
	・加藤 眞 教授（生態学）
	・鎌田 浩毅 教授（地球科学）

④総人紹介コーナー（10:00～16:00）

- ・パネル展示（吉田南総合館北棟 1 階ラウンジ）
- ・教員著書展示（吉田南総合図書館）

⑤学生による企画

- ・学生企画Ⅰ：京都大学各種団体の演技（12:15～13:30）
- ・学生企画Ⅱ：現役総人人生による学部紹介（11:00～12:15 / 13:30～14:45）

【資料 7-3】本研究科関係発行元による学術誌

	タイトル	発行元 / 最新号 / ISSN /
1	『人間・環境学』	京都大学大学院人間・環境学研究科 最新号: 第25巻(2016-12-20) ISSN:0918-2829
2	『人環フォーラム』	京都大学大学院人間・環境学研究科 最新号: No.35(2016-03-15) ISSN:1342-3622
3	『言語科学論集』 (Papers in Linguistic Science)	京都大学大学院人間・環境学研究科言語科学講座 最新号: 第22号(2016-12)
4	『ドイツ文学研究 (ドイツ文学研究報告)』	京都大学人間・環境学研究科ドイツ語部会 最新号: 第62号(2017-03-25) ISSN:0419-5817
5	『文明構造論: 京都大学大学院人間・環境学研究科 現代文明論講座文明構造論分野論集』	京都大学大学院人間・環境学研究科現代文明論講座文明構造論分野『文明構造論』刊行会 最新号=Vol.10(2014-10-31) ISSN:1880-4152 (閉巻)
6	『人間存在論』	京都大学大学院人間・環境学研究科総合人間学部『人間存在論』刊行会 最新号: 第23号(2017-07-01) ISSN: 1341-2698
7	『英文学評論』 Review of English Literature	京都大学大学院人間・環境学研究科英語部会 最新号: 第90集(2018-02-28) ISSN: 0420-8641
8	『あいだ／生成』	あいだ哲学会(京都大学大学院人間・環境学研究科篠原資明研究室) 最新号: 第7号(2017-03-20) ISSN:2432-8785
9	『歴史文化社会論講座紀要』	京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座 最新号: 第14号(2017-02-28) ISSN:1344-4824
10	Contributions from the Biological Laboratory, Kyoto University	京都大学大学院人間・環境学研究科 最新号: Vol.30 No.3 (2017-02-20) ISSN: 0452-9987
11	『社会システム研究』	京都大学大学院人間・環境学研究科京都大学総合人間学部社会システム研究刊行会 最新号=第20号(2017-03-30) ISSN: 1343-4497
12	『ディアファネース: 芸術と思想』	京都大学大学院人間・環境学研究科岡田温司研究室 最新号 = 第 4 号 (2017-03-30) NCID: AA12674073
13	『文芸表象論集』	京都大学大学院人間・環境学研究科 文芸表象会 最新号: 第4号(2016-12-31) ISSN: 2188-0239
14	『地域と環境』	京都大学大学院人間・環境学研究科「地域と環境」研究会編 最新号: No.14 (2016-12-28) ISSN: 1344-0985
15	『コンタクト・ゾーン』	『コンタクト・ゾーン』(京都大学人文科学研究所人文国際研究センター発行)の後続誌 006 から人間・環境学研究科(文化人類学分野)発行(電子版のみ) 最新号: 第 9 号 (2017-12-31) ISSN:2188-5974
16	『いのちの未来』	京都大学大学院人間・環境学研究科カール・ベッカー研究室 最新号: No.2 (2017-02-18) ISSN: 2423-9445

【資料 7-4】アウトリーチ活動について

		(件数)						
		年度	24	25	26	27	28	29
出張講義	高等学校・中高一貫校		5	3	6	7	9	12
	小・中学校・小中一貫校		1	4	6	2	5	5
	その他		0	1	3	1	2	1
	合計		6	8	15	10	16	18
訪問受入	高等学校・中高一貫校		12	11	14	9	16	18
	小・中学校・小中一貫校		0	1	1	0	2	2
	その他		0	1	1	0	1	1
	合計		12	13	16	9	19	21



# 各種アンケート調査

## 8. 各種アンケート調査

【資料 8-1】総合人間学部 人間・環境学研究科 授業評価アンケート（平成 28・29 年度実施）

	部局	総合人間学部			人間・環境学研究科		
		H28前期	H28後期	H29前期	H28前期	H28後期	H29前期
	開講年度	2016	2016	2017	2016	2016	2017
	対象科目	238	223	273	47	21	37
	履修者数	2607	2,266	2,553	738	293	555
	回答者数	343	189	338	51	14	39
	回答率	13.2%	8.3%	13.2%	6.9%	4.8%	7.0%
(Q.01) この授業を履修しようと思ったのはなぜですか（複数回答）	A. シラバスを読んで興味が湧いた B. 指導教員の授業だから C. 卒業要件に必要なだから D. 教員免許等の資格取得に必要な授業だから E. その他 F. 無回答	59.0 6.5 30.2 2.4 1.2 0.5	58.1 11.1 26.5 3.8 0.4 0.0	60.3 6.9 23.6 6.4 2.8 0.0	73.2 10.7 7.1 0.0 8.9 0.0	42.1 26.3 31.6 0.0 0.0 0.0	
(Q.02) この授業はどのような形式でしたか	A. 教員による講義 B. 学生による発表 C. 特定のテーマについての討論 D. 文献の輪読 E. その他 F. 無回答	76.4 10.5 5.0 4.7 0.3 3.2	70.9 14.8 4.8 7.4 0.5 1.6	69.8 14.8 3.0 7.1 0.3 5.0	64.7 13.7 3.9 3.9 2.0 11.8	35.7 42.9 7.1 7.1 7.1 0.0	76.9 20.5 0.0 2.6 0.0 0.0
(Q.03) この授業の内容についてどれくらい興味を持っていましたか	A. 非常におもしろく興味が持てた B. かなりおもしろく興味が持てた C. 少しはおもしろく興味が持てた D. あまりおもしろくなく興味が持てなかった E. まったくおもしろくなく興味が持てなかった F. その他 G. 無回答	27.0 34.6 29.4 6.7 1.2 0.6 0.6	34.4 35.9 26.2 2.6 0.0 1.0 0.0	30.9 33.8 29.2 5.5 0.6 0.0 0.0	62.3 22.6 9.4 3.8 1.9 0.0 0.0	42.9 50.0 7.1 0.0 0.0 0.0 0.0	61.5 23.1 10.3 2.6 2.6 0.0 0.0
(Q.04) この授業の内容をどの程度理解できましたか	A. とてもよく理解できた B. かなり理解できた C. まずまず理解できた D. あまり理解できなかった E. まったく理解できなかった F. その他 G. 無回答	13.2 25.3 47.4 12.1 1.4 0.3 0.3	20.3 32.3 43.2 4.2 0.0 0.0 0.0	14.3 30.4 48.2 7.0 0.0 0.0 0.0	40.4 32.7 21.2 5.8 0.0 0.0 0.0	28.6 50.0 21.4 0.0 0.0 0.0 0.0	33.3 38.5 25.6 2.6 0.0 0.0 0.0
(Q.05) この授業はあなたの問題発見能力や問題解決能力に役立ちましたか	A. 大いに役立った B. ある程度役立った C. 少しは役立った D. あまり役立たなかった E. まったく役立たなかった F. その他 G. 無回答	24.2 39.2 25.4 7.5 2.6 0.3 0.9	33.2 37.3 24.4 5.2 0.0 0.0 0.0	27.7 39.5 24.5 7.5 0.6 0.0 0.3	65.4 17.3 5.8 7.7 1.9 1.9 0.0	73.3 26.7 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0	59.0 33.3 5.1 2.6 0.0 0.0 0.0
(Q.06) この授業の配布資料、OHPやPower Point による画像資料、板書などの分量と質は妥当なものでしたか	A. とてもよいものだった B. かなりよいものだった C. まずまずのものだった D. あまりよくなかった E. 非常に悪かった F. 無回答	17.8 36.2 41.1 4.1 0.3 0.6	29.1 34.4 34.9 1.6 0.0 0.0	30.8 34.9 31.4 2.4 0.3 0.3	62.7 11.8 15.7 3.9 0.0 5.9	50.0 42.9 0.0 0.0 0.0 7.1	43.6 25.6 25.6 5.1 0.0 0.0
(Q.07) この授業に何回出席しましたか。現在までの回数を書いてください	A. 13回以上 B. 10回以上13回未満 C. 7回以上10回未満 D. 4回以上7回未満 E. 4回未満 F. 無回答	44.9 41.1 8.2 2.9 1.7 1.2	27.5 52.4 15.3 2.1 2.6 0.0	42.9 40.2 11.2 3.3 0.9 1.5	35.3 31.4 11.8 3.9 15.7 2.0	21.4 35.7 7.1 21.4 14.3 0.0	53.8 33.3 2.6 5.1 5.1 0.0
(Q.08) この授業の予習、復習、課題などのためにどれくらいの時間をかけましたか。学期を通じての1週間あたりの平均時間数を30分単位で書いてください	A. 3時間以上 B. 2時間以上3時間未満 C. 1時間以上2時間未満 D. 0.5時間以上1時間未満 E. 0.5時間未満 F. 無回答	6.1 6.4 30.3 33.2 21.9 2.0	4.8 10.1 18.5 37.6 25.4 3.7	8.6 5.9 27.5 34.3 21.6 2.1	19.6 9.8 49.0 7.8 13.7 0.0	50.0 7.1 0.0 35.7 7.1 0.0	23.1 10.3 25.6 10.3 30.8 0.0
(Q.09) シラバスを活用しましたか	A. はい B. いいえ、またはどちらともいえない C. 無回答	54.2 45.5 0.3	56.1 43.4 0.5	65.4 34.6 0.0	76.5 23.5 0.0	85.7 14.3 0.0	66.7 33.3 0.0
(Q.11) シラバスの情報は十分なものでしたか（活用の有無にかかわらず答えてください）	A. はい B. いいえ C. 無回答	93.6 5.5 0.9	97.3 1.6 1.1	96.2 3.6 0.3	96.1 3.9 0.0	92.9 7.1 0.0	94.9 2.6 2.6
(Q.13) この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください	A. 十分達成(概ね9割以上)できた B. ほぼ達成(概ね8割以上)できた C. どちらともいえない D. やや達成(概ね8割未満)できなかった E. 達成(概ね6割未満)できなかった F. 無回答	13.7 49.6 28.6 4.7 2.9 0.6	20.2 49.5 22.9 6.4 0.5 0.5	18.3 51.2 26.6 3.0 0.9 0.0	37.3 41.2 9.8 9.8 2.0 0.0	28.6 64.3 7.1 0.0 0.0 0.0	43.6 46.2 7.7 0.0 0.0 2.6

【資料 8-2】総合人間学部 在学生・卒業生アンケート 総合人間学部 1 回生

		入学年度 回答数	H25 108	H26 123	H27 124	H28 125	H29 119	
(1) 総合人間学部を選 択した理由は何ですか (複数回答)	1. 勉強したい学問分野が本学部にあったから		55.0	43.9	50.8	58.4	47.9	
	2. 入試の難易度が自分の実力に合致していたから		13.0	17.1	18.5	17.6	24.4	
	3. かなり幅広く何でも勉強できそうだから		81.5	82.1	81.5	84.8	76.5	
	4. 卒業後の就職を考えて		6.5	3.3	1.6	8.8	4.2	
	5. 大学院への進学を考えて		2.8	4.1	8.1	6.4	3.4	
	6. 高校や予備校の先生に勧められたから		2.8	6.5	6.5	7.2	5.0	
	7. 親や親戚など周囲の人に勧められたから		2.8	2.4	3.2	4.8	3.4	
	8. その他		1.9	5.7	1.6	5.6	5.9	
	無回答		0.9		0.8	0.8	1.7	
(2) 受験に際して、総合 人間学部の教育内容に ついて十分な情報を得 ることができましたか	1. 十分情報を得ることができた		28.7	24.4	24.2	37.6	25.2	
	2. 少しは情報を得ることができた		54.6	54.5	59.7	52.0	59.7	
	3. あまり情報を得ることができなかった		13.9	21.1	15.3	10.4	14.3	
	無回答		2.8		0.8		0.8	
	計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(3) 総合人間学部の 「オープン・キャンパス」 について知っています か	1. 参加した		39.8	31.7	30.6	37.6	33.6	
	2. 参加しなかったが、知っていた		33.3	29.3	36.3	31.2	37.0	
	3. 知らなかった		16.7	34.1	27.4	24.8	28.6	
	無回答		10.2	4.9	5.6	6.4	0.8	
	計		100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	
(4) 貴方自身についてお尋ねします。	①-1 総合人間学部を 受験したのは、現役で したか？浪人でしたか		1. 現役	58.3	53.7	62.1	50.4	51.3
			2. 浪人	31.5	41.5	31.5	42.4	42.9
			無回答	10.2	4.9	6.5	7.2	5.9
			計	100.0	100.1	100.1	100.0	100.1
①-2 総合人間学部受 験は、何回目ですか(い わゆる浪人の方)			1回目	47.1	58.8	61.5	59.3	64.4
			2回目	47.1	35.3	35.9	35.2	33.3
			3回目以上	2.9	3.9	2.6	0.0	2.2
			無回答	2.9	2.0		5.5	
			計	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9
②総合人間学部を受験 したのは、文系ですか 理系ですか			文系	43.5	51.2	49.2	52.0	51.3
			理系	44.4	41.5	45.2	41.6	42.9
			無回答	12.0	7.3	5.6	6.4	5.9
			計	99.9	100.0	100.0	100.0	100.1
③総合人間学部を受験 することを決めたのはい つですか			1. 高校2年生までに決めた	26.9	26.0	34.7	28.0	21.8
			2. 高校3年生の秋までに決めた	38.9	41.5	39.5	34.4	39.5
			3. 大学入試センター試験の後に決めた	14.8	11.4	12.1	8.8	14.3
			4. その他	9.3	14.6	8.1	21.6	17.6
			無回答	10.2	6.5	5.6	7.2	6.7
		計	100.1	100.0	100.0	100.0	99.9	
(5) 現在の気持ちに近 いものに、いくつでも○ をつけてください (複数回答)			1. 思い切り勉強したい	59.0	58.0	74.0	81.0	55.5
			2. 思い切りのんびり楽しみたい	56.0	73.0	73.0	76.0	58.0
			3. サークル活動を始めたい	42.0	45.0	67.0	54.0	43.7
			4. 新しい友人をつくりたい	63.0	71.0	71.0	72.0	55.5
			5. 先生と話したい	30.0	27.0	37.0	33.0	26.9
			6. アルバイトに精を出したい	17.0	16.0	27.0	25.0	19.3
			7. その他	2.0	12.0	5.0	12.0	5.9
			無回答	12.0	6.0	7.0	6.0	5.9
(6) 現在、所属してみたい と思っている学系 (複数回答)	文系	有効回答者数		61				
		1. 人間科科学系		31.1				
		2. 認知情報学系		24.6				
		3. 国際文明学系		23.0				
		4. 文化環境学系		6.6				
		5. 自然科学系		4.9				
	6. まったく未定		21.3					
	理系	有効回答者数		51				
		1. 人間科科学系		13.7				
		2. 認知情報学系		39.2				
		3. 国際文明学系		13.7				
		4. 文化環境学系		5.9				
		5. 自然科学系		19.6				
6. まったく未定		21.6						

総合人間学部 2 回生

		進学年度	H25	H26	H27	H28	H29
		回答数	122	121	121	125	120
(1) 単位の取得状況は どうですか	1. ほぼ順調に取得している		64.8	70.2	68.6	74.4	67.5
	2. あまり取得できなかった		31.1	27.3	28.1	24.0	30.0
	3. それ以外		4.1	2.5	2.5	1.6	1.7
	無回答				0.8		0.8
	計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(2) 授業を含めて週に 何時間ぐらい大学で勉 強していますか	1. 20時間未満			25.6	31.4	30.4	30.8
	2. 20～30時間未満			39.7	40.5	39.2	39.2
	3. 30～40時間未満			27.3	23.1	24.8	25.8
	4. 40～50時間未満			7.4	1.7	4.8	2.5
	5. 50時間以上			0.0	2.5	0.8	1.7
無回答				0.8			
計			100.0	100.0	100.0	100.0	
(3) 自宅等学外で週に 何時間ぐらい勉強して いますか	1. 5時間未満			62.8	71.1	67.2	51.7
	2. 5～10時間未満			28.1	22.3	28.0	37.5
	3. 10～15時間未満			6.6	2.5	3.2	5.8
	4. 15～20時間未満			1.7	2.5	0.8	4.2
	5. 20時間以上			0.8	0.8	0.8	0.8
無回答				0.8			
計			100.0	100.0	100.0	100.0	
(4) 授業についてどう思 いますか	1. 有益な授業が多い		39.3	31.4	28.1	36.8	36.7
	2. 有益な授業も少しはある		59.0	64.5	66.9	59.2	59.2
	3. 有益な授業はほとんどない		0.8	4.1	4.1	4.0	2.5
	無回答		0.8		0.8		1.7
計		99.9	100.0	99.9	100.0	100.1	
(5) 授業のカリキュラム について、どう思います か	1. ほぼ今のままでよい		69.7	58.7	62.0	62.4	71.7
	2. もっと学系ごとに履修すべき科目を提示してほしい		23.0	36.4	34.7	29.6	25.0
	3. その他		2.5	0.8	1.7	3.2	3.3
	無回答		4.9	4.1	1.7	4.8	
計		100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	
(6) 自分の教員アドバイ ザーを訪れたことはあり ますか	1. ある		22.1	24.0	28.9	28.8	20.9
	2. ない		76.2	70.2	62.0	66.4	73.0
	3. 誰がアドバイザーか知らない		1.6	1.7	7.4	0.0	6.1
	無回答			4.1	1.7	4.8	
計		99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	
(7) 卒業論文／卒業研 究指導教員を決定する 時期について、いつに すべきだと思いますか	1. 4回生になったとき		15.6	11.6	10.7	10.3	13.3
	2. 3回生の後期開始時点		49.2	52.9	52.9	47.6	50.0
	3. 3回生になったとき		26.2	26.4	30.6	31.0	29.2
	4. もっと早い時期		2.5	3.3	2.5	3.2	1.7
	5. その他		1.6	0.8	1.7	2.4	0.0
無回答		4.9	5.0	5.0	5.6	5.8	
計		100.0	100.0	103.4	100.1	100.0	
(8) 文系、理系、どちらで入学し、現在の学系に所属 していますか	文系	有効回答者数	63				
		1. 人間科科学系	44.4				
		2. 認知情報学系	12.7				
		3. 国際文明学系	23.8				
		4. 文化環境学系	12.7				
	5. 自然科学系	6.3					
	計	99.9					
	理系	有効回答者数	51				
		1. 人間科科学系	35.3				
		2. 認知情報学系	39.2				
		3. 国際文明学系	11.8				
		4. 文化環境学系	2.0				
	5. 自然科学系	11.8					
	計	100.1					
	学系別 文理の割 合	有効回答者数	114				
1. 人間科科学系		文系	60.9				
		理系	39.1				
2. 認知情報学系		文系	28.6				
		理系	71.4				
3. 国際文明学系	文系	71.4					
	理系	28.6					
4. 文化環境学系	文系	88.9					
	理系	11.1					
5. 自然科学系	文系	40.0					
	理系	60.0					
(9) 分属の時期について、いつにすべきだと思いますか	1. 今のまま	83.3					
	2. もっと早く	3.3					
	3. もっと遅く	9.2					
	無回答	4.2					
	計	100.0					

## 総合人間学部 3 回生

		進学年度 回答数	H25 118	H26 118	H27 122	H28 122	H29 122
(1) 単位の取得状況は どうですか	1. 卒業論文／卒業研究を除いて、今年度でほぼ必要単位を取得できる見込み		53.4	50.0	61.5	47.5	69.2
	2. あと2年かければ必要単位を取得できる見込み		42.4	44.9	32.8	46.7	27.5
	3. あと2年では必要単位を取得するのは困難		3.4	3.4	4.9	4.9	2.5
	4. それ以外		0.8	1.7	0.8	0.0	0.8
	無回答					0.8	
	計		100.0	100.0	100.0	99.1	100.0
(2) 授業を含めて週に 何時間ぐらい大学で勉強 していますか	1. 20時間未満			38.1	37.7	43.4	42.5
	2. 20～30時間未満			39.8	41.0	37.7	39.2
	3. 30～40時間未満			17.8	15.6	14.8	10.8
	4. 40～50時間未満			3.4	4.1	4.1	4.2
	5. 50時間以上			0.8	1.6	0.0	3.3
	計		99.9	100.0	100.0	100.0	100.0
(3) 自宅等学外で週に 何時間ぐらい勉強して いますか	1. 5時間未満		47.5	56.6	72.1	57.5	
	2. 5～10時間未満		30.5	35.2	21.3	30.0	
	3. 10～15時間未満		11.9	1.6	4.1	9.2	
	4. 15～20時間未満		5.1	3.3	0.8	1.7	
	5. 20時間以上		5.1	3.3	1.6	1.7	
	計		100.1	100.0	99.9	100.1	
(4) 授業についてどう思 いますか	1. 有益な授業が多い		49.2	39.8	39.3	32.8	41.7
	2. 有益な授業も少しはある		48.3	57.6	59.0	63.1	56.7
	3. 有益な授業はほとんどない		2.5	1.7	1.6	4.1	1.7
	無回答			0.8			
	計		100.0	99.9	99.9	100.0	100.1
(5) 自分の教員アドバイ ザーを訪れたことはあり ますか	1. ある		56.8	59.3	62.3	50.8	48.2
	2. ない		43.2	36.4	31.1	41.0	50.0
	3. 誰がアドバイザーか知らない		0.0	2.5	0.8	3.3	1.8
	無回答			1.7	5.7	4.9	
	計		100.0	99.9	99.9	100.0	100.0
(6) 卒業論文／卒業研 究指導教員を決定する 時期について、いつに すべきだと思いますか	1. 4回生になったとき		33.1	18.6	18.9	21.3	16.4
	2. 3回生の後期開始時点		47.5	62.7	54.9	52.5	62.7
	3. 3回生になったとき		7.6	13.6	18.9	16.4	17.3
	4. もっと早い時期		1.7	0.0	0.0	4.1	0.9
	5. その他		2.5	2.5	1.6	0.8	2.7
	無回答		7.6	2.5	5.7	4.9	
	計		100.0	99.9	100.0	100.0	100.0
(7) 授業のカリキュラム について、どう思います か	1. ほぼ今のままでよい		55.9	60.2	59.0	60.7	68.2
	2. もっと学系ごとに履修すべき科目を提示してほしい		26.3	28.8	32.0	32.0	24.5
	3. その他		10.2	9.3	1.6	2.5	7.3
	無回答		7.6	1.7	7.4	4.9	
	計		100.0	100.0	100.0	100.1	100.0

総合人間学部 4 回生

		進学年度	H25	H26	H27	H28	H29
		回答数	136	152	160	154	154
(1) 授業を含めて週に何時間ぐらい大学で勉強していますか	1. 20時間未満			55.3	57.5	53.9	63.2
	2. 20～30時間未満			27.0	21.9	29.9	24.3
	3. 30～40時間未満			11.8	11.9	9.7	6.6
	4. 40～50時間未満			3.3	5.0	4.5	1.3
	5. 50時間以上			2.6	3.8	1.3	3.9
	無回答					0.7	0.7
		計		100.0	100.1	100.0	100.0
(2) 自宅等学外で週に何時間ぐらい勉強していますか	1. 5時間未満			49.3	38.1	40.3	52.6
	2. 5～10時間未満			29.6	29.4	32.5	28.9
	3. 10～15時間未満			11.8	10.0	9.7	7.2
	4. 15～20時間未満			2.6	8.1	8.4	5.9
	5. 20時間以上			6.6	14.4	9.1	4.6
	無回答						0.8
		計		99.9	100.0	100.0	99.2
(3) 卒業論文／卒業研究の指導教員は決まっていますか	1 決まっている		86.8	76.3	77.5	89.0	86.2
	2 まだ決まっていない		9.6	17.1	20.0	7.1	9.9
	3 今年度は卒業論文／卒業研究に入らない		2.9	3.3	1.9	2.6	3.3
	4 それ以外(具体的に )		0.7	3.3	0.0	1.3	0.7
	無回答					0.6	
		計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1
(4) 卒業論文／卒業研究のテーマ(方向性)は決まりつつありますか	1. ほぼ決まっている		20.6	23.0	22.5	33.1	26.3
	2. 決まりつつある		41.2	39.5	39.4	33.1	36.8
	3. まだ決まっていない		38.2	34.9	36.9	33.1	36.2
	4. その他(具体的に )		0.0	2.6	0.6	0.6	0.7
	無回答					0.6	
		計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0
(5) 卒業論文／卒業研究の指導教員を決定する時期についていつにすべきだと思いますか	1. 4回生になったとき						23.7
	2. 3回生の後期開始時点						52.6
	3. 3回生になったとき						19.1
	4. もっと早い時期						2.0
	5. その他						2.0
		計					100.1
(6) 単位の取得状況はどうですか	1. 卒業論文／卒業研究を除いて、ほぼ必要単位を取得済み		44.9	45.4	48.1	55.2	39.9
	2. 今年度ですべての必要単位を取得できる見込み		47.8	46.7	44.4	35.7	51.6
	3. 今年度では、必要単位を全部取得することは困難		5.9	7.2	6.9	8.4	7.2
	4. それ以外(具体的に )		1.5	0.7	0.6	0.6	1.3
		計	100.1	100.0	100.0	99.9	100.0
(7) 就職活動はどうですか (単位 人)	1. すでに内定の感触をつかんだ		9	22	10	13	22
	1aすでに内定の感触をつかんだが、さらに就職活動を続けている		11	7	6	5	8
	2. 現在、就職活動を続けている		53	53	76	69	72
	3. 就職活動をしようにも手がかりがつかめず困っている		5	10	9	13	11
	4. 就職をする意思はない		7	61	59	61	47
	4a. 就職をする意思はなく、大学院進学を希望		48	49	49	45	32
	その他		1	0	0	0	4
		無回答	2	6	6	1	
(8) 大学院進学への準備はどうですか (複数回答可)	1. 人間・環境学研究科を受験予定		27.2	24.3	22.5	23.4	18.2
	2. 京都大学の人環以外の研究科を受験予定		17.6	13.8	16.9	12.3	11.0
	3. 他大学の研究科を受験予定		11.8	11.8	9.4	8.4	4.5
	4. 大学院進学への希望はない		27.9	51.3	55.6	52.6	57.8
	4a. 大学院進学への希望はなく、就職活動は行っている		22.1	19.7	19.4	17.5	23.4
		無回答	10.3	13.2	8.1	11.7	1.9
(9) 就職活動や大学院進学について相談できる教員や事務職員はいますか	1. いる		60.3	57.9	55.0	55.2	51.7
	2. いない		22.8	27.0	35.0	31.2	39.2
	3. 不必要		9.6	11.2	5.0	8.4	8.4
	4. その他(具体的に )		0.7	0.7	0.6	0.6	0.0
	無回答		6.6	3.3	4.4	4.5	0.7
		計	100.0	100.1	100.0	99.9	100.0

## 総合人間学部卒業生

		卒業年度 回答数	H24 81	H25 112	H26 94	H27 119	H28 113
(1) 授業を含めて週に 何時間ぐらい大学で 勉強しましたか	1. 20時間未満			51.8	38.3	42.0	37.2
	2. 20～30時間未満			25.9	37.2	30.3	38.9
	3. 30～40時間未満			17.0	17.0	16.0	18.6
	4. 40～50時間未満			4.5	4.3	4.2	2.7
	5. 50時間以上			0.9	2.1	6.7	1.8
	無回答				1.1	0.8	0.9
		計		100.1	100.0	100.0	100.1
(2) 自宅等学外で週 に何時間ぐらい勉強 しましたか	1. 5時間未満			49.1	44.7	37.0	51.3
	2. 5～10時間未満			29.5	33.0	34.5	29.2
	3. 10～15時間未満			13.4	11.7	11.8	10.6
	4. 15～20時間未満			3.6	3.2	4.2	0.9
	5. 20時間以上			4.5	6.4	11.8	7.1
	無回答				1.1	0.8	0.9
		計		100.1	100.1	100.1	100.0
(3) 授業から得るもの は大きかったですか	1. 大きかった		43.2	33.9	40.4	33.6	44.2
	2. 大きいとは言えないが、得るものがあつた		34.6	44.6	40.4	41.2	38.1
	3. ある程度は得るものがあつた		19.8	17.0	18.1	21.8	14.2
	4. 得るものはあまりなかつた		1.2	4.5		3.4	3.5
	無回答		1.2		1.1	0.0	
		計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(4) 卒業論文／卒業 研究から得るものは大 きかったですか	1. 大きかった		66.7	70.5	68.1	68.1	69.9
	2. 大きいとは言えないが、得るものがあつた		27.2	19.6	25.5	23.5	23.9
	3. ある程度は得るものがあつた		4.9	5.4	6.4	5.9	4.4
	4. 得るものはあまりなかつた		1.2	4.5		2.5	1.8
	無回答						
		計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(5) 卒業論文／卒業 研究の指導教員を決 定する時期について いつにすべきだと思 いますか	1. 4回生になったとき						21.2
	2. 3回生の後期開始時点						44.2
	3. 3回生になったとき						30.1
	4. もっと早い時期						1.8
	5. その他						1.8
	無回答						0.9
		計					100.0
(6) 副専攻から得るも のは大きかったですか	1. 大きかった		29.6	20.5	26.6	29.4	24.3
	2. 大きいとは言えないが、得るものがあつた		35.8	28.6	31.9	30.3	41.4
	3. ある程度は得るものがあつた		23.5	30.4	24.5	29.4	23.4
	4. 得るものはあまりなかつた		8.6	11.6	8.5	8.4	10.8
	無回答		2.5	8.9	8.5	2.5	
		計	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9
(7) 総合人間学部の 教育について、どう思 いますか	1. ほぼ現状のままでよい		44.4	46.4	43.6	50.4	54.1
	2. 改善すべき点が残されている		48.1	38.4	42.6	36.1	32.4
	3. 抜本的に改善すべきである		3.7	6.3	5.3	8.4	11.7
	無回答		3.7	8.9	8.5	5.0	1.8
		計	99.9	100.0	100.0	99.9	100.0

【資料 8-3】 人間・環境学研究所 修士課程 M2 学生アンケート

		進学年度 回答数	H26 64	H27 75	H28 76	H29 55
【1】 所属する専攻を選んでください	1. 共生人間学専攻		50.0	45.3	50.0	34.5
	2. 共生文明学専攻		17.2	22.7	30.3	29.1
	3. 関連環境学専攻		32.8	32.0	19.7	36.4
	計		100.0	100.0	100.0	100.0
【2】 修士課程での専門分野を選んでください	1. 文科系		59.4	57.3	63.2	56.4
	2. 理科系		37.5	36.0	26.3	40.0
	3. 領域横断的		3.1	6.7	10.5	3.6
	計		100.0	100.0	100.0	100.0
【3】 希望している進路を選んでください	1. 人間・環境学研究所博士課程に進学		43.8	37.3	31.6	30.9
	2. 他研究科、他大学大学院などに進学		0.0	5.3	2.6	5.5
	3. 就職		53.1	54.7	61.8	63.6
	4. その他()		3.1	1.3	3.9	0.0
	無回答			1.3		
計		100.0	99.9	99.9	100.0	
【4】 本研究科のホームページおよび『学生便覧』(p.1) に書かれている本研究科の教育理念・各専攻の教育理念をいつ知りましたか	1. 入学以前		39.1	36.0	35.5	38.2
	2. 入学後のガイダンス		45.3	40.0	34.2	21.8
	3. 修士1年生の間		4.7	4.0	2.6	9.1
	4. 今まで知らなかった		10.9	20.0	27.6	30.9
	無回答					
計		100.0	100.0	99.9	100.0	
【5】 本研究科の教育体制は理念に沿うものだと思いますか	1. おおいにそう思う		7.8	10.7	10.5	10.9
	2. そう思う		60.9	54.7	53.9	36.4
	3. どちらともいえない		29.7	25.3	32.9	43.6
	4. そうは思わない		1.6	6.7	1.3	1.8
	5. まったくそうは思わない		0.0	1.3	1.3	7.3
	無回答			1.3		
計		100.0	100.0	99.9	100.0	
【6】 週に何時間ぐらい大学で学業・研究に従事していますか	1. 20時間未満		28.1	21.3	30.3	20.0
	2. 20-30時間未満		18.8	22.7	27.6	23.6
	3. 30-40時間未満		21.9	9.3	15.8	7.3
	4. 40-50時間未満		10.9	24.0	10.5	14.5
	5. 50-60時間未満		6.3	16.0	10.5	14.5
	6. 60時間以上		14.1	6.7	5.3	20.0
	計		100.1	100.0	100.0	99.9
【7】 週に自宅等学外で何時間ぐらい学業に時間を使っていますか	1. 5時間未満		18.8	24.0	26.3	36.4
	2. 5-10時間未満		29.7	33.3	35.5	18.2
	3. 10-15時間未満		28.1	14.7	18.4	16.4
	4. 15-20時間未満		7.8	8.0	7.9	5.5
	5. 20時間以上		15.6	20.0	11.8	23.6
	計		100.0	100.0	99.9	100.1
【8】 大学院での学業に意欲的に取り組んでいると思いますか	1. おおいに取り組んでいる		25.0	26.7	26.3	25.5
	2. まずまず取り組んでいる		54.7	50.7	52.6	47.3
	3. どちらとも言えない		15.6	10.7	15.8	23.6
	4. 十分意欲的に取り組んでいるとは言えない		4.7	6.7	3.9	3.6
	5. 意欲的に取り組んでいない		0.0	0.0	1.3	0.0
	計		100.0	94.8	99.9	100.0
【9】 大学院での授業科目の単位をどの程度取得できていると思いますか	1. おおいに取得できている		-	53.3	51.3	54.5
	2. まずまず取得できている		-	37.3	39.5	36.4
	3. どちらとも言えない		-	6.7	5.3	7.3
	4. あまり取得できているとは言えない		-	2.7	3.9	1.8
	5. まったく取得できていない		-	0.0	0.0	0.0
	計		-	100.0	100.0	100.0
【10】 修士課程に入学した時、本研究科でどのような研究能力・知識を身に付けることを学業の目標にしましたか(複数回答可)	1. 実験を適切に計画して遂行する能力		31.3	24.0	30.3	36.4
	2. データを分析する能力		34.4	32.0	40.8	32.7
	3. 研究課題を発見する能力		45.3	46.7	63.2	61.8
	4. 文献(外国語を含む)を読む能力		50.0	53.3	56.6	58.2
	5. 論理的に思考して推論する能力		56.3	66.7	64.5	61.8
	6. 専門分野に関する幅広い知識		71.9	64.0	67.1	65.5
	7. 学術論文を書く能力		50.0	48.0	48.7	43.6
	8. 学会などで研究発表する能力		32.8	37.3	32.9	30.9
	9. 人間関係を築く能力		7.8	17.3	18.4	20.0
	10. その他		3.1	2.7	2.6	0.0

		進学年度 回答数	H26 64	H27 75	H28 76	H29 55
【11】修士課程の1年目を終えた段階で、入学当初目標としていた学業の成果はあがっていると思いますか	1. おおいにあがっている		6.3	6.7	5.3	12.7
	2. まあまああがっている		54.7	53.3	55.3	43.6
	3. どちらともいえない		31.3	28.0	26.3	27.3
	4. あまりあがっていない		7.8	9.3	11.8	16.4
	5. まったくあがっていない		0.0	0.0	1.3	0.0
	無回答			2.7		
	計		100.1	100.0	100.0	100.0
【12】修士課程の2年目であなたが学業の上で目標とすることをあげてください (複数回答可)	1. 実験を適切に計画して遂行する能力		34.4	24.0	21.1	25.5%
	2. データを分析する能力		40.6	29.3	31.6	27.3
	3. 研究課題を発見する能力		50.0	49.3	40.8	40.0
	4. 文献(外国語を含む)を読む能力		51.6	48.0	39.5	43.6
	5. 論理的に思考して推論する能力		67.2	60.0	57.9	49.1
	6. 専門分野に関する幅広い知識		62.5	52.0	51.3	45.5
	7. 学術論文を書く能力		73.4	64.0	68.4	63.6
	8. 学会などで研究発表する能力		54.7	41.3	38.2	45.5
	9. 人間関係を築く能力		14.1	12.0	23.7	14.5
	10. その他		1.6	0.0	2.6	5.5
【13】修士課程の講義・演習などのカリキュラムと内容、研究指導などの教育は、研究能力の向上に役立つようにできていると思いますか	1. おおいにそう思う		23.4	8.0	23.7	23.6
	2. そう思う		54.7	49.3	61.8	45.5
	3. どちらともいえない		20.3	30.7	9.2	21.8
	4. そうは思わない		1.6	9.3	5.3	9.1
	5. まったくそうは思わない		0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答			2.7		
	計		100.0	100.0	100.0	100.0
【14】教室・演習室・実験室などの設備や数、院生室の設備や机の数、図書室の蔵書や利用条件などにあなたはどの程度満足していますか	1. おおいに満足している		25.0	10.7	23.7	25.5
	2. おおむね満足している		50.0	58.7	44.7	30.9
	3. どちらともいえない		7.8	9.3	10.5	21.8
	4. やや不満を感じている		15.6	14.7	18.4	16.4
	5. おおいに不満を感じている		1.6	4.0	2.6	5.5
	無回答			2.7		
	計		100.0	100.1	99.9	100.1
【15】副指導教員、アドバイザーについておたずねします						
15-1) 副指導教員に何か相談したいと思ったことがありますか	1. ある		31.3	14.7	31.6	21.8
	2. ない		68.8	81.3	68.4	78.2
	無回答			4.0		
	計		100.1	100.0	100.0	100.0
15-2) (1)で「ある」と回答した人におたずねします今までに副指導教員に相談したことはありますか	1. 何度もある		30.0	45.5	33.3	18.8
	2. 1度ある		25.0	9.1	33.3	25.0
	3. まだない		45.0	45.5	29.2	50.0
	4. 副指導教員が誰か知らない		0.0		4.2	6.3
	計		100.0	100.1	100.0	100.1
15-3) アドバイザーに何か相談したいと思ったことがありますか	1. ある		26.6	17.3	27.6	21.8
	2. ない		73.4	74.7	72.4	78.2
	無回答			8.0		
	計		100.0	100.0	100.0	100.0
15-4) (3)で「ある」と回答した人におたずねします今までにアドバイザーに相談したことはありますか	1. 何度もある		31.3	15.4	23.7	16.7
	2. 1度ある		21.9	30.8	38.2	25.0
	3. まだない		46.9	53.8	38.2	58.3
	4. アドバイザーが誰か知らない				0.0	0.0
	計		100.1	100.0	100.1	100.0
15-5) 副指導教員、アドバイザーを置く制度が学生にとって役立っていると思いますか	1. おおいにそう思う		12.5	17.3	10.5	18.2
	2. そう思う		50.0	42.7	46.1	38.2
	3. どちらともいえない		28.1	26.7	32.9	29.1
	4. そうは思わない		7.8	9.3	9.2	12.7
	5. まったくそうは思わない		1.6	0.0	1.3	1.8
	無回答			4.0		
	計		100.0	100.0	100.0	100.0

【資料 8-4】 人間・環境学研究科 修士課程修了時アンケート

		修了年度 回答数	H25 100	H26 115	H27 100.0	H28 130
【1】 専攻を選んでください	1.共生人間学専攻		37.0	55.7	47.0	36.2
	2.共生文明学専攻		32.0	18.3	21.0	30.8
	3.相関環境学専攻		31.0	26.1	32.0	33.1
	計		100.0	100.1	100.0	100.1
【2】 進路を選んでください	1.人間・環境学研究科博士後期課程へ進学		20.0	38.3	29.0	22.3
	2.他研究科、他大学大学院等への進学		4.0	0.9	2.0	3.8
	3.就職		69.0	56.5	65.0	66.2
	4.その他		6.0	4.3	4.0	7.7
	無回答		1.0			
計		100.0	100.0	100.0	100.0	
【3】 研究科の教育理念・各専攻の教育理念を何時知りましたか	1.入学以前		36.0	40.0	22.0	43.8
	2.入学後のガイダンス		30.0	35.7	41.0	39.2
	3.修士1年生の間		6.0	3.5	5.0	7.7
	4.修士2年生の間		28.0	2.6	1.0	0.0
	5.修了まで知らなかった			18.3	31.0	9.2
計		100.0	100.1	100.0	99.9	
【4】 研究科の理念に沿った教育体制であったと思いますか	1.おおいにそう思う		12.0	11.3	8.0	16.9
	2.そう思う		38.0	52.2	43.0	56.2
	3.どちらともいえない		45.0	33.0	45.0	23.1
	4.そうは思わない		5.0	2.6	2.0	2.3
	5.まったくそうは思わない			0.9	2.0	1.5
計		100.0	100.0	100.0	100.0	
【5】 週毎に何時間ぐらい大学で学業・研究に従事しましたか	1.20時間未満		10.0	13.0	9.0	9.2
	2.20-30時間		25.0	24.3	21.0	20.8
	3.30-40時間		22.0	25.2	23.0	26.2
	4.40-50時間		15.0	20.0	17.0	20.0
	5.50-60時間		9.0	9.6	16.0	10.8
	6.60時間以上		17.0	7.8	14.0	13.1
無回答		2.0				
計		100.0	99.9	100.0	100.1	
【6】 週毎に自宅等学外では何時間ぐらい学業に時間を使いましたか	1.5時間未満		26.0	21.7	32.0	30.0
	2.5-10時間		26.0	28.7	30.0	26.2
	3.10-15時間		20.0	20.9	17.0	26.9
	4.15-20時間		16.0	7.8	7.0	3.8
	5.20時間以上		9.0	20.0	14.0	13.1
無回答		3.0	0.9			
計		100.0	100.0	100.0	100.0	
【7】 講義・演習等の配分は適切だと思いますか	1.適切		28.0	33.9	32.0	33.1
	2.概ね適切		51.0	51.3	46.0	59.2
	3.どちらともいえない		13.0	12.2	18.0	5.4
	4.やや不適切		4.0	1.7	2.0	0.8
	5.不適切		2.0	0.9	2.0	1.5
無回答		2.0				
計		100.0	100.0	100.0	100.0	
【8】 大学院の学業に意欲的に取り組んだと思いますか	1.取り組んだ		38.0	42.6	50.0	40.0
	2.概ね取り組んだ		43.0	49.6	37.0	49.2
	3.どちらともいえない		12.0	4.3	7.0	7.7
	4.十分意欲的に取り組んだとは言えない		4.0	3.5	6.0	3.1
	5.意欲的に取り組まなかった		3.0	0.0	0.0	0.0
計		100.0	100.0	100.0	100.0	

		修了年度 回答数	H25 100	H26 115	H27 100	H28 130
【9】修士課程で予定していた学業の成果があがりましたか	1. おおいにあがった		25.0	27.0	22.0	20.0
	2. まあまああがった		46.0	58.3	53.0	53.8
	3. どちらともいえない		17.0	8.7	18.0	19.2
	4. あまりあがらなかった		8.0	0.9	6.0	6.9
	5. まったくあがらなかった		1.0	5.2	1.0	0.0
	無回答		3.0			
	計		100.0	100.1	100.0	99.9
【10】修士課程はあなたにとって有意義でしたか	1. 有意義だった		56.0	60.9	70.0	60.0
	2. 概ね有意義だった		33.0	33.0	24.0	33.8
	3. どちらともいえない		5.0	4.3	3.0	3.8
	4. 必ずしも有意義ではなかった		0.0	1.7	2.0	2.3
	5. 有意義ではなかった		2.0	0.0	1.0	0.0
	無回答		4.0			
	計		100.0	99.9	100.0	99.9
【11】修士課程での学業・経験は進学積または就職先で役立つと思いますか	1. 役立つと思う		64.0	60.9	56.0	53.1
	2. どちらかという役立つと思う		18.0	27.0	25.0	30.8
	3. わからない		12.0	8.7	17.0	10.8
	4. あまり役立たないと思う		0.0	1.7	1.0	3.1
	5. まったく役立たないと思う		2.0	0.9	1.0	2.3
	無回答		4.0	0.9		
	計		100.0	100.1	100.0	100.1
【12】修士課程のカリキュラム・教育等は、実力を身につける上で、上手く組まれていましたか	1. 組まれていた		22.0	20.9	19.0	20.8
	2. 概ね組まれていた		32.0	43.5	46.0	43.8
	3. どちらともいえない		31.0	28.7	24.0	23.8
	4. 必ずしも組まれていなかった		6.0	5.2	8.0	8.5
	5. 組まれていなかった		4.0	1.7	3.0	3.1
	無回答		5.0			
	計		100.0	100.0	100.0	100.0
【13】研究環境について、満足度を聞かせてください	1. 満足		37.0	41.7	39.0	36.9
	2. 概ね満足		47.0	44.3	40.0	49.2
	3. どちらともいえない		8.0	11.3	13.0	6.9
	4. やや不満		1.0	2.6	6.0	6.2
	5. 不満		1.0	0.0	2.0	0.8
	無回答		6.0			
	計		100.0	99.9	100.0	100.0

【資料 8-5】総合人間学部 人間・環境学研究科同窓生アンケート（平成 24 年度実施）

	総合人間学部		修士課程		博士後期課程		
	卒業後	回答数	修了後	回答数	修了後	回答数	
	16年	4	20年	1	16年	2	
	15年	3	19年	2	13年	1	
	14年	1	17年	1	12年	1	
	13年	2	16年	1	10年	1	
	12年	4	15年	2	9年	1	
	10年	1	14年	2	2年	1	
	8年	1	13年	1	1年	1	
	7年	1	11年	1	計	8	
	6年	1	10年	3			
	5年	2	8年	1			
	4年	2	7年	2			
	3年	2	5年	1			
	2年	2	4年	2			
	1年	3	3年	1			
	計	29	2年	2			
			空白	1			
			計	24			
問1. 総合人間学部を卒業 修士課程を修了 博士後期課程を修了 したことは良かったと思いませんか。	1. とても良かったと思う。	15	51.7%	12	50.0%	5	62.5%
	2. 良かったと思う。	10	34.5%	8	33.3%	3	37.5%
	3. どちらともいえない。	4	13.8%	4	16.7%	0	0.0%
	4. 良くなかった。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	29	100.0%	24	100.0%	8	100.0%
問2. 次の3項目に対して、大学での授業などの学習が現在役に立っていると感じますか。							
問2-(1) 社会人としての幅広い教養・知識	1. 非常に役に立っている。	9	31.0%	7	29.2%	3	37.5%
	2. 少しは役に立っている。	16	55.2%	9	37.5%	2	25.0%
	3. どちらともいえない。	3	10.3%	5	20.8%	2	25.0%
	4. ほとんど役に立っていない。	1	3.4%	1	4.2%	0	0.0%
	5. 全く役に立っていない。	0	0.0%	1	4.2%	0	0.0%
	6. その他	0	0.0%	1	4.2%	1	12.5%
	計	29	100.0%	24	100.0%	8	100.0%
問2-(2) 専門的な深い知識と技術	1. 非常に役に立っている。	5	17.2%	12	50.0%	6	75.0%
	2. 少しは役に立っている。	10	34.5%	8	33.3%	2	25.0%
	3. どちらともいえない。	5	17.2%	1	4.2%	0	0.0%
	4. ほとんど役に立っていない。	6	20.7%	2	8.3%	0	0.0%
	5. 全く役に立っていない。	3	10.3%	1	4.2%	0	0.0%
	計	29	100.0%	24	100.0%	8	100.0%
問2-(3) 自ら課題を立て解決する能力(独 創性)	1. 非常に役に立っている。	12	41.4%	12	50.0%	6	75.0%
	2. 少しは役に立っている。	11	37.9%	7	29.2%	0	0.0%
	3. どちらともいえない。	3	10.3%	3	12.5%	2	25.0%
	4. ほとんど役に立っていない。	2	6.9%	2	8.3%	0	0.0%
	5. 全く役に立っていない。	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
	計	29	100.0%	24	100.0%	8	100.0%
問3-(1) (総合人間学部卒業生へ) 副専攻から得るものは大きかった ですか。	1. 大きかった	7	24.1%				
	2. 大きいと言えないが、得るものがあった。	8	27.6%				
	3. ある程度は得るものがあった。	9	31.0%				
	4. 得るものはあまりなかった。	5	17.2%				
	計	29	100.0%				

卒業・修了年

卒業・修了年	総人	修士	博士	合計	割合
(1993年) 卒業・修了後20年		1		1	1.6%
(1994年) 卒業・修了後19年		2		2	3.3%
(1995年) 卒業・修了後18年				0	0.0%
(1996年) 卒業・修了後17年		1		1	1.6%
(1997年) 卒業・修了後16年	4	1	2	7	11.5%
(1998年) 卒業・修了後15年	3	2		5	8.2%
(1999年) 卒業・修了後14年	1	2		3	4.9%
(2000年) 卒業・修了後13年	2	1	1	4	6.6%
(2001年) 卒業・修了後12年	4		1	5	8.2%
(2002年) 卒業・修了後11年		1		1	1.6%
(2003年) 卒業・修了後10年	1	3	1	5	8.2%
(2004年) 卒業・修了後 9年			1	1	1.6%
(2005年) 卒業・修了後 8年	1	1		2	3.3%
(2006年) 卒業・修了後 7年	1	2		3	4.9%
(2007年) 卒業・修了後 6年	1			1	1.6%
(2008年) 卒業・修了後 5年	2	1		3	4.9%
(2009年) 卒業・修了後 4年	2	2		4	6.6%
(2010年) 卒業・修了後 3年	2	1		3	4.9%
(2011年) 卒業・修了後 2年	2	2	1	5	8.2%
(2012年) 卒業・修了後 1年	3		1	4	6.6%
空白		1		1	1.6%
計	29	24	8	61	100%

【資料 8-6】総合人間学部 卒業生対象アンケート（平成 29 年 3 月実施）

		平成26年3月卒業生 (総合人間学部)
		対象者数 113
		回答者数 30
		回答率 26.5%
(Q.01) 現在の身分についてお答えください	A. 学生	20.0
	B. 社会人	80.0
	C. その他	0.0
	D. 無回答	0.0
	計	100.0
(Q.02) Q.01 で「学生」とお答えされた方にお聞きします。当てはまるのは次のうちどれですか	A. 京都大学	13.3
	B. 他大学	6.7
	C. その他	0.0
	D. 無回答	80.0
	計	100.0
(Q.3) Q.01で「社会人」とお答えされた方にお聞きします。当てはまるのは次のうちどれですか	A. 就労者	80.0
	B. 非就労者	0.0
	C. 無回答	20.0
	計	100.0
(Q.04) 本学での学習により身についた、卒業後に役立つ能力を選択してください(複数選択可)	A. 幅広い教養・知識	73.3
	B. 専門的な知識と技術	13.3
	C. 国際性(外国のことを理解する力及び日本のことを伝える力)	26.7
	D. 企画力、創造的思考力	30.0
	E. 実行力	23.3
	F. 協調性(チームワーク)	23.3
	G. コミュニケーション能力	33.3
	H. リーダーシップ	10.0
	I. たくましさ(問題解決力)	26.7
	J. 自己管理能力	40.0
	K. 倫理観	6.7
	L. その他	3.3
	M. 無回答	6.7
(Q.06) 本学での学習では身につかなかった能力を以下より選択してください(複数選択可)	A. 幅広い教養・知識	3.3
	B. 専門的な知識と技術	40.0
	C. 国際性(外国のことを理解する力及び日本のことを伝える力)	30.0
	D. 企画力、創造的思考力	13.3
	E. 実行力	23.3
	F. 協調性(チームワーク)	13.3
	G. コミュニケーション能力	13.3
	H. リーダーシップ	36.7
	I. たくましさ(問題解決力)	10.0
	J. 自己管理能力	13.3
	K. 倫理観	16.7
	L. その他	3.3
	M. 無回答	3.3
(Q.08) 総合人間学部の副専攻に関してお答えください。副専攻から得るものは大きかったですか	A. 大きかった	20.0
	B. 大きいとは言えないが、得るものがあった	46.7
	C. ある程度は得るものがあった	20.0
	D. 得るものはあまりなかった	13.3
	E. 無回答	0.0
	計	100.0
(Q.10) 総合人間学部の卒業論文・卒業研究、及びそれにかかわる勉学は現在役立っていますか	A. 非常に役に立っている	26.7
	B. 少しは役に立っている	46.7
	C. どちらともいえない	10.0
	D. ほとんど役に立っていない	6.7
	E. まったく役に立っていない	10.0
	F. 無回答	0.0
	計	100.1

【資料 8-7】人間・環境学研究科 修了生対象アンケート（平成 29 年 10 月実施）

		平成26年3月修了生 (修士課程・博士後期課程)	
		対象者数	86
		回答者数	17
		回答率	19.8%
(Q.01) 現在の身分についてお答えください	A. 学生		11.8%
	B. 社会人		88.2%
	C. その他		0.0%
	D. 無回答		0.0%
	計		100.0%
(Q.02) Q.01 で「学生」とお答えされた方にお聞きします。当てはまるのは次のうちどれですか	A. 京都大学		100.0%
	B. 他大学		0.0%
	C. その他		0.0%
	D. 無回答		0.0%
	計		100.0%
(Q.03) Q.01で「社会人」とお答えされた方にお聞きします。当てはまるのは次のうちどれですか	A. 就労者		100.0%
	B. 非就労者		0.0%
	C. 無回答		0.0%
	計		100.0%
	(Q.04) 人間・環境学研究科での学習により身についた、修了後に役立つ能力を選択してください(複数選択可)	A. 幅広い教養・知識	
B. 専門的な知識と技術			82.4%
C. 国際性(外国のことを理解する力及び日本のことを伝える力)			23.5%
D. 企画力、創造的思考力			35.3%
E. 実行力			47.1%
F. 協調性(チームワーク)			17.6%
G. コミュニケーション能力			41.2%
H. リーダーシップ			11.8%
I. たくましさ(問題解決力)			64.7%
J. 自己管理力			35.3%
K. 倫理観			17.6%
L. その他			0.0%
M. 無回答			0.0%
(Q.06) 人間・環境学研究科での学習では身につかなかった能力を選択してください(複数選択可)	A. 幅広い教養・知識		0.0%
	B. 専門的な知識と技術		11.8%
	C. 国際性(外国のことを理解する力及び日本のことを伝える力)		23.5%
	D. 企画力、創造的思考力		23.5%
	E. 実行力		11.8%
	F. 協調性(チームワーク)		23.5%
	G. コミュニケーション能力		5.9%
	H. リーダーシップ		35.3%
	I. たくましさ(問題解決力)		5.9%
	J. 自己管理力		23.5%
	K. 倫理観		17.6%
	L. 無回答		17.6%
	(Q.08) 【修士修了者】 修士論文に関わる研究、およびそれに伴う勉学は現在役立っていますか	A. 非常に役に立っている	
B. 少しは役に立っている			58.8%
C. どちらともいえない			0.0%
D. ほとんど役に立っていない			0.0%
E. まったく役に立っていない			0.0%
F. 無回答			0.0%
計			100.0%
(Q.10) 【修士修了者】 人間・環境学研究科修士課程を修了したことは良かったと思いますか	A. とても良かったと思う		64.7%
	B. 良かったと思う		35.3%
	C. どちらともいえない		0.0%
	D. 良くなかった		0.0%
	E. 無回答		0.0%
	計		100.0%
(Q.11) 【博士後期課程修了者】 博士論文に関わる研究、およびそれに伴う勉学は現在役立っていますか	A. 非常に役に立っている		71.4%
	B. 少しは役に立っている		28.6%
	C. どちらともいえない		0.0%
	D. ほとんど役に立っていない		0.0%
	E. まったく役に立っていない		0.0%
	F. 無回答		0.0%
	計		100.0%
(Q.13) 【博士後期課程修了者】 人間・環境学研究科博士後期課程を修了したことは良かったと思いますか？	A. とても良かったと思う		57.1%
	B. 良かったと思う		42.9%
	C. どちらともいえない		0.0%
	D. 良くなかった		0.0%
	E. 無回答		0.0%
	計		100.0%

【資料 8-8】「社会が見た京都大学総合人間学部・大学院人間・環境学研究科」アンケート調査（平成 27 年度実施）

※アンケート結果は、平成 27 年 11 月に本学部・研究科学生の就職実績のある企業 71 社に依頼し回答を得て作成したものである。

平成 27 年 1 月 13 日

京都大学大学院人間・環境学研究科  
自己点検・評価委員会  
委員長 石川 尚人

自己点検・評価のためのアンケート調査  
「社会が見た京都大学総合人間学部・大学院人間・環境学研究科」  
ご協力をお願い

拝啓 晩秋の候、貴社ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。  
平素より、京都大学の教育・研究活動に対しましてご高配を賜り、  
厚く御礼申し上げます。

京都大学総合人間学部／大学院人間・環境学研究科では、教育研究水準の向上に資するために自己点検・評価を実施しております。  
その際「進路・就職の状況」を分析するにあたり、本学部卒業生／研究科修了生が、産業界でどのように評価されているのかをお伺い  
したく、標記のアンケートを実施することにいたしました。

つきましては、本学部卒業生、ならびに本研究科修士課程修了生の就職実績のある御社の人事・採用・教育等御担当の方に、本学部・研究科の教育活動を企業等社会から見た立場で評価をしていただきたく、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

集計の際に企業名や個人が特定されるような分析・公表は行いません。また、ご回答いただいた内容は厳重に管理し、標記の自己点検・評価の目的以外の利用はいたしません。

なお、誠に勝手ながら、ご記入いただきましたアンケート調査票は、同封の返信用封筒にて、平成 27 年 1 月 11 日（金）までにご投函いただけましたら幸いです。

大変お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、何卒ご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

本学部・研究科の教育研究上の目的と方針につきましては、同封の『人環レビュー資料編 2014』該当頁をご覧ください。また、本学部・研究科の教育研究活動についてコメントいただけましたら幸いです。

- 総合人間学部 教育研究上の目的と方針 5 頁
- 学部卒業生の就職状況 25 頁（【資料 2-19】）
- 人間・環境学研究科 教育研究上の目的と方針 3 頁
- 修士課程修了者の就職状況 34 頁（【資料 3-20】）
- 前回（平成 22 年度）に実施した企業アンケートの結果 82 頁（【資料 8-4】）

【ご返送・お問い合わせ先】  
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町  
京都大学大学院人間・環境学研究科  
自己点検・評価委員会 総務企画室  
TEL：075-753-6599（10:00～17:00）  
FAX：075-753-2957

〈アンケート調査票〉

以下の質問について、ご記入又は適当と思われる項目に○印をお付けください。

【1】貴社の業種を 1～12 よりお選びください。

1. 農林漁業・鉱業 2. 建設業 3. 製造業
4. 電気・ガス・水道等 5. 運輸・通信 6. 卸売・小売
7. 金融・保険 8. 不動産 9. サービス 10. 官公庁・法人
11. 教育研究機関 12. その他（ ）

【2】貴社の従業員数をお聞かせください（本社、支社等含む）。

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 30 人未満              | 2. 30 人以上 100 人未満       |
| 3. 100 人以上 300 人未満     | 4. 300 人以上 500 人未満      |
| 5. 500 人以上 1,000 人未満   | 6. 1,000 人以上 3,000 人未満  |
| 7. 3,000 人以上 5,000 人未満 | 8. 5,000 人以上 10,000 人未満 |
| 9. 10,000 人以上          |                         |

【3】総合人間学部卒業生、人間・環境学研究科修了生の採用にあたって、重視されるのはどのような点でしょうか。5段階評価で、最高評価を 5 とし、各々該当する 5～1 の数字に○印を付けてください。

1. 学力（広い知識・専門的知識）
2. 創造性
3. 先見性
4. 判断力
5. コミュニケーション力
6. 協調性
7. 主体性
8. 実行力
9. 柔軟性
10. 責任感
11. 社会性
12. 倫理観
13. 即戦力

【4】本学部・研究科に対し、どのような人材の育成を期待されていますか。自由にお書きください。

【5】総合人間学部卒業生、人間・環境学研究科修了生の印象についてお聞かせください。5段階評価で、最高評価を 5 とし、各々該当する 5～1 の数字に○印を付けてください。

1. 幅広い知識を身に付けている。
2. 高度な専門的知識・技術力を身に付けている。
3. 高度な人権意識、環境意識を備えている。
4. 理解力や判断力が優れている。
5. コミュニケーション能力が優れている。
6. 自ら課題を発見し、設定する創造性がある。
7. チームの中で仕事を遂行する協調性がある。
8. 新たな課題に挑戦する意欲がある。
9. 未来への明確なビジョンをもつ先見性がある。
10. 総合的に判断して、優れている。

【6】卒業生や修了生を採用された立場から、本学部・研究科の教育についてご意見がございましたら、自由にご記入ください

【1】貴事業所はどのような業種ですか。

製造業	30.8 %
電気・ガス・水道業	7.7 %
運輸・通信	15.4 %
卸売・小売	7.7 %
金融・保険	7.7 %
サービス	7.7 %
その他	23.1 %

【2】貴事業所の従業員数（本社、支社等を含む）はおおよそ何人ですか。

500人以上 1,000人未満	7.7 %
1,000人以上 3,000人未満	23.1 %
3,000人以上 5,000人未満	30.8 %
5,000人以上 10,000人未満	15.4 %
10,000人以上	23.1 %

【3】総合人間学部卒業生、人間・環境学研究科修士の採用にあたって重視されるのはどのような点でしょうか。5段階評価で、最高評価を⑤として、各々該当する⑤～①の数字に○印を付けてください。

(%)

	①重視しない	②あまり重視しない	③普通	④やや重視する	⑤重視する
1. 学力(広い知識・専門的知識)	0.0	0.0	0.0	63.6	36.4
2. 創造性	0.0	0.0	25.0	58.3	16.7
3. 先見性	0.0	0.0	33.3	41.7	25.0
4. 判断力	0.0	0.0	16.7	41.7	41.7
5. コミュニケーション力	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0
6. 協調性	0.0	0.0	8.3	33.3	58.3
7. 主体性	0.0	0.0	0.0	8.3	91.7
8. 実行力	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7
9. 柔軟性	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
10. 責任感	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0
11. 社会性	0.0	0.0	8.3	41.7	50.0
12. 倫理観	0.0	0.0	8.3	33.3	58.3
13. 即戦力	8.3	33.3	41.7	8.3	8.3

【5】総合人間学部卒業生、人間・環境学研究科修士の印象についてお聞かせください。最高評価を⑤として、各々該当する⑤～①の数字に○印を付けて下さい。

(%)

	①思わない	②あまり思わない	③普通	④やや思う	⑤思う
1. 幅広い知識を身に付けている	0.0	0.0	14.3	28.6	57.1
2. 高度な専門的知識・技術力を身に付けている	0.0	0.0	22.2	33.3	44.4
3. 高度な人権意識、環境意識を備えている	0.0	0.0	11.1	44.4	44.4
4. 理解力や判断力が優れている	0.0	0.0	0.0	55.6	44.4
5. コミュニケーション能力が優れている	0.0	0.0	22.2	22.2	55.6
6. 自ら課題を発見し、設定する創造性がある	0.0	0.0	0.0	44.4	55.6
7. チームの中で仕事を遂行する協調性がある	0.0	0.0	11.1	22.2	66.7
8. 新たな課題に挑戦する意欲がある	0.0	0.0	0.0	44.4	55.6
9. 未来への明確なヴィジョンをもつ先見性がある	0.0	0.0	11.1	44.4	44.4
10. 総合的に判断して、優れている	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7

**【資料 8-9】 総合人間学部入学者出身高校へのアンケート調査 (平成 28 年度実施)**

(送付件数 93 回答数 52 回答率 55.9%)

**1. 総合人間学部について**

(1) 総合人間学部について、すでにご存知のことを教えてください (複数選択可)	a. 学部の規模 (学生数、教員数)	27	51.9%
	b. 学部の構成 (5学系、理系・文系分野の共存)	46	88.5%
	c. 教育の方針 (アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)	19	36.5%
	d. 入試に関する情報 (通常学部入試、特色入試)	46	88.5%
	e. 在籍教員の名前や研究内容 (1名以上)	6	11.5%
	f. カリキュラム (カリキュラムの体系、コースツリー)	3	5.8%
	g. 副専攻制度の存在	8	15.4%
	h. 卒業生の進路状況	7	13.5%
(2) 総合人間学部に関する情報をご存知のことで得られますか (複数選択可)	a. 京都大学のホームページ	43	82.7%
	b. 総合人間学部のホームページ	37	71.2%
	c. a, b 以外のインターネット情報	3	5.8%
	d. 京都大学が作成している大学紹介の冊子類	28	53.8%
	e. 総合人間学部が作成している冊子類	18	34.6%
	f. 入試関係の情報雑誌	25	48.1%
	g. d,e,f 以外の新聞・雑誌類	2	3.8%
	h. 予備校	9	17.3%
	i. 貴校の卒業生	25	48.1%
	j. ご同僚や他校の教員	6	11.5%
	k. 総合人間学部や京都大学の教員	4	7.7%
(3) 総合人間学部の印象を率直にお聞かせください (複数選択可)	a. 特色ある教育・研究をしている、またはそれが期待できる	28	53.8%
	b. 他の学部との違いがわからない、特徴が見えにくい	14	26.9%
	c. 文理融合の学部である	46	88.5%
	d. 文系の学部である	0	0.0%
	e. 理系の学部である	0	0.0%
(4) 総合人間学部のオープンキャンパスへの参加を勧めていますか	a. はい	25	48.1%
	b. いいえ	23	44.2%
(5) 学部紹介の目的で『人環レビュー 2013 教育・研究活動の自己評価』をご送付いたしました。その感想をお聞かせください (複数選択可)	a. 高校生に対して、また高校における進路指導において、有益な情報があつた	27	51.9%
	b. 高校生に対して、また高校における進路指導において、有益な情報はなかつた	3	5.8%
	d. 情報量が多く、利用しやすい	7	13.5%
	e. 情報量が多く、利用しにくい	8	15.4%

**2. 総合人間学部への進路指導について**

(1) 特定の大学・学部への進路指導はいつから行っていますか	a. 1年次から	19	36.5%
	b. 2年次から	16	30.8%
	c. 3年次前半	5	9.6%
	d. 3年次後半	3	5.8%
	e. その他 -1. 随時・適宜	3	5.8%
	e. その他 -2. していない	7	13.5%

## 2. 総合人間学部への進路指導について

(2) どのような生徒に対して、総合人間学部への進学を勧めておられますか (複数選択可)	a. 生徒にとって興味のある研究分野(または教員)が総合人間学部にある	33	63.5%
	b. 理系と文系の分野の両方に興味・関心があり、両方を学ぶ希望がある	25	48.1%
	c. 理系内、文系内の複数の領域に興味・関心がある	23	44.2%
	d. 理系か文系か、またその系内の分野での進路の選択を決めかねている (志望が定まっていない)	15	28.8%
	e. 理系科目が得意な文系志望の生徒	0	0.0%
	f. 文系科目が得意な理系志望の生徒	0	0.0%
(3) 特定の学部への進路指導をする際に有益な、また必要な情報は何ですか (複数選択可)	a. 学部内の研究分野の構成とその内容	43	82.7%
	b. 教員個々の研究分野とその内容	26	50.0%
	c. 学部の教育の方針	14	26.9%
	d. カリキュラム構成	15	28.8%
	e. 学部の教育・研究活動の状況	31	59.6%
	f. 在学生の活動の状況	13	25.0%
	g. 在学生の所属学部に対する意見・評価	8	15.4%
	h. 卒業後の進路の状況	26	50.0%
(4) 総合人間学部への進路指導をする際に、(3)の事項を含め、情報は十分にお持ちでしょうか	a. 十分	20	38.5%
	b. 不十分	29	55.8%

## 3. 高大連携について

(1) 現在貴校で行っている高大連携の企画・事業がありましたら、教えてください	<b>A. 高校で実施</b>			
	A-1. 出張講義	20	38.5%	
	A-2. 講演会	3	5.8%	
	A-3. 研究指導	2	3.8%	
	A-4. 高校訪問 (卒業生の母校訪問、入試ガイダンス、大学合同ガイダンス、キャリアガイダンス)	4	7.7%	
	<b>B. 大学で実施</b>			
	B-1. 講義	6	11.5%	
	B-2. 実習実験	1	1.9%	
	B-3. 研究(研究体験)	3	5.8%	
	B-4. 講演会・WS参加	1	1.9%	
	B-5. 大学・研究室訪問	11	21.2%	
	<b>C. 高大連携事業</b>			
	C-1. 文科省 SGH	3	5.8%	
	C-2. 文科省 SSH	4	7.7%	
	C-3. 高校独自・地方自治体・他大学など	9	17.3%	
	C-4. 京都大学(学びのコーディネーター、サマースクール、ELCAS)	10	19.2%	
	(2) 高大連携として、大学に希望される企画をお聞かせください。特に、総合人間学部に希望する企画がありましたら、ご指摘ください (複数選択可)	a. 貴校での授業や講演会	28	53.8%
		b. 生徒への学部紹介のための高校訪問	9	17.3%
		c. 教員(特に進路指導担当教員)を対象としての学部説明会	5	9.6%
d. 貴校の教育活動(課内・課外)へのサポート (指導・助言、実験等の設備・スペースの提供)		12	23.1%	
e. 学部や研究室の見学(訪問)の受入		40	76.9%	
f. 大学・学部側での模擬講義や模擬実習・演習		22	42.3%	
g. 大学・学部側での高校生を受入れた研究活動		19	36.5%	



## 京都大学大学院人間・環境学研究科

### 『人環レビュー』編集委員会

委員長 石川 尚人 (相関環境学専攻)  
副委員長 宮下 英明 (相関環境学専攻)  
委員 倉石 一郎 (共生人間学専攻)  
小島 基洋 ( 同 上 )  
江田 憲治 (共生文明学専攻)  
須田 千里 ( 同 上 )  
桂山 康司 ( 同 上 )  
山村 亜希 ( 同 上 )  
小木曾 哲 (相関環境学専攻)  
木下 俊哉 ( 同 上 )

---

## 人環レビュー 資料編 2017

教育・研究活動の自己評価 資料編

2018年3月発行

編集・発行 京都大学大学院人間・環境学研究科

〒 606-8501 京都市左京区吉田二本松町

TEL: 075-753-6599(総務企画室) FAX: 075-753-7908

<https://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

印刷・製本 有限会社レイ・プリンティング

---

©2016 Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University

本誌の無断転写・転載を禁じます。